



F50F
F60C
FT60D
F70A

船外機取扱説明書

⚠ 船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。

6C1-28199-08

JMU25052

船外機をご使用になる前に取扱説明書をよくお読みになりお使いください。航海する時は、本書を防水バッグなどに入れて、お客様のボートの適切な場所に保管してください。船外機を売却される場合は、本書を添付してください。

お客様へ

ヤマハ船外機をお買い上げ戴きまことにありがとうございます。

この取扱説明書は、船外機の正しい取り扱い方法と簡単な点検、整備について説明してあります。

万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。

船外機の取り扱いを十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、またご使用時には携帯し安全快適なマリンスライフをお楽しみください。

本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

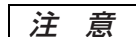
 安全警告記号です。人身傷害の危険性がある場合にこの記号で注意を喚起しています。この記号に続く全ての安全事項を守り、傷害や死亡事故を防止してください。

JWM00781



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷及び傷害に至る可能性がある場合を示しています。

JCM00701



取り扱いを誤った場合、船外機または他の物的損害に至る可能性がある場合を示しています。

要 点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

取扱説明書、整備手帳及び保証書について
仕様の変更などにより、図や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。

本書は大切に保管し、船外機本体を転売や譲渡等される場合は必ず添付してください。

整備手帳には保証書とともに定期点検整備の方式、および定期点検記録簿が入っております。あなたの船外機の維持管理にご活用ください。

保証書はよくお読みいただき裏面の取扱店名、捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

製品を長くご愛顧頂く為に

この取扱説明書に従った製品の正しい取り扱いや、指定の定期点検／保守を行っていただくことを推奨致します。上記の注意事項に従わずに何らかの損害が発生した場合、保証の対象外になりますのでご注意ください。

製品を国外へお持ち出しのお客様へ

国によっては法令／規制の関係で持ち出す事が出来なかったり、登録出来なかったりする可能性があります。また、保証が一部地域で適用されない場合もございます。もしお客様が製品を国外へ持ち出して使う場合は、詳細を購入販売店に相談してください。

製品の個人転売を受けたお客様へ

お客様再登録のため最寄の販売店にご相談していただき、所定のサービスを受けられる様にしてください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。
ヤマハ取扱店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

要 点

本書では内容や図は F50FEHD, F50FET, F60CET, F70AEHT, F70AET, FT60DET を基本に標準的な装備品を想定して説明しております。モデルや仕様によっては適合しない項目もあります。

目次

安全にご使用するにあたって	1	燃料に関する項目	14
安全にお使いいただくために	1	ガソリン	14
プロペラ	1	船底の清掃	15
回転部品	1	船外機の廃棄に関する項目	15
高温部品	1	非常時の装備	15
感電の危険性	1	構成部品	16
パワートリムアンドチルト	1	各部の名称	16
カールコード	1	燃料タンク	19
ガソリン	2	燃料ホースコネクタ	20
ガソリンの蒸発と流出の注意	2	燃料計	20
一酸化炭素	2	燃料タンクキャップ	20
改造	2	エアベントスクリュ	20
ボート運転安全性	2	リモートコントロールボックス	20
飲酒と薬の服用について	2	リモコンレバー	20
ライフジャケット	2	ニュートラルインタロック	20
遊泳者への注意	2	ニュートラルスロットルレバー	21
乗船者	2	ティラハンドル	21
過積載	2	ギヤシフトレバー	21
衝突を回避する	3	スロットルコントロール	
天候	3	グリップ	21
乗船者の訓練	3	スロットルインジケータ	21
ボート航行の安全に関する告知	3	スロットルフリクション	
法令および規制	3	アジャスタ	22
お使いいただく前に	4	緊急エンジン停止スイッチ	22
製造番号の記録	4	エンジンスイッチ	23
船外機製造番号	4	ステアリングフリクション	
キーナンバ	4	アジャスタ	23
マニュアル類と製品安全ラベルを お読みください	5	PTT スイッチ	
警告ラベル	5	(ティラハンドル仕様／ リモートコントロール仕様)	24
基本事項と仕様諸元	9	PTT スイッチ	
仕様諸元	9	(ボトムカウル用)	24
ボートへの設置条件	11	トローリングエンジン回転数調整	
ボートの定格馬力	11	スイッチ	25
船外機の取り付け	11	トリムタブ (アノード付仕様)	25
リモートコントロールに 必要なもの	11	チルトピン	26
バッテリーに関する項目	12	チルトロック機構	26
バッテリーの仕様	12	チルトサポートレバー	
バッテリーの設置	12	(パワートリムアンド チルト仕様／ハイドロチルト 仕様)	26
複数のバッテリーを使用する	12	カウルロックレバー (回転式)	27
プロペラ	12	水洗装置	27
始動安全装置	13	水検知スイッチ付燃料フィルタ	27
エンジンオイルに関する項目	13	警報灯	28
ギヤオイル	14		

計器類・警報灯／表示	29	エンジンオイルの補給.....	45
警報灯	29	慣らし運転.....	45
油圧低下警報表示.....	29	ボートをよく知ろう	45
オーバーヒート警報灯.....	29	始動前点検.....	45
デジタルタコメータ	29	燃料残量.....	46
タコメータ	30	トップカウルの取り外し.....	46
トリムメータ	30	燃料系統.....	46
アワーメータ	30	コントロールシステムの点検.....	46
油圧低下警報表示.....	30	カールコード.....	47
オーバーヒート警報表示.....	30	エンジンオイル	47
デジタルスピードメータ.....	31	船外機本体.....	48
スピードメータ.....	31	水洗装置.....	48
燃料計	31	トップカウルの取り付け.....	48
トリップメータ／時計／電圧計	32	パワートリムアンドチルト	
燃料レベル警報表示.....	32	ユニットの点検.....	49
バッテリー電圧警報表示.....	33	バッテリー.....	50
アナログタコメータ		使用後の点検.....	50
(エンジン回転計)	33	燃料タンクへの給油	50
油圧低下警報灯.....	33	エンジン操作.....	51
オーバーヒート警報灯.....	33	燃料供給	
アナログトリムメータ.....	34	(燃料タンク別体仕様)	51
コマンドリンクマルチ		エンジン始動.....	52
ファンクションメーター.....	34	エンジン始動後の点検	55
タコメーターユニット.....	34	冷却水.....	55
出航前の点検	35	暖機運転.....	55
トローリング回転数の調整	35	手動／電動始動仕様	55
油圧低下警報	36	暖機運転後の点検	56
オーバーヒート警報.....	36	シフト操作.....	56
水検知警報	37	エンジン停止スイッチ.....	56
エンジン異常警報.....	37	前進／後進.....	56
バッテリー電圧警報.....	38	停船.....	57
スピード＆フューエルメーター		トローリング操作	58
ユニット.....	38	トローリングエンジン回転数の	
スピードメーターユニット.....	39	調整.....	58
フューエルマネジメント		エンジン停止.....	58
メーターユニット	40	エンジン停止ボタン／	
エンジン制御装置	41	エンジンスイッチ仕様	58
警報装置.....	41	船外機トリム角度	59
オーバーヒート警報.....	41	トリム角度の調整	
油圧低下警報	42	(パワートリムアンド	
船外機の取り付け	43	チルト仕様).....	60
船外機の取り付け	43	トリム角度の調整	
船外機の取り付け.....	43	(ハイドロチルト仕様)	60
運転と操作	45	トリム角度の設定とボートの	
初めてお使いになる前に.....	45	取り扱い	61

目次

チルトアップ／ダウン.....	62	不具合時の対応.....	91
チルトアップ		故障と対策.....	91
(ハイドロチルト仕様).....	62	応急処置.....	94
チルトアップ		衝撃を受けた場合.....	94
(パワートリムアンド		ヒューズの交換.....	94
チルト仕様).....	63	パワートリムアンドチルトが	
チルトダウン		作動しない場合.....	95
(ハイドロチルト仕様).....	64	航走中に水分離警報が作動した	
チルトダウン		場合.....	96
(パワートリムアンド		スタータモータが動かない場合.....	99
チルト仕様).....	64	応急始動.....	99
浅瀬航走.....	65	船外機を水中に落とした場合.....	100
ハイドロチルト仕様.....	65	ご相談窓口.....	101
パワートリムアンドチルト仕様.....	66	お客様ご相談窓口のご案内.....	101
他の航走状況.....	67		
点検と整備.....	68		
運搬と保管.....	68		
長期保管.....	68		
保管手順.....	69		
エンジン内部冷却経路の洗浄.....	70		
船外機の清掃.....	72		
船外機外装の点検.....	72		
使用前／使用后点検.....	73		
使用前／使用后点検表.....	73		
定期点検.....	73		
シビアコンディション.....	74		
定期点検表1.....	75		
定期点検表2.....	77		
グリス給脂箇所.....	78		
スパークプラグの点検.....	81		
アイドリングスピード			
(無負荷最低速回転)の点検.....	82		
エンジンオイルの交換.....	82		
配線と各接続部の点検.....	84		
プロペラの点検.....	84		
プロペラの取り外し.....	85		
プロペラの取り付け.....	85		
ギヤオイルの交換.....	86		
専用燃料タンクの清掃.....	87		
アノードの点検.....	87		
バッテリーの点検(電動始動仕様)...	88		
バッテリーの取り付け.....	89		
バッテリーの取り外し.....	89		
付属工具と部品.....	90		

JMU33622

安全にお使いいただくために

船外機特有の安全に係わる特性を、以下に記述します。危害を避けるために、指示された内容を守ってください。

JMU336501

プロペラ

プロペラに接触すると、負傷または死亡する恐れがあります。船外機のシフトが中立（ニュートラル）の時でもプロペラは回転を続ける可能性があります。またプロペラが止まっている状態でも、鋭利な縁で身体を切る恐れがあります。

- ボート付近に遊泳者がいるときは、直ちにエンジンを停止してください。
- エンジンが停止している時でも、プロペラの回転範囲内に近づかないようにしてください。

JMU33630

回転部品

手や足、髪、装飾品、衣服、ライフジャケットのストラップなどが、エンジン内部の回転部品に挟まれたり、あるいは巻き込まれて負傷したり死亡する危険があります。

トップカウルは、可能な限り取付けておいてください。エンジンを運転させたままトップカウルを外したり、交換したりしないでください。

トップカウルを外してエンジンを始動する時は、本書に示された手順に従ってください。トップカウルを外した時は、手や足、髪、装飾品、衣服、ライフジャケットのストラップなどを可動部品に近づけないでください。

JMU33640

高温部品

エンジン運転中および停止直後は、エンジンの各部品の表面は高温状態で、火傷の恐れがあります。エンジンが冷えるまでは、トップカウル内の各部品に手を触れないでください。

JMU33650

感電の危険性

運転中は、電装品には触らないでください。感電したり、感電死する恐れがあります。

JMU33660

パワートリムアンドチルト

トリム / チルト角度を調整するときは、船外機の周辺に人が居ないことを確認し、身体が挟まれないように注意をして行なってください。チルトアップ / ダウンの操作をするときは、付近に人が居ないこと確認してください。

PTT スイッチは、メインスイッチがオフ（切）の時でも動作します。エンジンのまわりで作業するときは、PTT スイッチに近づかないでください。

チルトアップしているときは、チルトサポートレバーで保持している場合でも船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあります。

JMU33671

カールコード

カールコードは、操船者が誤ってボートから水中に落ちた場合や、運転席から離れた場合に、エンジンを停止できるよう衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。こうすることにより、ボートが無人で航行することを防止し、また遊泳者や障害物に衝突することを防止できます。

エンジン運転中は、カールコードを常に衣服の安全な部分、腕、または足に付けてください。ボートの航行中は、運転席から離れるためにカールコードを外さないでください。カールコードが正しく機能するように、カールコードを衣服の外れやすい部分に付けたり、絡まないようにしてください。

カールコードは誤って引っ張られないようにしてください。エンジン運転中にカールコードを引くと、エンジンが急停止し操船出来なくなります。また、ボートの速度が急減速し、乗船者や物が船外に投げ出される恐れ

安全にご使用するにあたって

があります。

JMU33810

ガソリン

ガソリンは引火性です。火災や爆発の危険を避けるために、給油は 51 ページの手順に従ってください。

JMU33820

ガソリンの蒸発と流出の注意

ガソリンをこぼさないように、取り扱いには十分に注意して行なってください。万一ガソリンがこぼれた場合は、乾いた布ですぐに拭き取ってください。ガソリンを拭いた布は、正しい方法で廃棄してください。

ガソリンがこぼれて皮膚についた場合は、ただちに石けんと水で洗い流してください。ガソリンが衣服に付着した場合は、着替え等を行ってください。

誤ってガソリンを飲み込んだ場合、気化したガソリンを大量に吸い込んだ場合、またはガソリンが目に入った場合は、ただちに医師の診断を受けてください。決して、ホースの端を口にくわえてガソリンを吸い上げたりしないでください。

JMU33900

一酸化炭素

排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。

JMU33780

改造

船外機は改造しないでください。船外機を改造すると安全性や信頼性が低下し、危険だけでなく法律違反となります。

JMU33740

ボート運転安全性

この項では、航行時に守らなければならない安全上の大切な注意事項が示されています。

JMU33710

飲酒と薬の服用について

飲酒または薬を服用した後は、ボートを操船しないでください。ボートの死亡事故のもつ

とも一般的な原因の一つが、酔った状態での操船によるものです。

JMU33720

ライフジャケット

認定されたライフジャケットを人数分、ボートに備えてください。乗船者はライフジャケットの着用が義務付けられています。少なくとも、お子様や泳ぎの得意でない人はライフジャケットを常に着用しなければならず、またボートの運転には常に危険が伴います。従って全員がライフジャケットを着用しなければなりません。

JMU33731

遊泳者への注意

航行中は、スキヤー、ダイバーなどの遊泳者に注意してください。ボート付近に遊泳者がいる時は、シフトを中立（ニュートラル）にして、エンジンを停止してください。遊泳者は見えにくいので海水浴場には近づかないでください。

プロペラはシフトが中立（ニュートラル）の位置でも回転します。付近に遊泳者がいる時は、エンジンを停止してください。

JMU33751

乗船者

ボート上の正しい乗船席をボートメーカーに確認し、アイドルスピード以上の速さで運転する場合は、乗員が正しい位置に座っている事を確認してください。立っていたり指定された場所以外に座っていると、波や航跡で、またはスピードや進路が急に変った場合に、船の内外に投げ出される可能性があります。乗員が指定の安全な場所に座っている場合でも、通常では行わないような運転をする場合は乗員に警告してください。波や航跡をジャンプする事は常に避けてください。

JMU33760

過積載

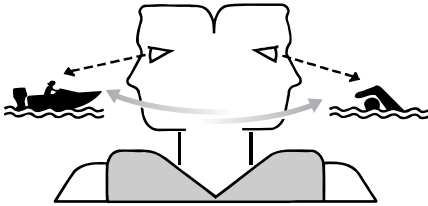
船体の最大積載量が超過しないようにしてください。船体の最大積載量や定員に関しては、船体に取付けられた銘板を参照するか、船体製造メーカーにご照会ください。船体製

造メーカーの指示内容に従い、重量を正しく分散するようにしてください。過積載または重量の偏りがあると、ボートの操船が難しくなり、事故、転覆、浸水の原因になります。

JMU33772

衝突を回避する

遊泳者、障害物、そして他のボートに常に注意を払ってください。視界が制限されたり妨げられる状況に警戒してください。



ZMU06025

遊泳者、障害物、他のボートから十分に安全な距離を保ち、回避できる安全な速度や距離を保って航行してください。

- 他のボートや水上スキーをしている人の背後を追走しないでください。
- 急旋回等、周囲の操船者が予想困難な航行は行わないでください。
- 水中物体のある水域や浅水域の航行は避けてください。
- 制御不能、衝突や、海に投げ出されたりするリスクを小さくするため、ご自身の能力の範囲内で運転し、無謀な操縦は避けてください。
- 衝突を避けるために、早めの対処をしてください。ボートにはブレーキがなく、またエンジンを停止したりスロットルを戻したりすると、操舵力が低下することを忘れないでください。障害物に衝突する前に停止するかどうか確信が持てない場合は、スロットルを入れて別方向に進んでください。

JMU33790

天候

常に最新の天候を知るようにしてください。出航する前に天気予報を確認してください。荒天時には決して出航しないでください。

JMU33880

乗船者の訓練

少なくとも 1 人の乗船者が、緊急時にボートを操舵する訓練を受けていることを確認してください。

JMU33890

ボート航行の安全に関する告知

ボート航行の安全に関する情報を常に入手してください。詳しい発表内容や情報は、ボート航行の安全のための多くの組織から入手できます。

JMU33600

法令および規制

ボートで航行する場合は、航行に関する法律および規則を理解し、それに従ってください。地域によっては一部の規則が優先されますが、基本的にはすべて International Rules of the Road(国際海上航行規則) と同じです。

お使いいただく前に

JMU25171

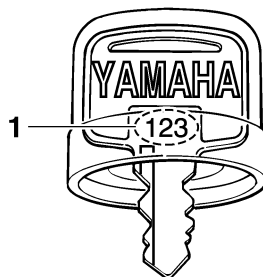
製造番号の記録

JMU25184

船外機製造番号

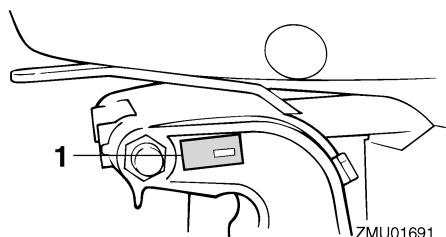
製造番号は、クランプブラケットの左舷側に貼ってあります。

ヤマハ取扱店への部品注文の際や盗難にあったときのために、空欄に番号を控えておくくと便利です。



ZMU01694

1. キーナンバ



ZMU01691

1. 船外機製造番号貼付場所



ZMU01692

JMU25191

キーナンバ

エンジンスイッチのキーにはイラストで示しているようにキーナンバが刻印されています。新しいキーが必要になった場合に備えて、空欄にキーナンバを控えておいてください。



ZMU01693

JMU33523

マニュアル類と製品安全ラベルをお読みください

船外機をご使用または整備を始める前に：

- 本書をお読みください。
- お客様のボートに備えられているマニュアル類はすべてをお読みください。
- 船外機とボートのすべてのラベルをお読みください。

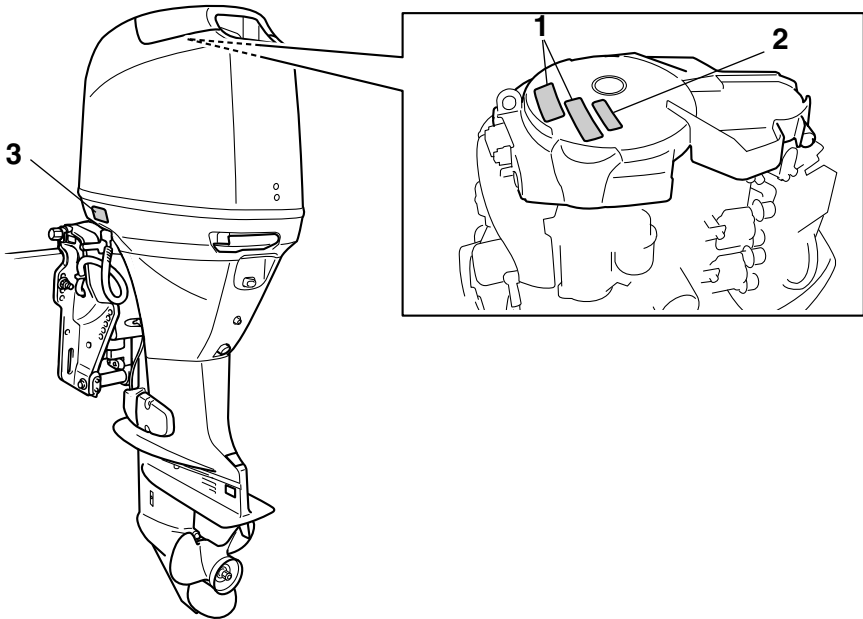
ご不明な点があれば、ヤマハ販売店にご相談ください。

JMU33832

警告ラベル

警告ラベルが損傷または紛失している場合は、ヤマハ取扱店で交換してください。

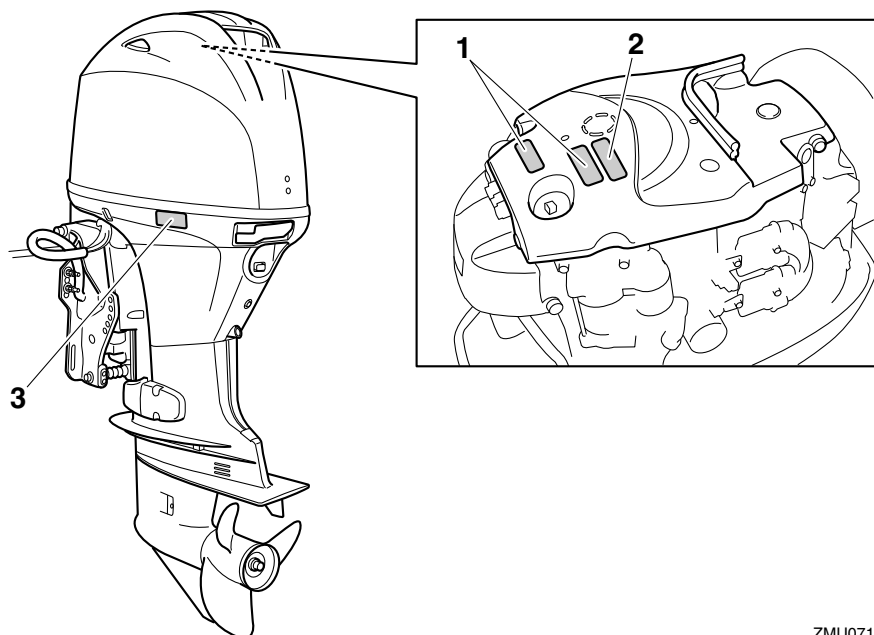
F50F, F60C, FT60D



ZMU05676

お使いいただく前に

F70A

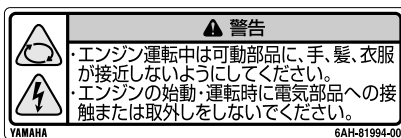


ZMU07102

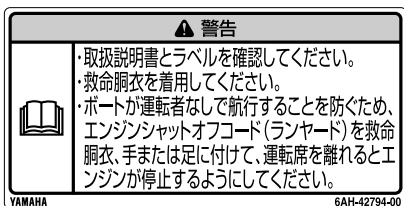
1



2



3



ZMU05671

お使いいただく前に

JMU33843

シンボル

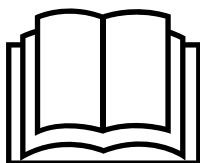
以下のシンボルは次のような意味を示します。

注意／警告



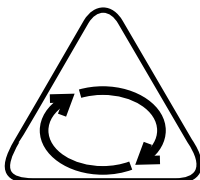
ZMU05696

マニュアル熟読



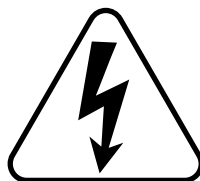
ZMU05664

回転物注意



ZMU05665

感電注意



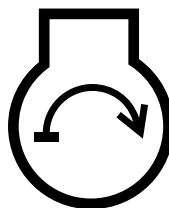
ZMU05666

リモコンレバー／ギヤシフトレバー操作方向、2方向



ZMU05667

エンジン起動



ZMU05668

JMU34521

仕様諸元

要 点

下記の仕様諸元内の“(アルミ)”は、アルミプロペラ装着時の数値を示します。

同様に“(ステンレス)”は、ステンレスプロペラ装着時、“(プラスチック)”は、プラスチックプロペラ装着時の数値を示します。

JMU3061C

寸法:

全長:

F50FEHD 1340 mm
F50FET 706 mm
F60CET 706 mm
F70AEHT 1379 mm
F70AET 713 mm
FT60DET 706 mm

全幅:

F50FEHD 385 mm
F50FET 385 mm
F60CET 385 mm
F70AEHT 386 mm
F70AET 386 mm
FT60DET 385 mm

全高 L:

F50FEHD 1414 mm
F50FET 1414 mm
F60CET 1414 mm
F70AEHT 1476 mm
F70AET 1476 mm
FT60DET 1455 mm

全高 X:

F50FET 1528 mm
F60CET 1528 mm
F70AEHT 1590 mm
F70AET 1590 mm
FT60DET 1569 mm

トランサム高さ L:

F50FEHD 527 mm
F50FET 527 mm

F60CET 527 mm
F70AEHT 534 mm
F70AET 534 mm
FT60DET 530 mm

トランサム高さ X:

F50FET 644 mm
F60CET 644 mm
F70AEHT 648 mm
F70AET 648 mm
FT60DET 644 mm

重量 (アルミ) L:

F50FEHD 111.0 kg
F50FET 113.0 kg
F60CET 113.0 kg
F70AEHT 119.0 kg
FT60DET 123.0 kg

重量 (アルミ) X:

F50FET 116.0 kg
F60CET 116.0 kg
F70AEHT 121.0 kg
FT60DET 127.0 kg

性能:

全速回転範囲:

F50FEHD 5000-6000 r/min
F50FET 5000-6000 r/min
F60CET 5000-6000 r/min
F70AEHT 5300-6300 r/min
F70AET 5300-6300 r/min
FT60DET 5000-6000 r/min

最高出力:

F50FEHD
36.8 kW@5500 r/min
F50FET 36.8 kW@5500 r/min
F60CET 44.1 kW@5500 r/min
F70AEHT
51.5 kW@5800 r/min
F70AET 51.5 kW@5800 r/min
FT60DET
44.1 kW@5500 r/min

アイドル回転数 (中立時):

750 ± 50 r/min

基本事項と仕様諸元

エンジン:

エンジン種別:

4ストローク L

総排気量:

996.0 cm³

内径 x 行程:

65.0 x 75.0 mm

点火方式:

T C I

抵抗付スパークプラグ (NGK):

F50FEHD DPR6EB-9

F50FET DPR6EB-9

F60CET DPR6EB-9

F70AEHT LKR7E

F70AET LKR7E

FT60DET DPR6EB-9

ギャップ (隙間):

0.8-0.9 mm

操作方式:

F50FEHD ティラハンドル

F50FET リモートコントロール

F60CET リモートコントロール

F70AEHT ティラハンドル

F70AET リモートコントロール

FT60DET リモートコントロール

始動方式:

電動スタータ

始動系:

電子燃料噴射

バルブクリアランス (冷機時) 吸気側:

0.15-0.25 mm

バルブクリアランス (冷機時) 排気側:

0.25-0.35 mm

バッテリー容量 (上限-下限):

65D31-95E41

最大発電出力:

F50FEHD 16 A

F50FET 16 A

F60CET 16 A

F70AEHT 15 A

F70AET 15 A

FT60DET 16 A

ドライブユニット:

ギヤシフト位置:

F-N-R

減速比:

F50FEHD 1.85(24/13)

F50FET 1.85(24/13)

F60CET 1.85(24/13)

F70AEHT 2.33(28/12)

F70AET 2.33(28/12)

FT60DET 2.33(28/12)

トリム / チルト方式:

F50FEHD ハイドロチルト

F50FET パワートリム /

パワーチルト

F60CET パワートリム /

パワーチルト

F70AEHT パワートリム /

パワーチルト

F70AET パワートリム /

パワーチルト

FT60DET パワートリム /

パワーチルト

プロペラマーク:

F50FEHD G

F50FET G

F60CET G

F70AEHT K

F70AET K

FT60DET K

燃料とオイル:

推奨燃料:

無鉛レギュラーガソリン

燃料タンク容量:

24 L

推奨エンジンオイル:

ヤマハ4サイクルオイル

推奨エンジンオイルグレード1:

SAE 10W-30/10W-40/5W-30

API SE/SF/SG/SH/SJ/SL

総エンジンオイル量 (オイルパン容量):

2.5 L

潤滑方式：

ウェットサンブ

推奨ギヤオイルタイプ：

船外機ギヤオイル

ギヤオイル容量：

F50FEHD 0.430 L

F50FET 0.430 L

F60CET 0.430 L

F70AEHT 0.670 L

F70AET 0.670 L

FT60DET 0.670 L

締付トルク：

スパークプラグ：

F50FEHD 18.0 Nm

(1.84 kgf-m)

F50FET 18.0 Nm (1.84 kgf-m)

F60CET 18.0 Nm (1.84 kgf-m)

F70AEHT 17.0 Nm

(1.73 kgf-m)

F70AET 17.0 Nm (1.73 kgf-m)

FT60DET 18.0 Nm

(1.84 kgf-m)

プロペラナット：

F50FEHD 35.0 Nm

(3.57 kgf-m)

F50FET 35.0 Nm (3.57 kgf-m)

F60CET 35.0 Nm (3.57 kgf-m)

F70AEHT 34.0 Nm

(3.47 kgf-m)

F70AET 34.0 Nm (3.47 kgf-m)

FT60DET 35.0 Nm

(3.57 kgf-m)

エンジンオイルドレンボルト：

F50FEHD 28.0 Nm

(2.86 kgf-m)

F50FET 28.0 Nm (2.86 kgf-m)

F60CET 28.0 Nm (2.86 kgf-m)

F70AEHT 27.0 Nm

(2.75 kgf-m)

F70AET 27.0 Nm (2.75 kgf-m)

FT60DET 28.0 Nm

(2.86 kgf-m)

エンジンオイルフィルタ：

18.0 Nm (1.84 kgf-m)

JMU33554

ボートへの設置条件

JMU33564

ボートの定格馬力

JWM01560

警告

船体の最大搭載馬力を越える船外機を取り付けて航行すると、ボートが極度の不安定になる可能性があります。

単機または複数の船外機を取付ける前に、船外機の合計馬力が船体の最大搭載馬力を越えていないか確認してください。ボートの銘板を参照するか、船体の製造業者に照会してください。

JMU33571

船外機の取り付け

JWM01570

警告

- 船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり、制御不能や火災などの危険な状況を引き起こしかねません。
- 船外機は非常に重いものですから、安全に取り付けるためには、特殊な機器と訓練が必要です。

船外機の取り付けは、ヤマハ販売店または船外機取り付けの経験を積んだ人が正しい機器を使用し、詳細なリギングに関するマニュアルを参照しながら行なってください。詳細は、43 ページを参照ください。

JMU33581

リモートコントロールに必要なもの

JWM01580

警告

- ギヤが入った状態でエンジンを始動すると、ボートが突然動き出し、衝突や乗客が

基本事項と仕様諸元

舷側から外に投げ出される恐れがあります。

- ギヤが入った状態でエンジンが始動した場合は、始動安全装置が正しく機能していません。その船外機の使用を中止して、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

リモートコントロールユニットは始動安全装置を装備していなければなりません。始動安全装置は、リモコンレバーが中立（ニュートラル）の位置にあるとき以外エンジンが始動しないようにする装置です。

JMU25694

バッテリーに関する項目

JMU25713

バッテリーの仕様

以下の仕様を満たすバッテリーをフル充電し使用します。バッテリーの電圧が低下した場合は、エンジンを始動できません。

JIS 規格：
65D31-95E41

JCM01061

注 意

規定の容量に合わないバッテリーは、使用しないでください。規定容量外のバッテリーを使用すると、電装系に供給電流が不足したり、過大な負荷が掛かったりして故障の原因になります。

JMU36290

バッテリーの設置

バッテリーホルダーは船内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない水平な場所に確実に固定してください。周辺には可燃物、重量物または金属類を置かないようにします。**警告！** バッテリーと同じコンパートメントに火炎性のあるもの、不安定な重い物、金属物を入れないでください。火災、爆発または火花が発生することがあります。[JWMO1820]

JMU36300

複数のバッテリーを使用する

複数船外機設定時や予備バッテリーなど複数

のバッテリーを接続する場合は、バッテリーの選択と結線については最寄りのヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU34195

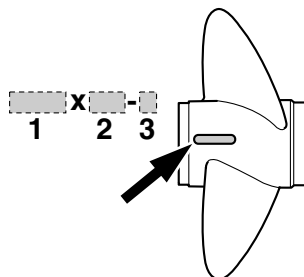
プロペラ

ボートのオーナーにとって、プロペラ選びは船外機の次に重要な選択です。プロペラのタイプ、サイズ、そしてデザインは加速力、燃費、そしてエンジンの寿命にも直接影響してきます。ヤマハは各ヤマハ船外機に応じたプロペラを設計、製造しています。

お買い求めになった船外機には、多様な条件下を想定して最適と思われるプロペラを搭載していますが、用途により、他のプロペラの方が適している場合もあります。

ヤマハのディーラーは、お客様の必要に合わせたプロペラを選ぶお手伝いをします。最大積載量時にフルスロットルでエンジンの回転範囲の半分より上になるようなプロペラを選んでください。一般的に小さな負荷運転に対してはピッチの大きなプロペラ、負荷が大きければピッチの小さなプロペラを選びます。ボートの負荷に大きな変動がある場合は、最大負荷に合わせてプロペラを選びますが、負荷が小さいときにはエンジンスピード範囲内になるようにスロットルの設定を下げる必要があるかもしれません。

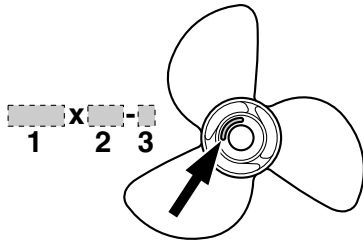
プロペラの点検に関しては、84 ページを参照してください。



ZMU04606

1. プロペラ直径（インチ）

2. プロペラピッチ (インチ)
3. プロペラの種類 (プロペラマーク)



1. プロペラ直径 (インチ)
2. プロペラピッチ (インチ)
3. プロペラの種類 (プロペラマーク)

JMU25770

始動安全装置

ヤマハ船外機または専用リモートコントロール装置には、ギヤが前進または後進に入っているときはエンジンの始動ができないように、安全装置が装備されています。エンジンを始動する際は、シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてから行なってください。

JMU41951

エンジンオイルに関する項目

船外機を使用している地域の温度環境に合ったエンジンオイルを選んでください。

推奨エンジンオイル:

ヤマハ4サイクルオイル

推奨エンジンオイルグレード1:

SAE 10W-30/10W-40/5W-30

API SE/SF/SG/SH/SJ/SL

推奨エンジンオイルグレード2:

SAE 15W-40/20W-40/20W-50

API SH/SJ/SL

総エンジンオイル量 (オイルパン容量):
2.5 L

交換エンジンオイル量 (定期交換時):

オイルフィルタ交換無し:

1.9 L

オイルフィルタ交換含む:

2.1 L

推奨エンジンオイルグレード1に記載されているエンジンオイルを入手できない場合、推奨エンジンオイルグレード2に記載されているエンジンオイルを使用してください。

推奨エンジンオイルグレード1

SAE										API
-4	14	32	50	68	86	104	122	°F		SE SF SG SH SJ SL
-20	-10	0	10	20	30	40	50	°C		
10W-30										
10W-40										
5W-30										

ZMU06854

推奨エンジンオイルグレード2

SAE										API	
-4	14	32	50	68	86	104	122	°F		SH SJ SL	
-20	-10	0	10	20	30	40	50	°C			
15W-40											
20W-40											
20W-50											

ZMU06855

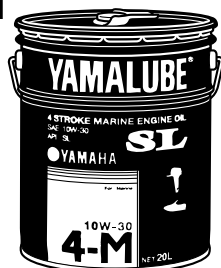
基本事項と仕様諸元

ヤマハ純正エンジンオイルについて

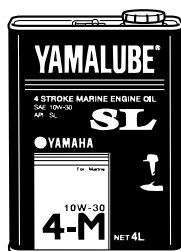
ヤマハ純正エンジンオイルはヤマハ船外機、マリンジェット 4 ストロークエンジン用に開発されたエンジンオイルです。

ヤマハ純正エンジンオイル；
4 サイクルマリンエンジンオイル
10W-30 SL

1



2



3



ZMU04175

1. 部品番号 90790-71511 (20L)
2. 部品番号 90790-71512 (4L)
3. 部品番号 90790-71513 (1L)

JMU30101

ギヤオイル

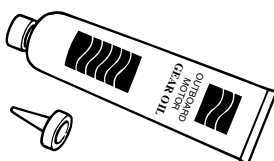
推奨ギヤオイル；

ヤマハ船外機ギヤオイル、またはハイポイドギヤオイル (SAE90)

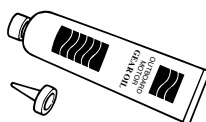
ギヤオイル容量；

F50FEHD 0.430 L
F50FET 0.430 L
F60CET 0.430 L
F70AEHT 0.670 L
F70AET 0.670 L
FT60DET 0.670 L

1



2



ZMU04173

1. 部品番号 90790-73603 (750ml)
2. 部品番号 90790-73602 (350ml)

JMU36360

燃料に関する項目

JMU36781

ガソリン

JCM01981

注意

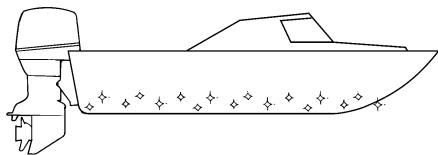
- 有鉛ガソリンを使用しないでください。有鉛ガソリンはエンジンに損傷を与える恐れがあります。
- 燃料タンク内に水や不純物が入らないようにしてください。汚れた燃料は性能低下やエンジンの損傷を招く恐れがあります。必ず清潔なタンクで保管した、新しくきれいな燃料を使用してください。

推奨ガソリン；
無鉛レギュラーガソリン

JMU36330

船底の清掃

船底の状態によってボートの性能は大きく変わります。船底は、海藻や貝類が付着しないように常にきれいに保っておくことが必要です。必要であれば、船底専用塗料を塗っておくと海藻や貝類が付着しにくくなります。塗料については、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。



ZMU05176

JMU36341

船外機の廃棄に関する項目

船外機を不法投棄しないでください。廃棄についてはヤマハ販売店にご相談ください。

JMU36352

非常時の装備

エンジン故障に備えて以下の物を船内に常備してください。

- 各種スクリュードライバ、プライヤ、レンチ（メートルサイズ分を含む）および絶縁テープ
- 防水フラッシュライトと予備電池
- クリップ付き予備カールコード
- スパークプラグのスペアセットなどの交換部品

詳しくは、ヤマハ取扱店にご相談ください。

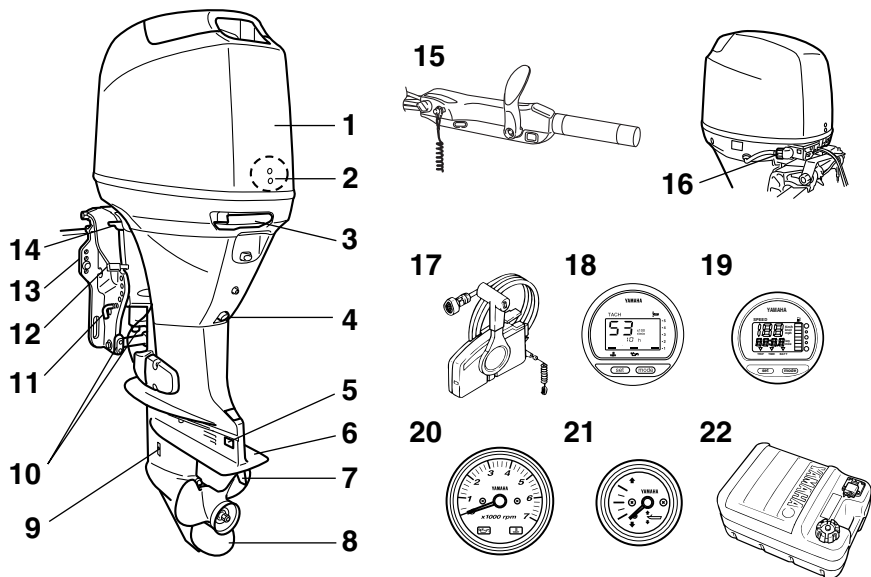
各部の名称

要 点

燃料タンク、リモコン関連、メータ類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。

(*) 仕様により異なります。

F50FEHD, F50FET, F60CET, FT60DET

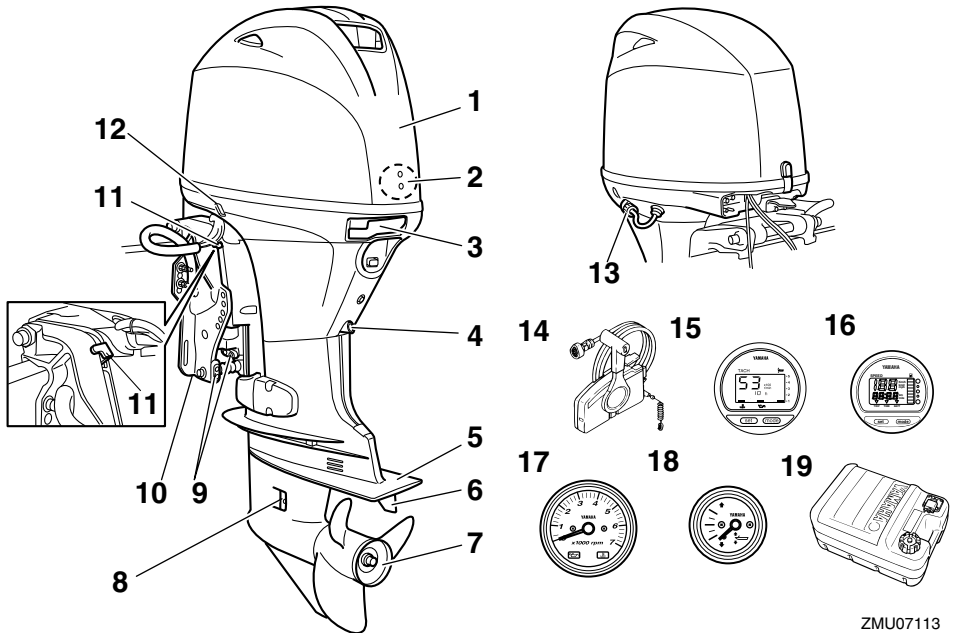


ZMU05108

1. トップカウル
2. 水分離器
3. カウルロックレバー
4. ドレンスクリュー
5. アノード*
6. キャビテーションプレート
7. トリムタブ (アノード)
8. プロペラ*
9. 冷却水取入口
10. アノード
11. チルトロッド*
12. チルトロックレバー*
13. クランプブラケット
14. チルトサポートレバー

15. ティラハンドル*
16. 水洗装置
17. リモートコントロールボックス (サイドマウントタイプ)*
18. デジタルタコメータ*
19. デジタルスピードメータ*
20. タコメータ*
21. トリムメータ*
22. 燃料タンク*

F70AET

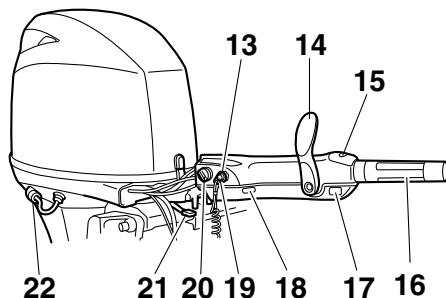
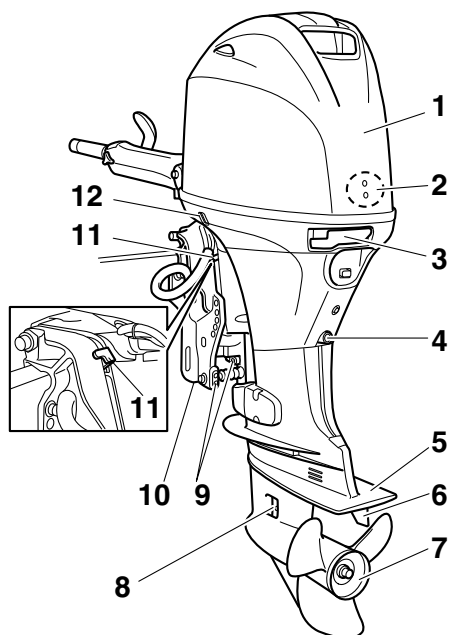


ZMU07113

1. トップカウル
2. 水分離器
3. カウルロックレバー
4. ドレンスクリュ
5. キャビテーションプレート
6. トリムタブ (アノード)
7. プロペラ *
8. 冷却水取入口
9. アノード
10. クランプブラケット
11. チルトサポートレバー
12. PTT スイッチ
13. 水洗装置
14. リモートコントロールボックス (サイドマウントタイプ) *
15. デジタルタコメータ *
16. デジタルスピードメータ *
17. タコメータ *
18. トリムメータ *
19. 燃料タンク *

構成部品

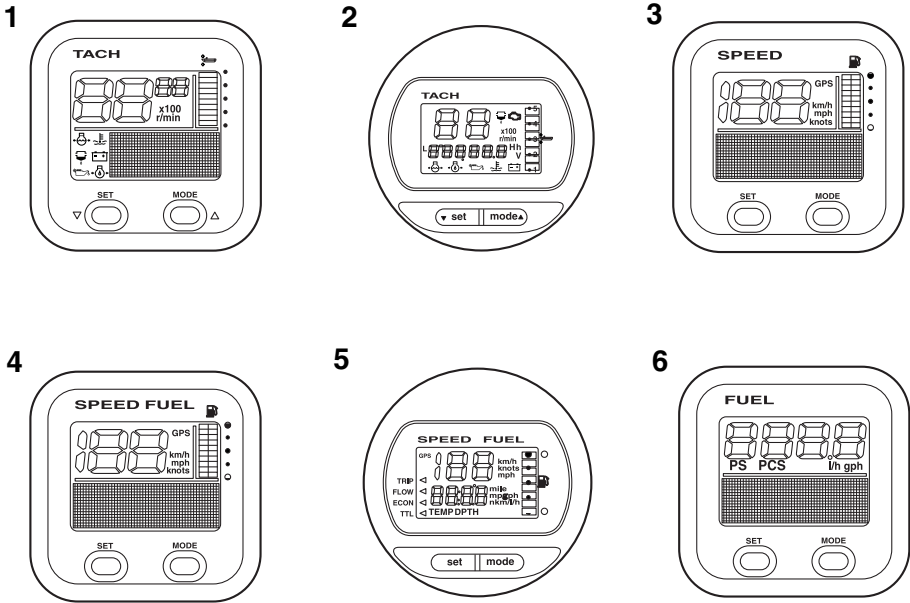
F70AEHT



1. トップカウル
2. 水分離器
3. カウルロックレバー
4. ドレンスクリュー
5. キャビテーションプレート
6. トリムタブ (アノード)
7. プロペラ *
8. 冷却水取入口
9. アノード
10. クランプブラケット
11. チルトサポートレバー
12. PTT スイッチ
13. エンジン停止ボタン／緊急エンジン停止スイッチ
14. ギヤシフトレバー
15. トローリングエンジン回転数調整スイッチ
16. スロットルコントロールグリップ
17. PTT スイッチ
18. 警報灯
19. ロックプレート

20. メインスイッチ
21. ステアリングフリクションアジャスタ
22. 水洗装置
23. 燃料タンク *

ZMU07117



ZMU05429

1. タコメーターユニット (角型) *
2. タコメーターユニット (丸型) *
3. スピードメーターユニット (角型) *
4. スピード & フューエルメーターユニット (角型) *
5. スピード & フューエルメーターユニット (丸型) *
6. フューエルマネージメントメーター (角型) *

JMU25802

燃料タンク

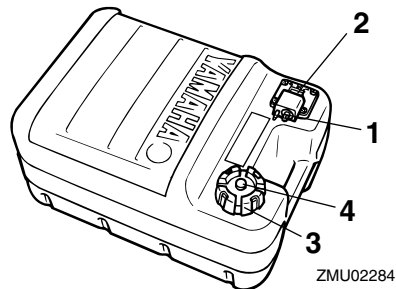
ヤマハ船外機は、専用燃料タンクが用意されています。

JWM00020



- 保管または係留時には、燃料タンクを空にして船から下ろしておいてください。
- 使用後はエアベントスクリュを閉じてください。

- 燃料を入れたまま陸上運搬しないでください。



ZMU02284

1. 燃料ホースコネクタ
2. 燃料計
3. 燃料タンクキャップ
4. エアベントスクリュ

構成部品

JMU25830

燃料ホースコネクタ

燃料ホースをつないだり、外したりするためのものです。

JMU25841

燃料計

燃料タンクキャップ、または燃料ホースコネクタに装備されています。燃料タンク内のおよその燃料残量を示します。

JMU25850

燃料タンクキャップ

燃料タンクの給油口のふたです。反時計方向に回すと緩みます。

JMU25860

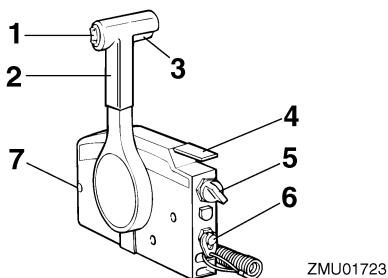
エアベントスクリュ

燃料タンクキャップに付いています。反時計方向に回すと緩み、燃料タンク内の圧力が大気開放されます。

JMU26181

リモートコントロールボックス

シフト、スロットル、および電動の遠隔操作等が行なえます。



ZMU01723

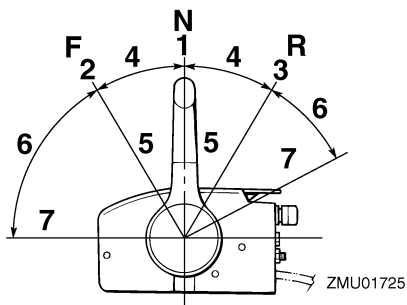
1. PTT スイッチ
2. リモコンレバー
3. ニュートラルインタロック
4. ニュートラルスロットルレバー
5. メインスイッチ
6. 緊急エンジン停止スイッチ
7. スロットルフリクションアジャスタ

JMU26190

リモコンレバー

レバーを中立（ニュートラル）から約 35°

（軽く止まる位置）船首側へ倒せば前進に、船尾側へ倒せば後進にギヤが入り最低速回転で航走をはじめます。更に、そこからレバーを倒していくと加速をはじめます。



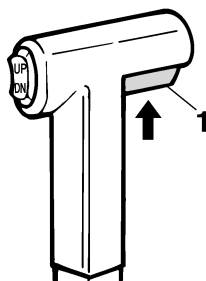
ZMU01725

1. ニュートラル “N”
2. 前進 “F”
3. 後進 “R”
4. シフト域
5. 全閉
6. スロットル域
7. 全開

JMU26201

ニュートラルインタロック

リモコンレバーを中立（ニュートラル）の位置で保持します。前進や後進へシフトする際は、最初に赤色ノブを引き上げてからリモコンレバーを動かします。



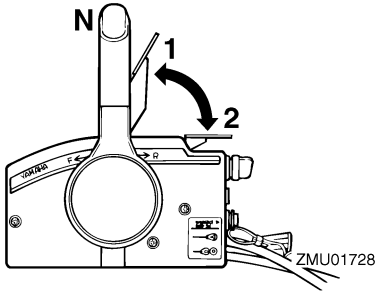
ZMU01727

1. ニュートラルインタロック

JMU26212

ニュートラルスロットルレバー

中立（ニュートラル）の状態、スロットルの開閉操作がおこなえます。



1. 全開
2. 全閉

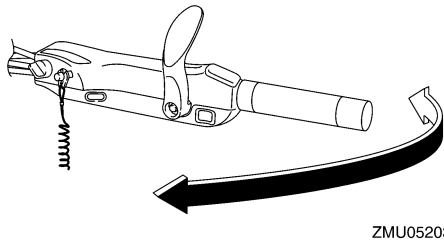
要 点

ニュートラルスロットルレバーは、リモコンレバーが中立（ニュートラル）の位置でなければ操作できません。また、リモコンレバーはニュートラルスロットルレバーが全閉の状態であれば操作できません。

JMU25913

ティラハンドル

舵取り操作は、ティラハンドルを左右に動かして行います。

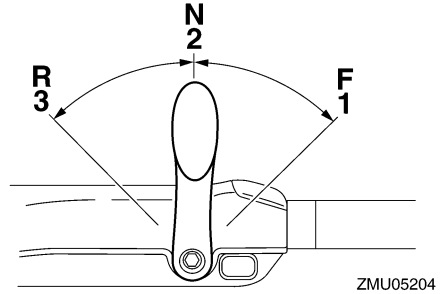


JMU25924

ギヤシフトレバー

ギヤシフトレバーを前方（船首側）へ倒すと前進のギヤが入り、後方（船尾側）へ倒すと

後進のギヤが入ります。

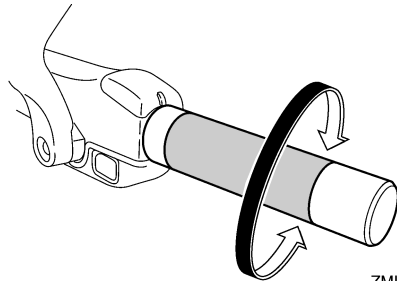


1. 前進 “F”
2. ニュートラル “N”
3. 後進 “R”

JMU25942

スロットルコントロールグリップ

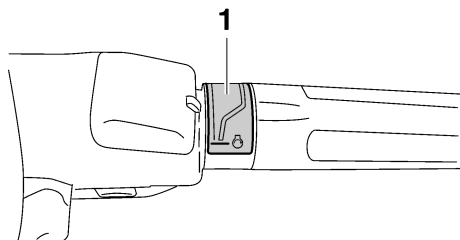
ティラハンドルの先端にあります。反時計方向に回せば加速し、時計方向に回せば減速します。



JMU25962

スロットルインジケータ

スロットル開度の目安を表示します。



ZMU05206

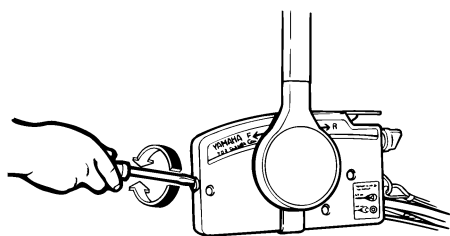
1. スロットルインジケータ

JMU25976

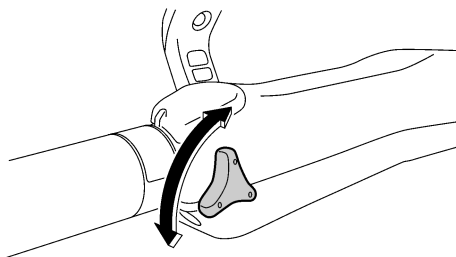
スロットルフリクションアジャスタ

スロットルコントロールグリップ／リモコンレバーの動きの重さを調整するノブ／スクリュがティラハンドル／リモートコントロールボックスに装備されています。操船者の好みに合わせて、調整ができます。

重さ（抵抗）を増やすには、時計方向に回します。減らすには、反時計方向に回します。**警告！調整スクリュ、または調整ノブを、締めすぎないようにしてください。リモコンレバー、またはスロットルコントロールグリップの動きが重すぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。** [JWM00032]



ZMU01714



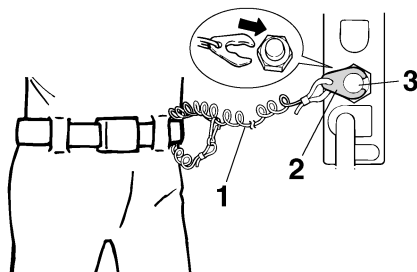
ZMU05207

一定のスピードを保ちたい場合は、アジャスタを締めてスロットルの設定を固定します。

JMU25995

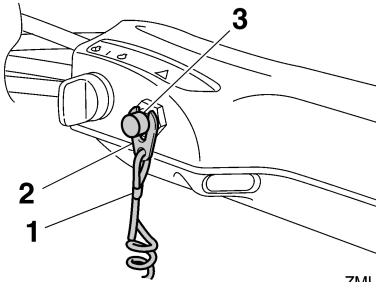
緊急エンジン停止スイッチ

航走中に操船者が落水等で操船不能に陥ったとき、カールコードが伸びてロックプレートが外れ、エンジンを急停止させ船の暴走を防ぐ仕組みになっています。カールコードは確実に操船者の衣服または手、足に取り付けてください。**警告！操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けしないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。** [JWM00122]



ZMU01716

1. カールコード
2. ロックプレート
3. 緊急エンジン停止スイッチ



ZMU05208

1. カールコード
2. ロックプレート
3. 緊急エンジン停止スイッチ

JMU26091

エンジンスイッチ

エンジンの始動、停止の操作は、エンジンスイッチで行ないます。作動は次のようになっています。

● “OFF”

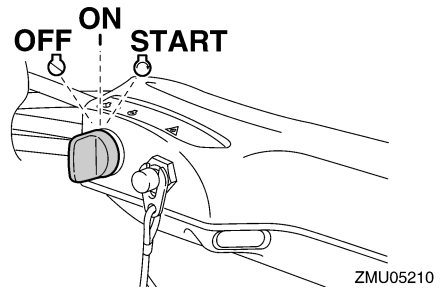
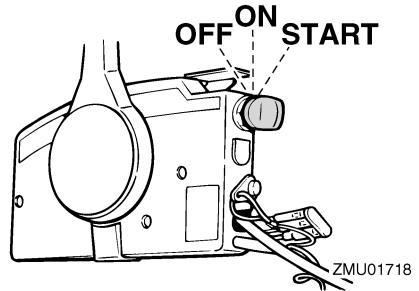
電気回路が遮断されエンジンが停止します。(キーを抜ける状態です。)

● “ON”

電気回路が短絡されアクセサリ等が使用できます。(キーは抜けません。)

● “START”

スタータモータが回ってエンジンが始動します。(キーを離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。)



JMU31432

ステアリングフリクションアジャスタ

ステアリングの動きの抵抗を調整するレバーがブラケットに付いています。操船者の好みに合わせて調整が出来ます。

調整レバーを左舷側“A”へ回すと、抵抗が増え重たくなります。

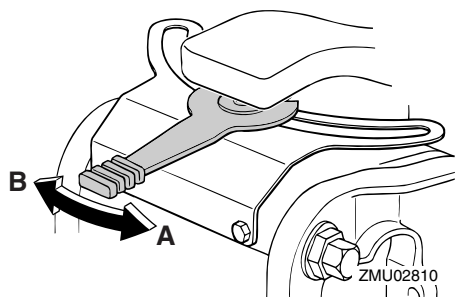
右舷側“B”へ回すと軽くなります。

JWM00040

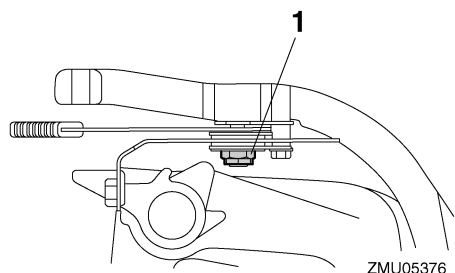


調整レバーまたは調整スクリュを締めすぎないようにしてください。ステアリング操作の抵抗が大きすぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。

構成部品



調整レバーを左舷側“A”に回しても抵抗が増えない場合は、ナットを規定トルクで締め付けます。



1. ナット

規定トルク：
5.7 Nm (0.57 kgf-m)

要 点

- 調整レバーを“A”の位置にしたときに、ステアリングの動きを固定出来ます。
- 調整レバーを右舷側“B”へ回したときに、ステアリングの動きがスムーズであることを確認してください。
- ステアリングフリクションの摩擦部にグリス等の油脂類を塗らないでください。

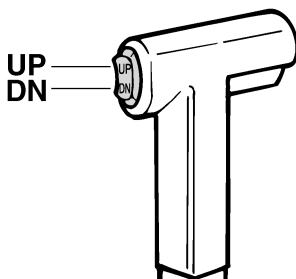
JMU26143

PTT スイッチ (ティラハンドル仕様 / リモートコントロール仕様)

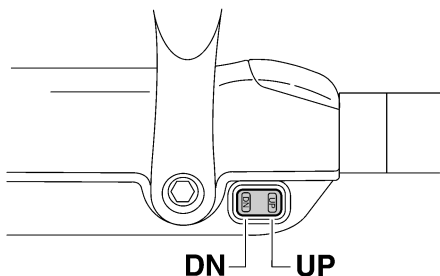
船外機のトリム / チルト角度が調整できます。“UP”側のスイッチを押している間は、

トリム域からチルト域へと角度が上がっていきます。“DN”側のスイッチを押している間は、チルト域からトリム域へと角度が下がっていきます。スイッチから手を離すと、その角度を保持して止まります。

PTT スイッチの使用に関しては 59 ページおよび 62 ページを参照ください。



ZMU01720



ZMU05212

JMU26155

PTT スイッチ (ボトムカウル用)

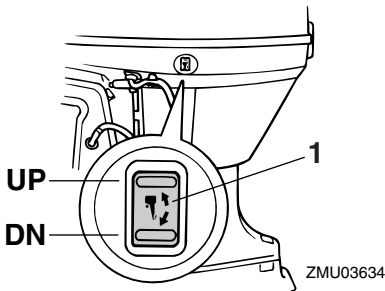
ボトムカウルに装備されています。ボートトランサムからの船外機角度の調整ができます。“UP”のスイッチを押している間は、トリム域からチルト域へと角度が上がっていきます。“DN”のスイッチを押している間は、チルト域からトリム域へと角度が下がっていきます。スイッチから手を離すと、その角度を保持して止まります。

PTT スイッチの使用に関しては 62 ページを参照ください。

JWM01031

警告

このスイッチは停船時に使用してください。操船中の使用は落水や、周辺への注意がおろそかになり事故につながる恐れがあります。

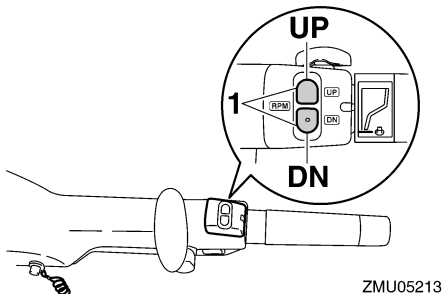


1. PTT スイッチ

JMU30901

トローリングエンジン回転数調整スイッチ

トローリング時のエンジン回転数を調整することができます。“UP” スイッチを押すと、エンジン回転数が上がります。“DN” スイッチを押すと、エンジン回転数が下がります。



1. トローリングエンジン回転数調整スイッチ

要 点

- スイッチを押すごとに、トローリング時のエンジン回転数が、およそ 50 回転変化します。

- エンジン再始動後もしくはエンジン回転数が約 3000 回転以上になると、トローリング時にスイッチで設定したエンジン回転数は解除され、標準のトローリングエンジン回転数に戻ります。
- トローリングエンジン回転数調整スイッチの使用に関しては58ページを参照ください。

JMU26244

トリムタブ (アノード付仕様)

JWM00840

警告

トリムタブの調整が悪いと操船に支障をきたします。トリムタブを交換した場合等は、試走してステアリングの状態を確認してください。トリムタブの調整等をおこなった後は、ボルトを確実に締めてください。

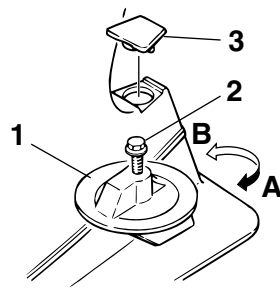
航走中にステアリングが左、または右にとられる場合に、その調整をするためのものです。

ステアリングが左舷側に取られる場合、トリムタブフィンを左舷側へ回す“A”。右舷側に取られる場合、右舷側へ回す“B”。

JCM00840

注意

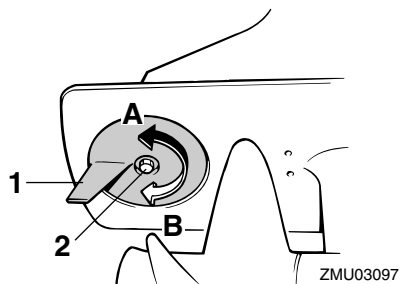
トリムタブは電蝕からエンジンを保護するために、アノードの役目を兼ねています。決してペンキ等を塗らないようにしてください。



1. トリムタブ

構成部品

2. ボルト
3. キャップ



1. トリムタブ
2. ボルト

要 点

トリムタブは、使用頻度の多い航走スピードに合わせて調整してください。航走スピードやトリム角度が変われば、トリムタブの効果も変化します。

規定トルク：

F50F, F60C 18.0 Nm (1.8 kgf-m)

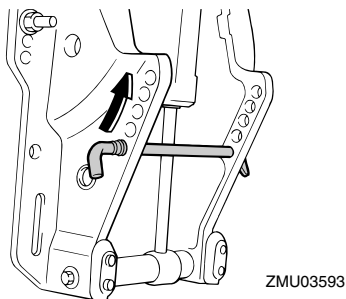
F70A, FT60D 37.0 Nm

(3.7 kgf-m)

JMU26262

チルトピン

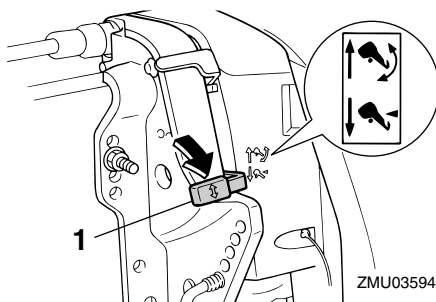
チルトピンの位置を変えることで、船外機をいっぱいまで下げた位置が決まります。



JMU26312

チルトロック機構

チルトロック機構は、後進時にプロペラのね上がりを防止するためのものです。



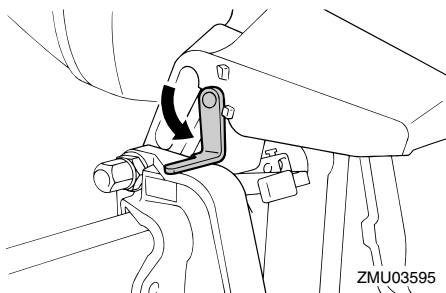
1. チルトロックレバー

チルトロックレバーが“”の位置ではロック状態、“”の位置では解除となります。

JMU34461

チルトサポートレバー（パワートリムアンドチルト仕様／ハイドロチルト仕様）

船外機をいっぱいにチルトアップした状態を保つときに、レバーを降ろして保持します。



JCM00660

注 意

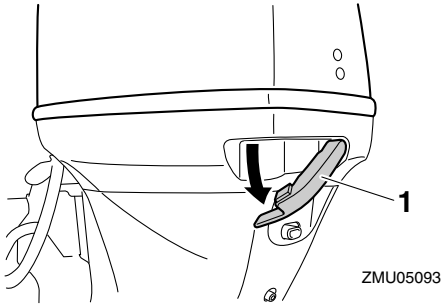
ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が勢いよく降下してることがあります。船外機を通常の航

走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

JMU26373

カウルロックレバー（回転式）

トップカウルを外すときは、前面／後面のカウルロックレバーを回してロックを解除し、トップカウルの後部から持ち上げて外します。取り付けは逆の手順で行ないます。その時に、ゴムシール部が正しくはまっていること、およびロックが確実にされていることを確認してください。

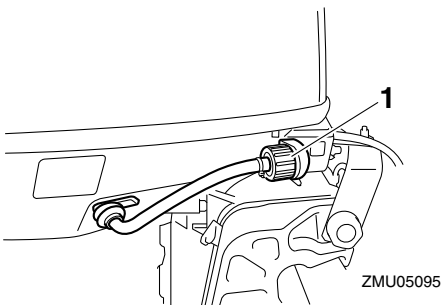


1. カウルロックレバー

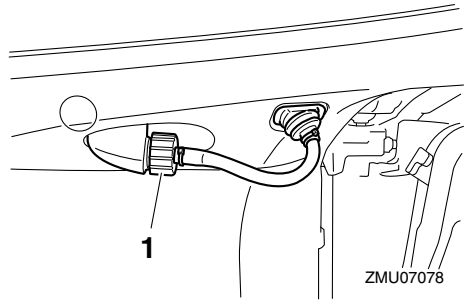
JMU26463

水洗装置

水洗装置は、水道水ホースと水道水を使ってエンジンの冷却経路を洗浄するときに使用します。



1. 水洗装置



1. 水洗装置

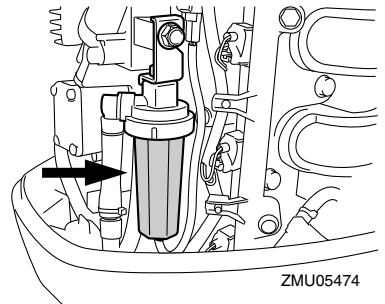
要 点

使用方法について 70 ページを参照ください。

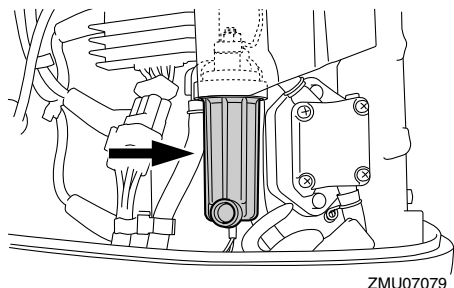
JMU31707

水検知スイッチ付燃料フィルタ

この船外機の燃料フィルタカップ部には燃料と水を分離させる機能と水検知警報装置が装備されています。分離した水が規定量以上に達した場合、次のような警報を発します。



構成部品



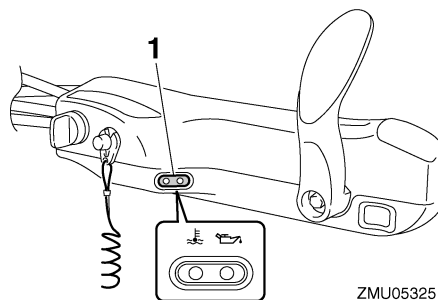
警報方法

- コマンドリンクマルチファンクションメーターの水量警報灯が点滅します。
- シフトがニュートラル時のみブザーが断続的に鳴ります。
- 水検知警報が作動した場合は、エンジンを停止して直ちにヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JMU26304

警報灯

エンジンに何らかの異常が生じたときには、警報灯が赤色点灯します。詳細は、41 ページを参照ください。



1. 警報灯

JMU36015

警報灯

JMU36024

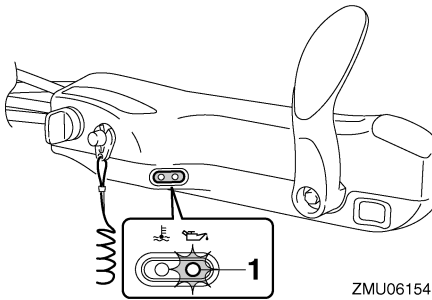
油圧低下警報表示

油圧が低下したときに警報表示が点灯を始めます。詳細は、41 ページを参照ください。

JCM00022

注 意

- オイルを入れずにエンジンを運転しないでください。重大な損傷を招く恐れがあります。
- 油圧低下警報はオイル量を示すものではありません。
- オイル量の点検は、オイルレベルゲージにより行なって下さい。（47 ページを参照ください。）



ZMU06154

1. 油圧低下警報表示

JMU36033

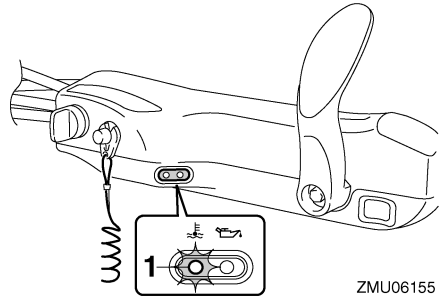
オーバヒート警報灯

エンジンの温度が異常に高くなったときは、警報灯が点灯します。詳細は、41 ページを参照ください。

JCM00052

注 意

オーバーヒート警報灯が点灯した状態でのエンジンの使用は避けてください。大きなエンジン損傷を招く恐れがあります。



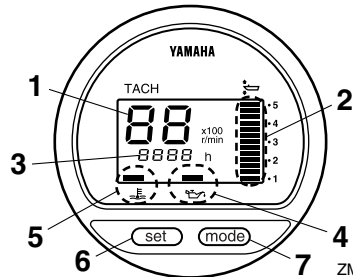
ZMU06155

1. オーバヒート警報灯

JMU26493

デジタルタコメータ

タコメータ（エンジン回転計）のほかに以下の機能が備えられています。最初にエンジンスイッチを“ON”にした後、いちど全ての表示が点灯します。数秒後には通常の表示に変わります。



ZMU03601

1. タコメータ
2. トリムメータ
3. アワーメータ
4. 油圧低下警報表示
5. オーバヒート警報表示
6. セットボタン
7. モードボタン

要 点

水分離器警報表示とエンジン警報表示は、エンジン側に検出機能が有る場合にのみ作動します。

計器類・警報灯／表示

JMU36050

タコメータ

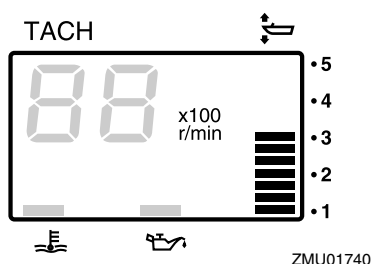
タコメータは、1 分間に回転するエンジン回転数を 100 単位 (r/min) で示します。例えば、タコメータの表示が“22”であれば、エンジンスピードは 2200 r/min です。

JMU26621

トリムメータ

船外機のトリム角度を表示します。

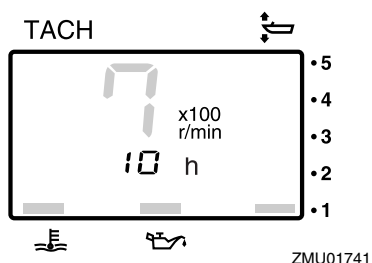
- ボートの積載状態に応じた最適なトリム角度を覚えておくくと便利です。PTT スイッチの操作で最適なトリム角度の調整ができます。
- 船外機の角度がトリム域を超えている場合は、トリムメータの一番上のブロックが点滅表示します。



JMU26651

アワーメータ

エンジン運転時間を表示します。表示／非表示及び総積算時間と任意の運転時間(トリップ)の切り替えが出来ます。



表示形式を変更するには、“mode” ボタンを

押してください。総積算時間または運転時間(トリップ)を表示し、またはオフにすることが出来ます。

運転時間(トリップ)をリセットするには、運転時間(トリップ)を表示中に“set”と“mode”ボタンを同時に 1 秒間以上押してください。これで運転時間(トリップ)は“0”にリセットされます。

総積算時間は、リセットできません。

JMU26524

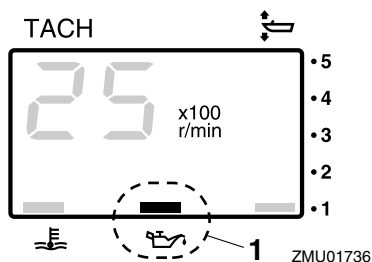
油圧低下警報表示

油圧が低下したときに警報表示が点滅を始めます。詳細は、41 ページを参照ください。

JCM00022

注意

- オイルを入れずにエンジンを運転しないでください。重大な損傷を招く恐れがあります。
- 油圧低下警報はオイル量を示すものではありません。
- オイル量の点検は、オイルレベルゲージにより行なって下さい。(47 ページを参照ください。)



1. 油圧低下警報表示

JMU26583

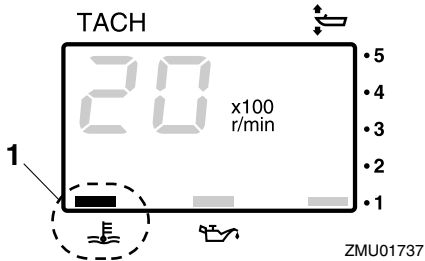
オーバーヒート警報表示

エンジン温度が異常に高くなったときにオーバーヒート警報表示が点滅を始めます。表示の詳細は、41 ページを参照ください。

JCM00052

注 意

オーバーヒート警報灯が点灯した状態でのエンジンの使用は避けてください。大きなエンジン損傷を招く恐れがあります。

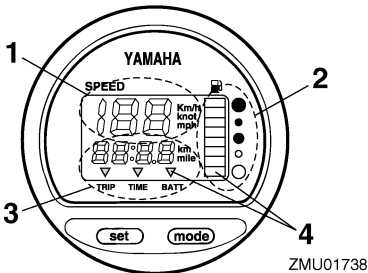


1. オーバヒート警報表示

JMU26602

デジタルスピードメータ

ボートの速度とその他の情報を表示します。



1. スピードメータ
2. 燃料計
3. トリップメータ／時計／電圧計
4. 警報表示

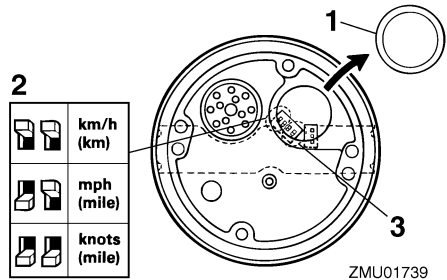
最初にエンジンスイッチを“ON”にした後、いちど全ての表示が点灯します。数秒後には通常の表示に変わります。

JMU36061

スピードメータ

スピードメータは操船者の好みによって

Km/h, mph, knots の表示が選べます。図のようにメータ裏側の切り換えスイッチを使って表示を選べます。

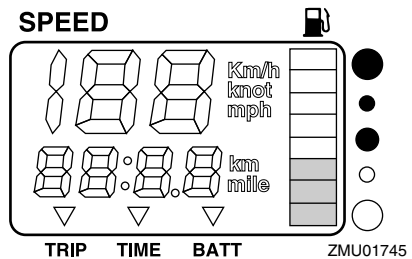


1. キャップ
2. スピード表示の切り換えスイッチ
3. 燃料表示の切り換えスイッチ

JMU26713

燃料計

8 つのセグメントは燃料レベルを示しています。満タン時は全てのセグメントが点灯しています。



燃料残量の表示は検出器の取り付け位置やボートの航走状態によって影響を受けます。船首が上がっているときや旋回中は正しい表示をしないことがあります。

燃料センサの切り換えスイッチを調節しないでください。メータ裏側の切り換えスイッチの設定を誤ると燃料残量の正しい読み取りができなくなります。切り換えスイッチの正しい設定方法についてはヤマハ販売店にご相談

計器類・警報灯／表示

ください。**注意**：燃料切れはエンジンに損傷をあたえることがあります。[JCM01770]

JMU36071

トリップメータ／時計／電圧計

トリップメータ、時計または電圧計を表示します。

表示を変更するには、メータ上の指示器が“TRIP”（トリップメータ），“TIME”（時計）、または“BATT”（電圧計）の表示が出るまで“mode”ボタンを繰り返し押します。

JMU26691

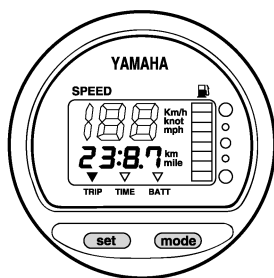
トリップメータ

航走距離を表示します。

航走距離は、スピードメータ用に選んだ測定単位に従って km または mile で表示されます。

トリップメータを“0”にリセットするには、トリップメータを表示した状態で“set”スイッチと“mode”スイッチを同時に1秒以上押します。

航走距離はバッテリーの電源によって記憶されます。バッテリーを外したときはリセットされます。



ZMU01743

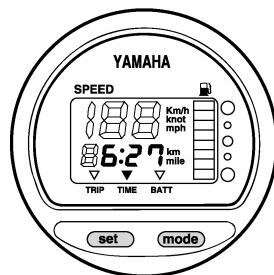
JMU26701

時計

時計の設定：

1. メータ上の表示が“TIME”になっていることを確認します。
2. “set”ボタンを押すと“TIME”の表示が点滅を始めます。
3. “mode”ボタンを押して“時”を合わせます。

4. もう一度“set”ボタンを押すと“分”の表示が点滅を始めます。
5. “mode”ボタンを押して“分”を合わせます。
6. “set”ボタンをもう一度押すと時計が動き始めます。



ZMU01744

時計はバッテリーの電源で動きます。バッテリーを外したときは時計は止まりますので、バッテリー再接続後に時刻を合わせてください。

JMU36080

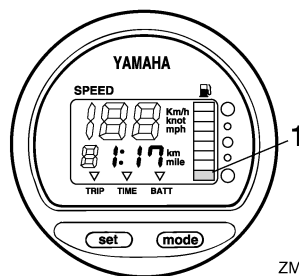
電圧計

電圧計はバッテリーの充電量をボルト表示(V)します。

JMU26721

燃料レベル警報表示

燃料計のセグメントが一番下まで下がった場合は、燃料レベル警報表示が点滅します。燃料警報装置が作動したら全速での運転を続けずに、低速にて帰港してください。**注意**：燃料切れはエンジンに損傷をあたえることがあります。[JCM01770]



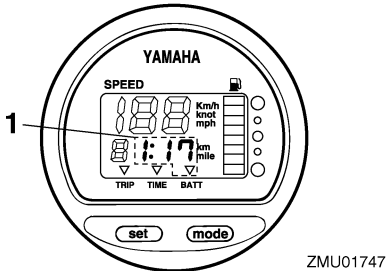
ZMU01746

1. 燃料警報表示

JMU26732

バッテリー電圧警報表示

バッテリーの電圧が低下した場合は、バッテリー警報表示が点滅します。
バッテリー電圧低下警報装置が作動したら直ちに帰港してください。バッテリーの充電についてはヤマハ取扱店へご相談ください。



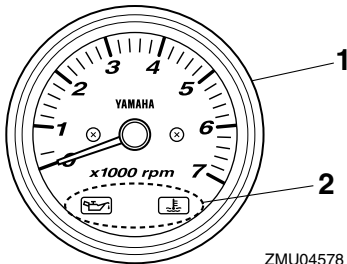
ZMU01747

1. バッテリー警報表示

JMU26471

アナログタコメータ（エンジン回転計）

このメータには、次の機能があります。



ZMU04578

1. タコメータ
2. 警報灯

JMU26506

油圧低下警報灯

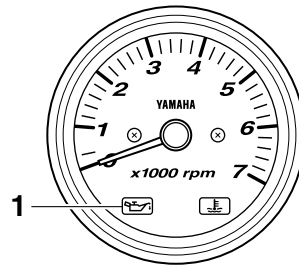
油圧が低下したときに、警報灯が点灯しま

す。詳細は、41 ページを参照ください。

JCM00022

注意

- オイルを入れずにエンジンを運転しないでください。重大な損傷を招く恐れがあります。
- 油圧低下警報はオイル量を示すものではありません。
- オイル量の点検は、オイルレベルゲージにより行なって下さい。（47 ページを参照ください。）



ZMU06156

1. 油圧低下警報表示

JMU26574

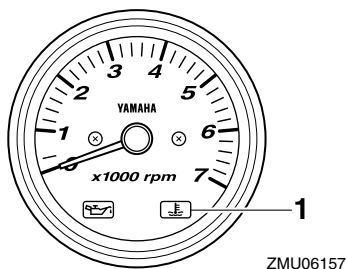
オーバーヒート警報灯

エンジンの温度が異常に高くなったときは、警報灯が点灯します。詳細は、41 ページを参照ください。

JCM00052

注意

オーバーヒート警報灯が点灯した状態でのエンジンの使用は避けてください。大きなエンジン損傷を招く恐れがあります。

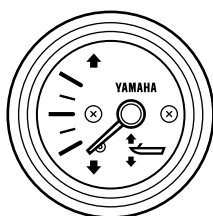


1. オーバヒート警報灯

JMU26611

アナログトリムメータ

船外機のトリム角度を表示します。



ZMU04581

ボートの積載状態に応じた最適なトリム角度を覚えておくくと便利です。PTT スイッチの操作で最適なトリム角度の調整ができます。

JMU31642

コマンドリンクマルチファンクションメータ

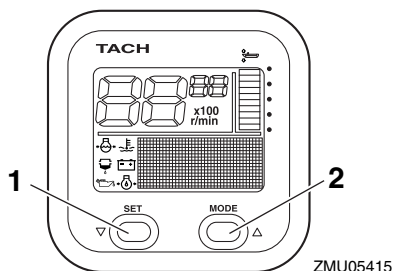
コマンドリンクマルチファンクションメータには、タコメーターユニット（角型・丸型）、スピードメーターユニット（角型）、スピード&フューエルメーターユニット（角型・丸型）、フューエルマネジメントメーター（角型）の6種があります。丸型と角型では表示方式が異なります。お手持ちのメーター機種・型をよくご確認ください。このマニュアルでは、警報表示を中心に説明していま

す。それ以外のメーターの詳しい設定方法や表示方式の変更については、メーターに付属されたオペレーションマニュアルをご覧ください。

JMU36103

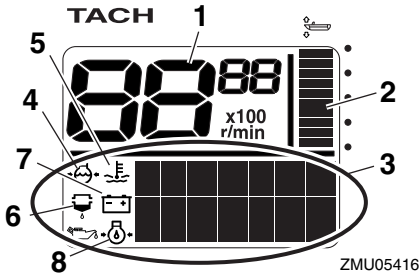
タコメーターユニット

タコメーターは、1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。そのほかにトリムメーター、トローリングスピードの調節、冷却水温 / エンジン温度表示、バッテリー電圧表示、総運転積算時間 / 任意運転時間表示、エンジンオイル圧表示、水検知警報、エンジン異常警報、定期メンテナンス時期表示を備えています。冷却水圧センサーが取り付けられている場合、冷却水圧を表示させることができます。また冷却水圧センサーが取り付けられていない場合、オプションのセンサーを取り付けると、冷却水圧を表示させることができます。オプションについてはヤマハ取扱店にお問い合わせください。タコメーターユニットには角型と丸型があります。お手持ちのタコメーターユニットの型をご確認ください。

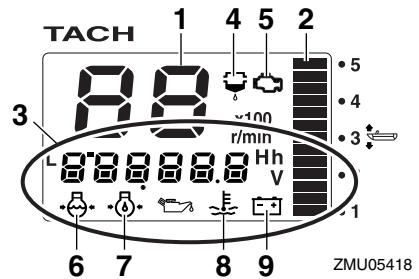


1. セットボタン
2. モードボタン

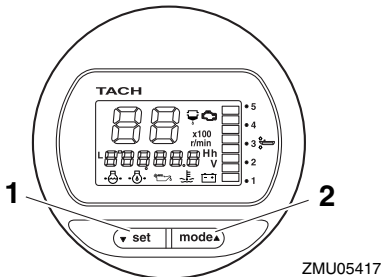
ZMU05415



1. タコメータ
2. トリムメータ
3. マルチファンクションディスプレイ
4. 冷却水圧インジケータ
5. 冷却水温 / エンジン温度インジケータ
6. 水検知警報インジケータ
7. バッテリー電圧インジケータ
8. エンジンオイル圧インジケータ (4-ストロークモデル)



1. タコメータ
2. トリムメータ
3. マルチファンクションディスプレイ
4. 水検知警報インジケータ
5. エンジン異常警報 / メンテナンス表示
6. 冷却水圧インジケータ
7. エンジンオイル圧インジケータ (4-ストロークモデル)
8. 冷却水温 / エンジン温度インジケータ
9. バッテリー電圧インジケータ



1. セットボタン
2. モードボタン

JMU36190

出航前の点検

リモコンレバー／ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にして、メインスイッチを“ON”にします。全ての表示部が点灯します。その後、総運転時間が表示されてから、通常表示へと切替わります。ブザーが鳴って、水検知警報表示が点滅した場合は、ただちにヤマハ取扱店で点検を受けてください。

要 点

ブザーを停止させるには、“set” ボタン、もしくは“mode” ボタンを押してください。

JMU37690

トローリング回転数の調整

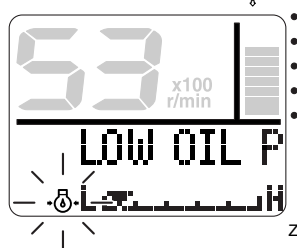
トローリング回転数を、上下に約 50 r/min ずつ任意に調整することができます。トローリング設定モード中に、スロットルでエンジン回転数を上げると通常表示へ戻ります。エンジン回転数を下げると、再度トローリング設定モードへ入ります。詳しくは付属のオペレーションマニュアルを参照してください。

TACH



ZMU05931

TACH



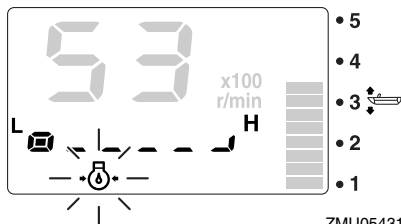
ZMU05430

TACH



ZMU06309

TACH



ZMU05431

要 点

- トローリングは潮流等の様々な自然条件に影響される為、実際のエンジン回転数とは異なる場合があります。
- 通常表示へ切り替えると、自動的に正規のアイドリング回転数に戻ります。また、エンジンを停止させた場合、エンジン回転数が 3000 r/min を超えた場合も、自動的に正規のアイドリング回転数に戻ります。
- 暖機運転中（エンジン冷機時）には、トローリングスピードを正規のアイドリング回転数より下げることはできません。

JMU36130

油圧低下警報

エンジンオイル圧が低下したときは、油圧低下警報表示が点滅を始め、エンジン回転数が自動的に 2000 回転付近まで低下します。

ブザーが鳴って、油圧低下警報が作動した場合は、ただちにエンジンを停止してください。エンジンオイルの量を点検し、必要な場合は補充します。適量のエンジンオイルがあるにもかかわらず警報装置が作動した場合には、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JCM01601

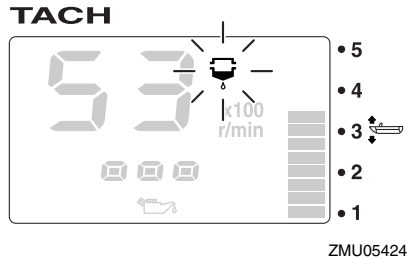
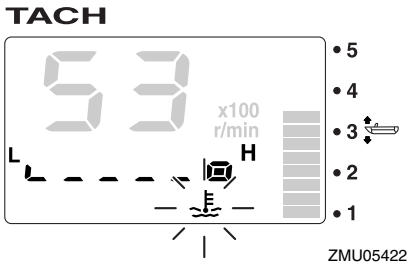
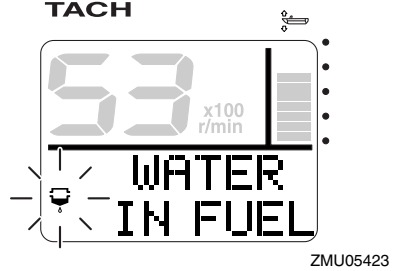
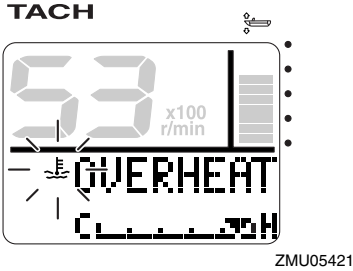
注 意

油圧低下警報が作動した状態でのエンジンの使用は避けてください。大きなエンジン損傷を招く恐れがあります。

JMU36221

オーバーヒート警報

航行中にエンジン温度が異常に高くなると、オーバーヒート警報表示が点滅を始めます。エンジン回転数が自動的に 2000 回転付近まで低下します。



ブザーが鳴って、オーバーヒート警報が作動した場合は、ただちにエンジンを停止してください。冷却水取入口の詰まりを点検してください。

JCM01592

注意

- オーバーヒート警報表示が点滅した状態でのエンジンの使用は避けてください。大きなエンジン損傷を招く恐れがあります。
- 警報機構が作動した場合は、エンジンを停止してください。原因究明とその処置が出来ない場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JMU36150

水検知警報

航行中に燃料水分離器（燃料フィルタ）に水が溜まると、警報表示が点滅します。エンジンを停止し、本書の 94 ページを参照して水を抜いてください。帰港後は、ただちにヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JCM00910

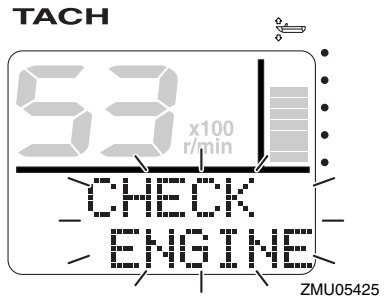
注意

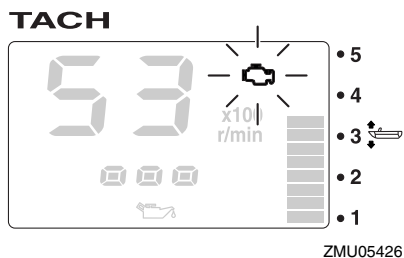
水が混ざった燃料がエンジンに送られると故障の原因になります。

JMU36160

エンジン異常警報

航行中にエンジンに異常があると、エンジン警報表示が点滅します。帰港後は、ただちにヤマハ取扱店で点検を受けてください。





JCM00920

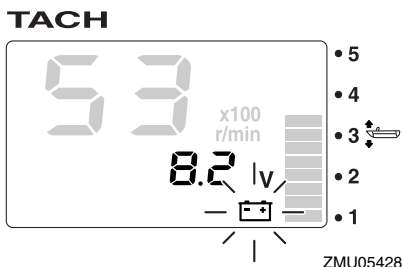
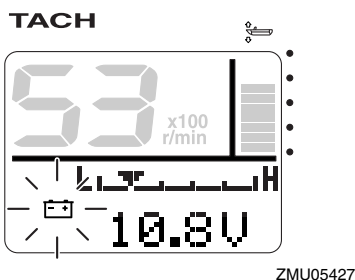
注意

エンジンが正常に運転できません。直ちにヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JMU36170

バッテリー電圧警報

バッテリー電圧が低下すると、バッテリー警報表示とバッテリー電圧値が点滅を始めます。バッテリー電圧低下警報装置が作動したら、ただちに帰港してください。バッテリーの充電については、ヤマハ取扱店へご相談ください。



JMU31613

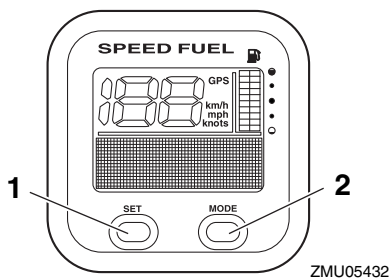
スピード&フューエルメーターユニット

このスピード & フューエルメーターユニットはボートの速度を表示します。そのほかに、燃料計、総燃料消費量表示、燃費表示、燃料流量表示、システム電圧表示を備えています。“set” ボタンと“mode” ボタンを使うことによって、表示を選択できます。スピードセンサーが取り付けられている場合、航走距離を表示させることができます。また、スピードセンサーが取り付けられていない場合、オプションのセンサーを取り付けると航走距離を表示させることができます。さらにオプションのセンサーを取り付けると、水温、水深、時計も表示させることができます。オプションについてはヤマハ取扱店にお問い合わせください。

スピード & フューエルメーターユニットには角型と丸型があります。お手持ちのスピード & フューエルメーターユニットの型をご確認ください。

メインスイッチを“ON”にした後、いちど全ての表示が点灯しますが、数秒後には通常表示に戻ります。

詳しくは付属のオペレーションマニュアルを参照してください。



1. セットボタン
2. モードボタン

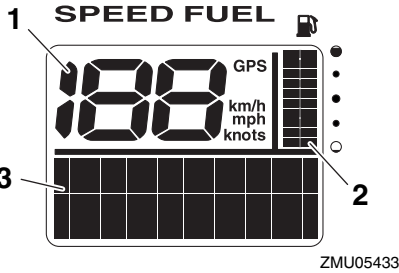
JMU31622

スピードメーターユニット

このスピードメーターユニットはボートの速度を表示します。そのほかに燃料計、システム電圧計機能を備えています。“set” ボタンと“mode” ボタンを使うことによって、表示を選択できます。また、スピードメーター表示は好みにより、km/h、mph、knots、の単位が選べます。スピードセンサーが取り付けられている場合、航走距離を表示させることができます。また、スピードセンサーが取り付けられていない場合、オプションのセンサーを取り付けると航走距離を表示させることができます。さらにオプションのセンサーを取り付けると、水温、水深、時計も表示させることができます。オプションについてはヤマハ取扱店にお問い合わせください。

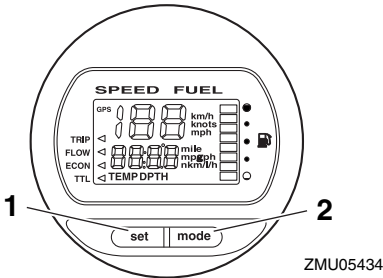
メインスイッチを“ON”にした後、いちど全ての表示が点灯しますが、数秒後には通常表示に戻ります。

詳しくは付属のオペレーションマニュアルを参照してください。



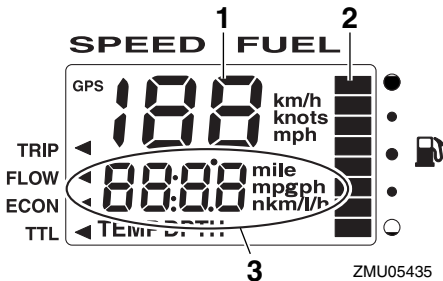
ZMU05433

1. スピードメータ
2. 燃料計
3. マルチファンクションディスプレイ



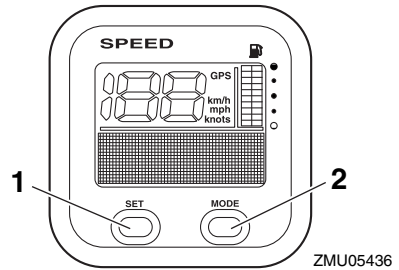
ZMU05434

1. セットボタン
2. モードボタン



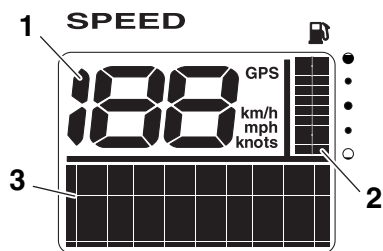
ZMU05435

1. スピードメータ
2. 燃料計
3. マルチファンクションディスプレイ



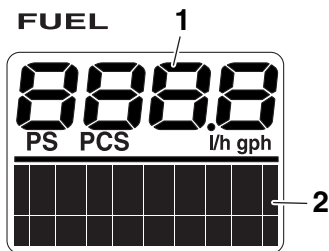
ZMU05436

1. セットボタン
2. モードボタン



ZMU05437

1. スピードメータ
2. 燃料計
3. マルチファンクションディスプレイ



ZMU05439

1. 燃料流量計
2. マルチファンクションディスプレイ

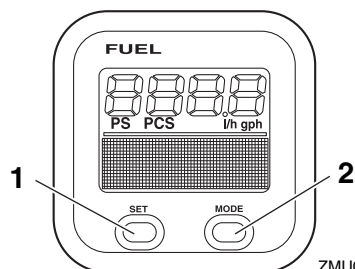
JMU31632

フューエルマネジメントメーターユニット

このフューエルマネジメントメーターユニットには、燃料流量計、総燃料消費計、燃費計、燃料残量計の機能があります。

メインスイッチを“ON”にした後、いちど全ての表示が点灯しますが、数秒後には通常表示に戻ります。

詳しくは付属のオペレーションマニュアルを参照してください。



ZMU05438

1. セットボタン
2. モードボタン

JMU26803

警報装置

JCM00091

注意

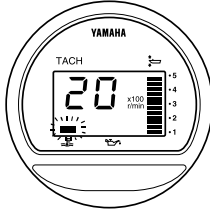
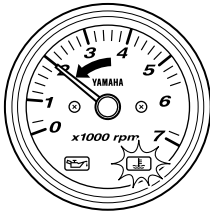
警報機構が作動した場合は、エンジンを停止してください。原因究明とその処置が出来ない場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JMU2681C

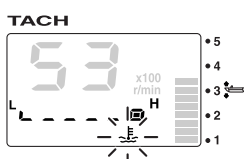
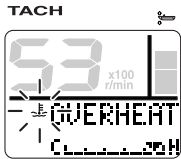
オーバヒート警報

この船外機にはオーバヒートを知らせる警報装置が装備されています。エンジンの温度が異常に上昇したときには、次のような警報を発します。

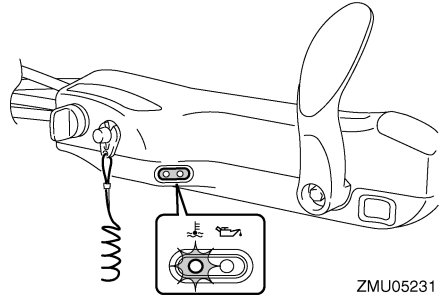
- エンジンの回転数が自動的に 2000 回転付近まで低下します。
- オーバヒート警報灯が点灯または点滅します。



ZMU05028

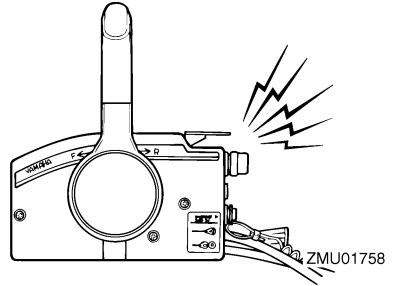


ZMU07103

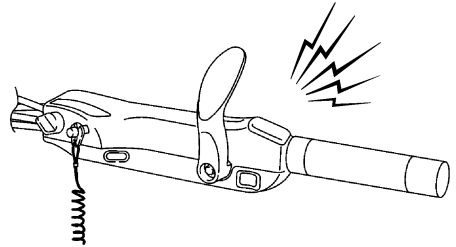


ZMU05231

- ブザーが鳴ります（ティラハンドル、リモートコントロールボックス又は、スイッチパネルにブザーが装備されている場合）。



ZMU01758

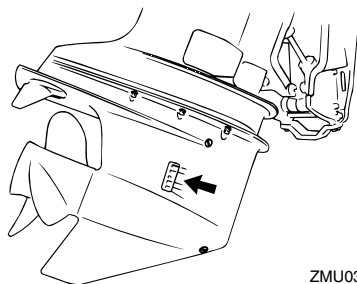


ZMU05326

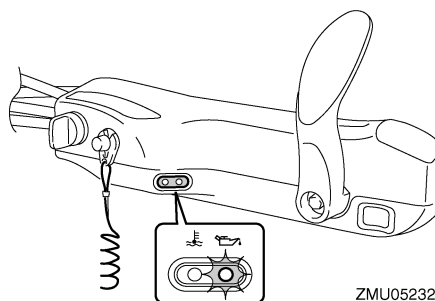
オーバヒート警報が作動した場合は、エンジンを停止して冷却水取入口を点検してください。

- トリム角度を点検して冷却水取入口が水中にあることを確認してください。
- 冷却水取入口の詰まりを点検してください。

エンジン制御装置



ZMU03604



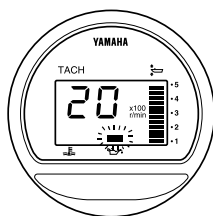
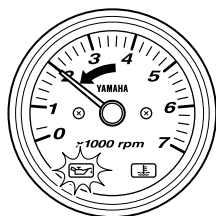
ZMU05232

JMU3016B

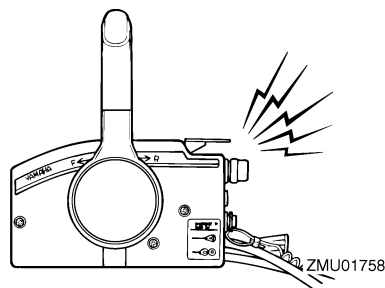
油圧低下警報

この船外機には油圧の低下を知らせる警報装置が装備されています。エンジンの油圧が規定値より低下したときには、次のような警報を発します。

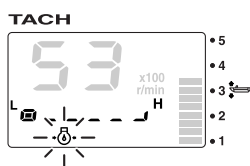
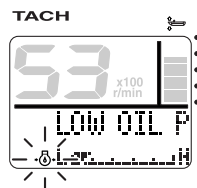
- エンジンの回転数が自動的に 2000 回転付近まで低下します。油圧低下警報が装備されている場合、点灯または点滅します。



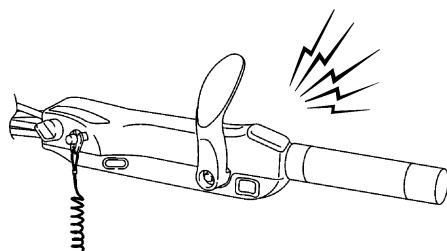
ZMU04994



ZMU01758



ZMU07104



ZMU05326

- ブザーが鳴ります。(ティラハンドル、リモートコントロールボックス又はスイッチパネルにブザーが装備されている場合)

油圧低下警報が働いた場合は、ただちにエンジンを停止してください。エンジンオイルの量を点検し、必要な場合は補充します。適量のエンジンオイルが有るにもかかわらず警報装置が作動した場合には、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

JMU26902

船外機の取り付け

要 点

船外機と船体の組み合わせは多種多様なため、それぞれの仕様によって取り付け方法は必ずしも同一ではありません。この章での説明は標準的な適用例を取り上げています。

JWM01590

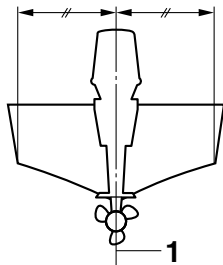
警 告

- 船体の最大搭載馬力を越える船外機を搭載すると、ボートの安定性を大きく損ないます。ボートの最大搭載馬力より大きい船外機を取り付けしないでください。ボートの最大搭載馬力が不明な場合は、ボートメーカーにお問い合わせください。
- 船外機が正しく取り付けられていない場合、操船がしにくくなったり、制御不能や火災など危険な状況を引き起こしかねません。最初に船外機を取り付けて以降、船外機をはずすことのない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JMU33470

船外機の取り付け

船外機の取り付けに際しては、操船に支障をきたさないよう、ボートの安定性が良いことを確かめます。ボートの安定性を欠くと操船に支障をきたす恐れがあります。船外機の取り付けは、ボートトランサム中央（船体中心）上に船外機を取り付けます。



ZMU01760

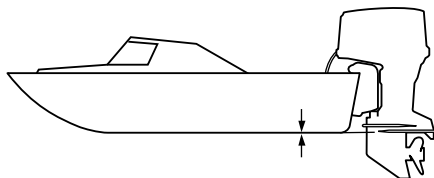
1. センターライン（キールライン）

JMU26933

取り付け高さ（船底）

船外機の取り付け高さは、船体の安定性と効率のよい航走に影響します。取り付け位置が高すぎると、プロペラベンチレーションが起りやすくなります。プロペラベンチレーションによりプロペラが空回りして推力が低下し、また冷却水取入口から十分な水が供給されず、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。また、エンジンの取り付け位置が低すぎると、水の抵抗（抗力）が増大し、その結果、エンジンの効率と性能が低下します。

一般的に船外機は、キャビテーションプレートが船底と一線になるように取り付けます。船外機の最適な取り付け高さは、船外機とボートの仕様の組み合わせや用途によって異なります。試走して最良の取り付け高さを決めてください。適切な取り付け高さについて詳しくは、ヤマハ販売店または船体製造メーカーにお問い合わせください。



ZMU01762

JCM01634

注 意

- ボートが最大積載状態で停止している時でも、船外機のアイドルホールが水面から十分に高く、エンジンに水が入らない位置であることを確認してください。
- エンジンの高さが不適当であるか、水流に対する障害（ボートの設計や状態、あるいはトランサムラダーや水深測定器などの付属物）が存在すると、ボートが航行して

船外機の取り付け

いる間、水しぶきが発生することがあります。水しぶきがある状態でエンジンを連続運転すると、トップカウルのインテークグリルから船外機内に水が入り、エンジンに深刻な損傷を与える恐れがあります。水しぶきの原因を解消し航行してください。

JMU36381

初めてお使いになる前に

JMU36391

エンジンオイルの補給

船外機は、エンジンオイルを入れずに出荷されています。販売店がオイルを補充しなかった場合は、エンジン始動前にご自身でオイルを補充してください。**注意：重大なエンジンの損傷を防ぐために、最初にエンジンを始動する前にオイルが補充されているか点検してください。** [JCM01781]

出荷した船外機には次のようなステッカが貼られています。購入後初めてエンジンオイルを補充した後、このステッカをはがしてください。オイル量のチェックについては 47 ページを参照してください。



ZMU01710

JMU30174

慣らし運転

新しいエンジンは、摺動部品の表面のなじみを出すために、慣らし運転の期間が必要です。慣らし運転を正しく行なうことにより初期性能をいかに発揮し、エンジンの構成部品の寿命も延びます。**注意：慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が減るばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。**

[JCM00801]

JMU27085

慣らし運転の手順

新しい船外機は、摺動部品が均等に摩耗するように、10 時間程度の「慣らし運転」を行う必要があります。

要 点

エンジンを水中で、以下の負荷で（プロペラを取り付けた状態）運転してください。10 時間の慣らし運転の時は、長時間のアイドリング運転を避け、また高い波や船舶が密集した水域を避けるようにしてください。

1. 最初の 1 時間：
エンジンを最大 2000r/min まで回転を上げながら運転するか、またはスロットルの開度を約半分で運転します。
2. 次の 1 時間：
ボートを滑走させるために必要な速度までエンジンの回転を上げ（但しスロットルを全開にした操作は避けてください）、次に滑走状態を維持しながらスロットルを戻します。
3. 最後の 8 時間：
エンジンを任意の速度で回転させます。しかし、一度に 5 分間以上スロットルを全開の状態では走らせないようにしてください。
4. 10 時間以降：
通常にご使用できます。

JMU36400

ボートをよく知ろう

ボートにより扱い方は異なります。ボートを異なる条件、トリム角度で操縦することを練習している間は、注意して運転してください。59 ページを参照ください。

JMU36413

始動前点検

JWM01921

⚠ 警 告

始動前点検中に異常が見つかったときには、修理や整備を済ませてから使用してください。事故につながる恐れがあります。

JCM00120

注 意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。オーバーヒートしてエンジンが損傷します。

運転と操作

JMU36421

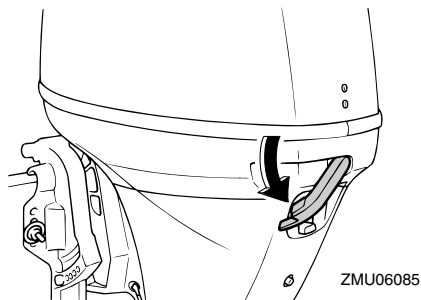
燃料残量

航行に必要な燃料を十分積んでいることを点検してください。燃料消費の良い目安は、三分の一で目的地に達し、帰路用に三分の一を使用し、残る三分の一は非常用予備としておくことです。ボートをトレーラまたは水上で水平に保持したままキーを“ON”にして、燃料計が装備されている場合、燃料計を点検してください。燃料の補給については、50ページを参照してください。

JMU36572

トップカウルの取り外し

船外機からトップカウルを取り外して以下の点検を行ってください。トップカウルを取り外すには、カウルロックレバーのロックを解除しトップカウルを持ち上げます。



JMU36442

燃料系統

JWM00060



ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。

JWM00910



- 燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。
- 燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。

JMU36451

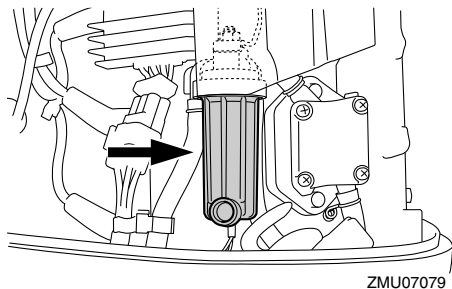
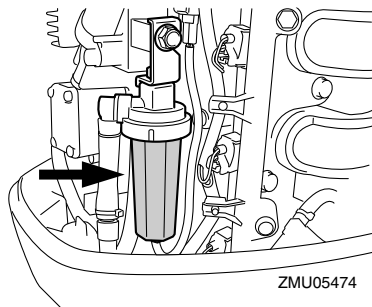
燃料漏れの点検

- ボート内の燃料漏れを点検してください。
- 燃料系統からの燃料漏れを点検してください。
- 燃料タンク及び燃料ホースを点検して、ひび割れ、膨れ、その他の損傷の有無を点検してください。

JMU36471

燃料フィルタの点検

燃料フィルタが清潔で水が溜まっていないことを点検します。燃料中に水が溜まりフロートが上昇した場合、または破片等が見つかった場合は、ヤマハ取扱店に燃料タンクの点検と清掃を依頼してください。



JMU36902

コントロールシステムの点検

ティラハンドル仕様；

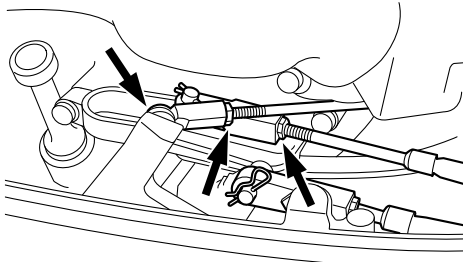
- ティラハンドルを左右いっぱい動かして、スムーズに動くことを確認してください。
- スロットルコントロールグリップを全開から全開に回し、動きがスムーズであるこ

とを確認し、スロットルコントロールグリップが完全に全閉位置に戻ることを点検してください。

- スロットルケーブルとシフトケーブルの接続の緩みや損傷がないか点検してください。

リモートコントロール仕様；

- ステアリングホイールを右舵一杯および左舵一杯まで回してください。各作動部分に引っ掛かりや、余分な遊びが無くスムーズに機能することを点検してください。
- 各スロットルレバーを数回操作してその動きに抵抗がないことを点検してください。動作の全行程を通じて操作がスムーズで、各レバーが完全にアイドル位置に復帰することを点検してください。
- スロットルケーブルとシフトケーブルの接続に緩みや損傷がないか点検してください。

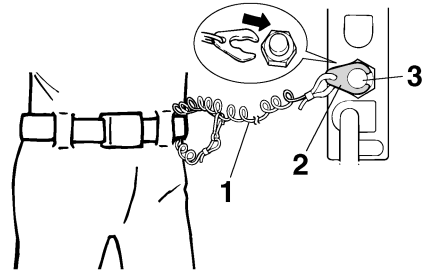


ZMU07105

JMU36483

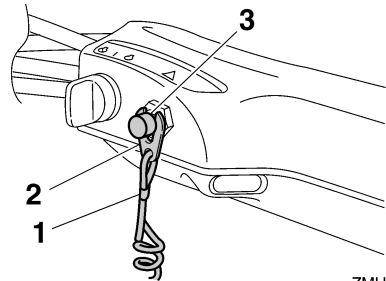
カールコード

カールコードやロックプレートに切れ目や割れ、摩耗などの損傷がないか点検します。



ZMU01716

1. カールコード
2. ロックプレート
3. 緊急エンジン停止スイッチ



ZMU05208

1. カールコード
2. ロックプレート
3. 緊急エンジン停止スイッチ

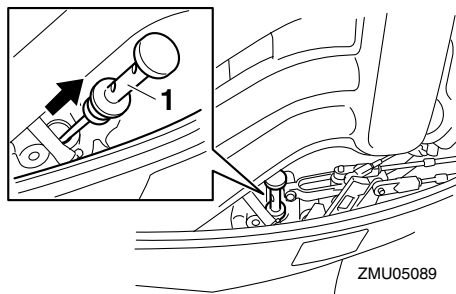
JMU37053

エンジンオイル

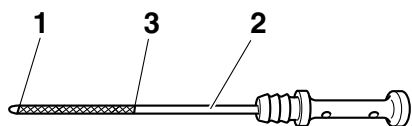
1. 船外機を垂直な状態にします。**注意：船外機が垂直な状態（チルトアップしていない）でなければ、オイルレベルを正しく計ることはできません。** [JCM01790]
2. オイルレベルゲージを引き抜き、付着しているオイルを拭き取ります。
3. オイルレベルゲージを完全にオイルレベルゲージガイドに差し込み 2 ～ 3 秒待ってから再び引き抜きます。さもなければ、正確にオイル量を測ることができません。
4. エンジンオイルの油面がオイルレベル

運転と操作

ゲージの上限マークと下限マークの間にあることを確認します。もし下限マーク以下の場合や上限マーク以上の場合、ヤマハ販売店で点検を受けてください。またエンジンオイルが汚れていたり、白く濁っている場合もヤマハ販売店で点検を受けてください。



1. オイルレベルゲージ



ZMU05091

1. 下限マーク
2. オイルレベルゲージ
3. 上限マーク

JMU27153

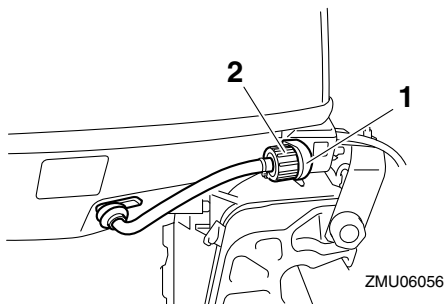
船外機本体

- エンジン取り付けボルトの緩みや、取り付けの状態を点検してください。
- プロペラの損傷を点検してください。
- エンジンオイル漏れを点検してください。

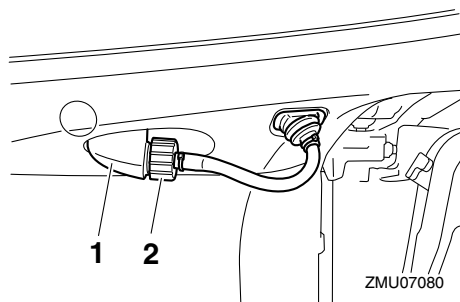
JMU36493

水洗装置

水洗装置の給水ホースコネクタをボトムカウル上の固定場所へ確実に取り付けます。**注意**・水洗装置の接続が確実にできていることを確認してください。冷却水が水漏れを起こし、エンジンが稼動中にオーバーヒートを起こす可能性があります。[JCM01801]



1. 固定場所
2. 水洗装置



1. 固定場所
2. 水洗装置

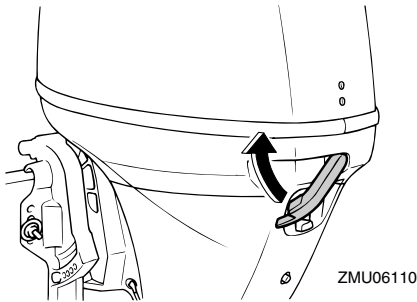
JMU36954

トップカウルの取り付け

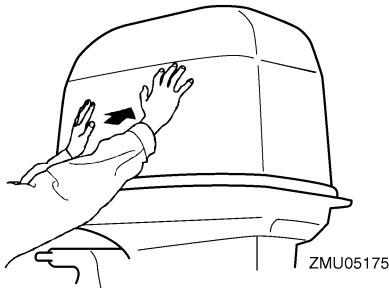
1. カウルロックレバーのロックが解除されていることを確認してください。
2. ゴムシールがトップカウルの全周に取り付けられていることを確認してください。

さい。

3. トップカウルをボトムカウリングの上に置いてください。
4. ゴムシールがトップカウルとボトムカウリングの合い面に正しく取り付けられていることを確認してください。
5. 図のようにレバーを動かしてトップカウルをロックしてください。**注意**: トップカウルを正しく取り付けないと、水しぶきによるエンジン損傷や高速航行時にトップカウルが吹き飛ぶ恐れがあります。[JCM01991]



取付け後、トップカウルを両手で押して確実に取り付けられているか点検してください。トップカウルが緩んでいる場合は、ヤマハ販売店に修理を依頼してください。



JMU34581

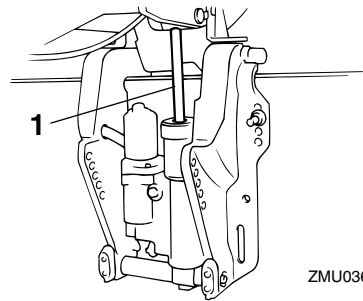
パワートリムアンドチルトユニットの点検

JWM01930

警告

- チルトアップしているときは、チルトサポートレバーで保持している場合でも船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。
- トリム / チルト角度を調整するときは、船外機の周辺に人が居ないことを確認し、身体が挟まれないように注意をして行なってください。
- 船外機の下に誰もいないことを確認してから点検を行なってください。

1. パワートリムアンドチルトユニットから、オイル漏れがないか点検します。
2. PTT スwitchの作動を点検します。
3. 船外機をチルトアップしたときに、トリムアンドチルトロッドがいっぱいに伸びているか点検します。



1. トリムアンドチルトロッド
4. トリムアンドチルトロッドが腐蝕または損傷していないか点検します。
5. 船外機をチルトダウンさせます。トリムアンドチルトロッドがスムーズに作動するか点検します。

運転と操作

JMU36582

バッテリー

バッテリーが良好な状態にあり、充電状態が良好かどうか点検します。バッテリーターミナルに汚れがなく、接続部の緩み、絶縁カバーがかかっていることを点検します。バッテリーターミナルは清潔で正しく接続してください。正しく接続されていないとバッテリーはエンジンを始動できません。

バッテリーの取扱説明書を必ず参照して点検作業を行ってください。

JMU31131

使用後の点検

船外機を使用した後、必ず以下のお手入れや点検を実施してください。

- エンジンを始動させ、クランクシリンダ（エンジン本体）部分等から冷却水洩れの無いことを点検してください。

要 点

冷却水洩れの点検については、55 ページを参照ください。

- エンジンオイル系統からエンジンオイル洩れの無いことを点検してください。エンジンオイル洩れが見つかった場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。
- エンジンオイル量の点検をしてください。

要 点

エンジンオイル量の点検については、47 ページを参照ください。

- 冷却経路が塩分、砂、ゴミなどで目詰まりしないように洗浄してください。

要 点

冷却経路の洗浄については、68 ページを参照ください。冷却経路が洗浄できない場合は、通常のメンテナンスサイクルよりも早めの定期点検を行なう必要があります。

- 船外機外部の清掃をしてください。

要 点

船外機外部の清掃については、72 ページを参照ください。

- プロペラの損傷を点検してください。

要 点

点検方法については、84 ページを参照ください。

JMU27439

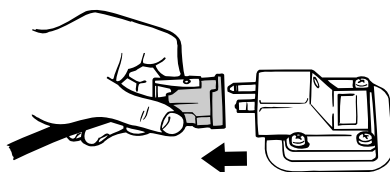
燃料タンクへの給油

JWM01830

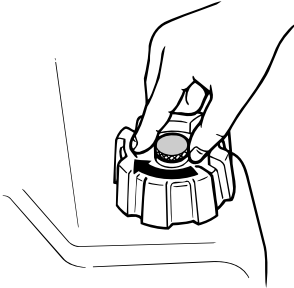
⚠ 警 告

- ガソリンおよびそれが気化した蒸気は極めて引火性が高く、爆発する恐れがあります。火災や爆発の危険を回避するために、常にこの手順に従って給油してください。
- ガソリンは毒性があり、傷害または死亡に至る恐れがあります。取り扱いには十分に注意を払ってください。口でガソリンを吸い上げることは決してしないでください。万一、ガソリンを飲み込んだり、または多量の揮発蒸気を吸ったり、または目に入ったりした場合、ただちに医師の診断を受けてください。万一、ガソリンが皮膚にこぼれた場合、石鹸と水で洗ってください。衣類に付着した場合は、着替えてください。

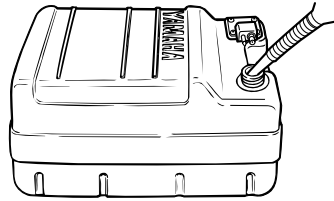
1. エンジンが停止していることを確認します。
2. 燃料タンク側の燃料ホースコネクタを外し、エアベントスクリュを閉めます。



ZMU06598



ZMU02301



ZMU02834

3. 燃料タンクをボートから下ろします。
4. 換気の良い戸外で確実に係留、またはトレーラ上に搭載した状態にあることを確認してください。
5. タバコを吸わないでください。また、スパーク（火花）、火災、静電気その他の発火源から離してください。
6. 携帯用のガソリン容器を使用して燃料の貯蔵と給油をおこなう場合は、消防法に適合したガソリン容器のみを使用してください。
7. 給油時は、静電気の火花を防ぐために、燃料パイプのノズル部分を給油口またはファンネル（漏斗）部に軽く触れさせてください。
8. 燃料タンクに燃料を給油します。**警告！** 燃料を入れすぎないようにしてください。入れすぎた場合、温度の上昇によって、燃料が膨張し溢れることがあります。[JWM02610]

燃料タンクの容量；
24 L

9. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。
10. こぼれたガソリンはただちに乾いたウエスで拭き取ってください。ガソリンを拭いたウエスは、正しい方法で廃棄してください。

JMU27452

エンジン操作

JWM00420

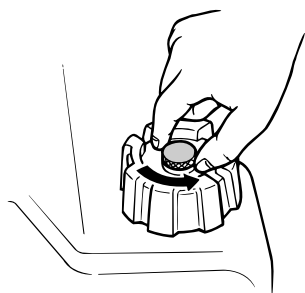
警告

- エンジン始動前にはボートを確実に係留し、付近に遊泳者がいないことや、障害物等がないことを確認してください。
- エアベントスクリュを緩めるときは、燃料がにじみ出たり燃料の揮発蒸気が漏れることがあります。火災や爆発の原因となりますので、タバコ等の火気は近づけないでください。
- 排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。

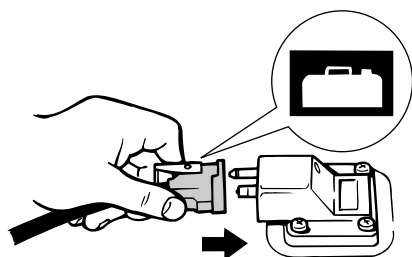
JMU27468

燃料供給（燃料タンク別体仕様）

1. 燃料タンクにエアベントスクリュが装備されているものは、2 ～ 3 回転緩めます。

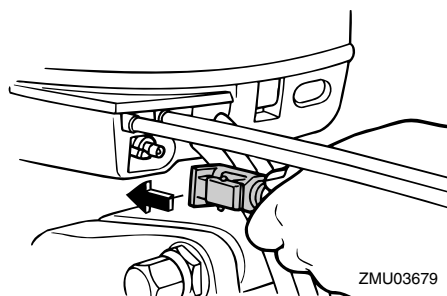


ZMU02295

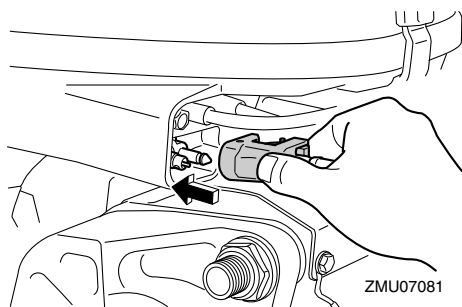


ZMU02024

- 燃料ホースコネクタが装備されている機種は、燃料ホースコネクタの方向を合わせて、つまみながら燃料ホースを確実に接続します。艇体に燃料コックが装備されているものはコックを開けます。



ZMU03679

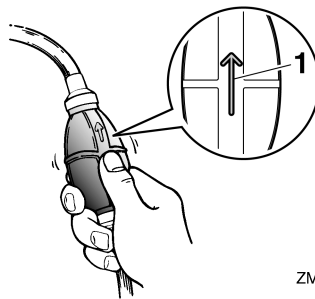


ZMU07081

要 点

こぼれたガソリンはただちに乾いたウエスで拭き取ってください。ガソリンを拭いたウエスは、正しい方法で廃棄してください。

- プライミングポンプの矢印を上に向け、固くなるまで握ったり離したりを繰り返します。燃料が適切に供給出来ない為、操作中は燃料タンクを水平にしてください。



ZMU02025

1. 矢印

JMU27494

エンジン始動

JWM01600



警告

エンジンを始動する前に、ボートがしっかり係留されていること、各作動部分がスムーズに機能することを確認してください。また、付近に遊泳者がいないことを確認してください。

JMU27595

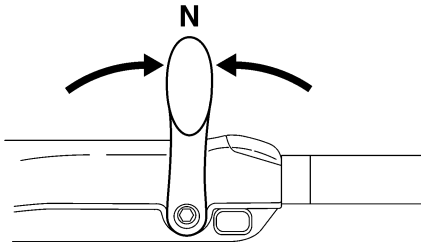
電動始動／プライムスタート仕様の手順

JWM01840

警告

- カールコードを付けないと操船者が船外に投げ出されたときにボートが暴走する恐れがあります。操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けしないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。
- 航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。

1. ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。

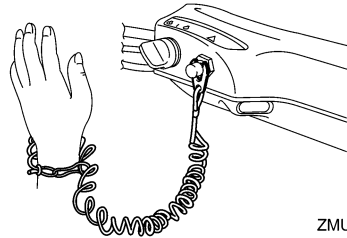


ZMU05215

要 点

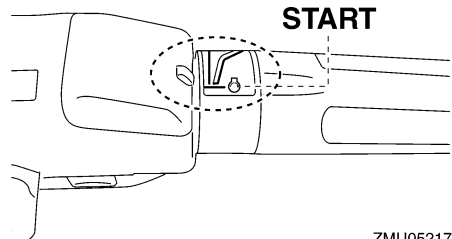
始動安全装置が作動するため、中立（ニュートラル）でなければエンジンの始動は出来ません。

2. カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。



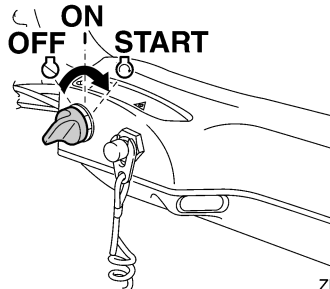
ZMU05216

3. スロットルコントロールグリップを始動位置“START”にします。



ZMU05217

4. エンジンスイッチを“START”の位置まで回してエンジンを始動させます。



ZMU05218

5. 始動後はただちにスイッチを“ON”の位置にします。**注意：**スタータモータは、連続して 5 秒以上回さないでください。スタータモータを 5 秒以上連続して回すと、バッテリーが上がりエンジンが始動できなくなる恐れがあります。5 秒以内にエンジンが始動しない時は、

運転と操作

10秒たってからもう一度行なってください。エンジン運転中は、エンジンスイッチを“START”の位置にしないでください。[JCM00192]

要 点

- 冬期など、外気温度の低い状態でエンジンが冷えているときは、暖機運転を行ないます。暖機運転については、55 ページを参照ください。

1 回で始動しない場合は、同じ操作を繰り返します。4 ～ 5 回行なっても始動しない場合は、91 ページを参照ください。又、エンジンが暖まった状態での始動が困難な場合は、スロットルを少し開いて行ってください。

JMU27664

電動始動の手順／リモートコントロール仕様

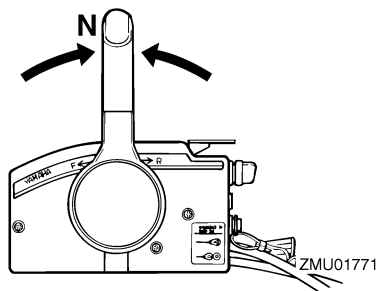
JWM01840



警 告

- カールコードを付けないと操船者が船外に投げ出されたときにボートが暴走する恐れがあります。操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。
- 航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。

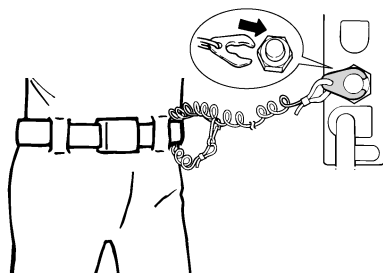
1. リモコンレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。



要 点

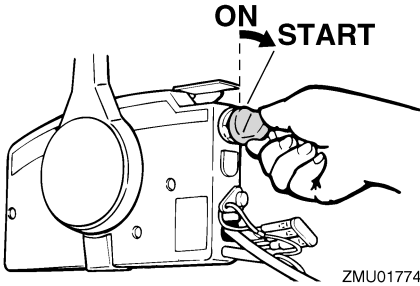
始動安全装置が作動するため、中立（ニュートラル）の状態でなければ、エンジンの始動はできません。

2. カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足にしっかりと付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。



ZMU01772

3. エンジンスイッチを“ON”の位置まで回します。
4. エンジンスイッチを“START”の位置まで回してエンジンを始動させます。



5. 始動後はただちにスイッチを“ON”の位置にします。**注意**：スタータモータは、連続して 5 秒以上回さないでください。スタータモータを 5 秒以上連続して回すと、バッテリーが上がりエンジンが始動できなくなる恐れがあります。5 秒以内にエンジンが始動しない時は、10 秒たってからもう一度行なってください。エンジン運転中は、エンジンスイッチを“START”の位置にしないでください。[JCM00192]

要 点

- エンジンが冷えているときは、暖機運転を行ないます。暖機運転については、55 ページを参照ください。
- 1 回で始動しない場合は、同じ操作を繰り返します。4 ～ 5 回行なっても始動しない場合は、91 ページを参照ください。又、エンジンが暖まった状態での始動が困難な場合は、スロットルを少し開いて行ってください。

JMU36510

エンジン始動後の点検

JMU36523

冷却水

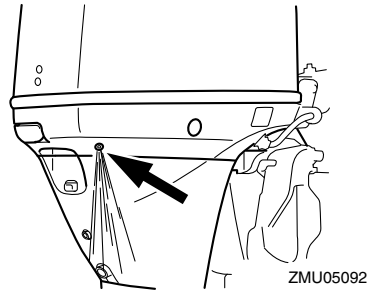
パイロットホールから勢いよく水が出ていることを点検してください。水が常時流れているということは、ウォータポンプが冷却経路を通じて水を送っていることを意味します。冷却経路が凍結している場合は、パイロットホールから水が流れ出るまでに少し

時間がかかることがあります。

JCM01810

注 意

エンジンが運転中にもかかわらずパイロットホールから水が一定して出ない場合は、オーバーヒートや重大な損傷が発生する恐れがあります。エンジンを停止して、冷却水取入口とパイロットホールの詰まりを点検してください。問題点が特定できず解決できない場合はヤマハ取扱店で点検を受けてください。



JMU27670

暖機運転

JMU27716

手動／電動始動仕様

1. エンジン始動後は 3 分間以上アイドリング（無負荷最低速運転）状態で運転してエンジンを暖めてください。（暖機運転を怠るとエンジンの寿命が短くなることが考えられます。）
2. 油圧低下警報灯（オイルランプ）が消灯していることを確認してください。**注意**：エンジン始動後、油圧低下警報灯が点滅した場合はエンジンを停止します。エンジンを停止しなかった場合、エンジンが損傷を受ける可能性があります。オイルレベルを点検し、必要に応じて補充します。油圧低下警報灯が点滅した原因を解決できない場合はヤマハ取扱店で点検を受けてください。[JCM01831]

運転と操作

JMU36531

暖機運転後の点検

JMU36541

シフト操作

ボートを確実に係留し、スロットルを使用しない状態でシフトが前進、後進、中立（ニュートラル）にスムーズに変われることを点検してください。

JMU31721

エンジン停止スイッチ

- エンジンスイッチを“OFF”にするとエンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外すとエンジンが停止することを点検してください。
- 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートが取り付けいていない状態では、エンジンが始動しないことを点検してください。

JMU34530

前進／後進

JWM00180



前進、後進をする前に、付近に遊泳者がいないことや障害物等がないことを確認してください。

JCM01610

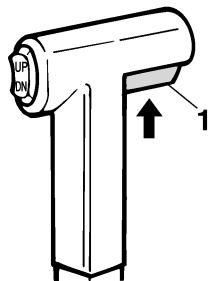
注意

- 前進、後進の操作をする前に、暖機運転を行ってください。エンジンが暖まるまでは、通常よりアイドリングスピードが高い場合があります。アイドリングスピードが高いときは、シフトを中立（ニュートラル）の位置まで戻せない場合があります。アイドリングスピードが高い場合は、エンジンを止め、シフトを中立（ニュートラル）にしてください。その後、エンジンを再始動して、暖機運転を行ってください。エンジン回転が下がらないまま、急激なシフト操作を行うとギヤ等に損傷を与える恐れがあります。

- 前進、後進のシフト操作を頻繁に行う場合は、早めにオイル交換を行ってください。シフト操作を頻繁に行うと、部品の消耗や劣化が通常よりも著しく進行することがあります。

前進または後進への操作

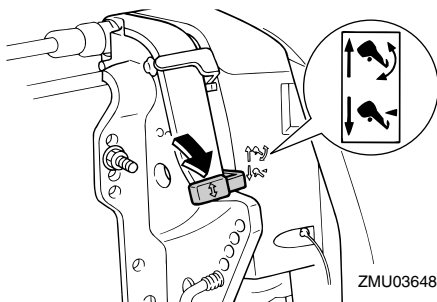
1. ニュートラルインタロック（サイドマウント仕様）を引き上げます。



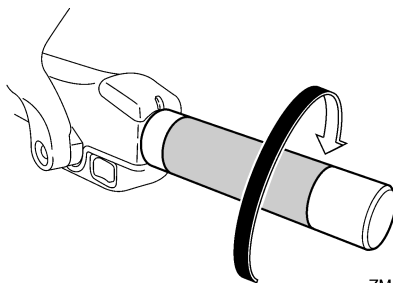
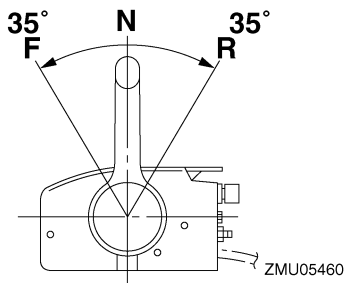
ZMU01727

1. ニュートラルインタロック

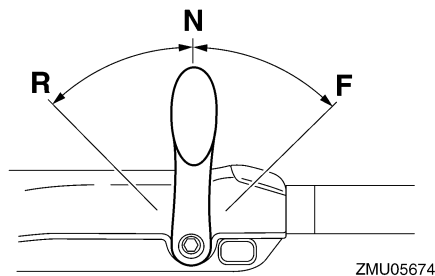
2. すみやかにリモコンレバー／ギヤシフトレバーを前進側（船首側）または後進側（船尾側）に倒します。リモコンレバーの場合は、後進側（船尾側）に約35°（軽く止まる位置）倒します。チルトロックレバーが装備されている場合、チルトロックレバーをロックの位置／チルトダウンの位置にします。



ZMU03648

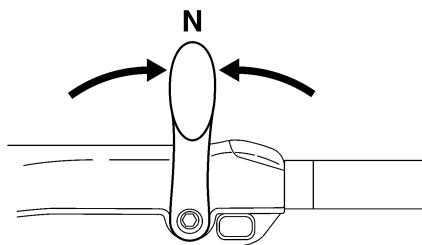
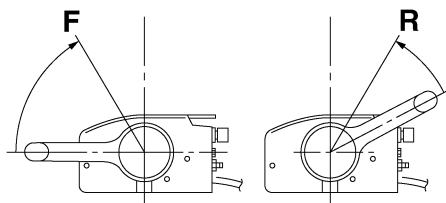
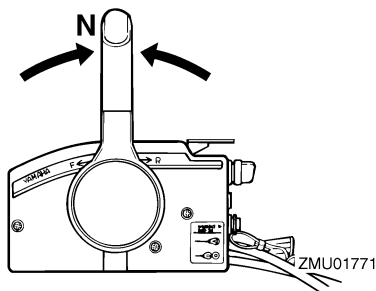


2. アイドリングスピードまで回転が落ちたら、すみやかにリモコンレバー／ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。



中立（ニュートラル）への操作

1. アイドリングスピードになるように、スロットルを閉じます。



JMU31742

停船

JWM01510



警告

- 船が制御不能に陥ったり、乗船者が船外へ投げ出されたり、ハンドルなどに身体を打ち付ける恐れがあるので、停船や減速のた

運転と操作

めに後進操作を行なわないでください。重大な傷害の原因となる恐れがあります。また、シフト機構に損傷を与える原因となる恐れがあります。

- プレーニングスピードのときは、シフトを後進にしないでください。船の制御が出来なくなり、船への浸水が起こり、損傷を与える原因となる恐れがあります。

船には、停船装置がありません。シフト中立（ニュートラル）操作後、エンジン回転数減少に伴う水の抵抗により停船します。停船距離は、総重量、水面の状態、風向によって異なります。

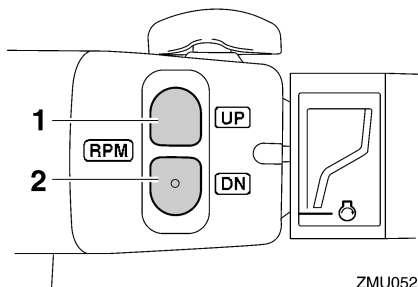
JMU30880

トローリング操作

JMU30890

トローリングエンジン回転数の調整

トローリングエンジン回転数調整スイッチ付仕様は、スイッチを押すごとに、トローリング時のエンジン回転数をおよそ50回転変更することができます。



ZMU05222

1. “UP” スイッチ
2. “DN” スイッチ

トローリングエンジン回転数を上げる場合は、“UP” スイッチを押します。

トローリングエンジン回転数を下げる場合は、“DN” スイッチを押します。

要 点

- トローリング時のエンジン回転数は、スイッチを押すごとにおよそ50回転変化し

ます。

- トローリングエンジン回転数調整スイッチで設定したトローリングエンジン回転数は、エンジン再始動後もしくはエンジン回転数が約 3000 回転以上になると設定が解除され、標準のトローリングエンジン回転数に戻ります。

JMU27821

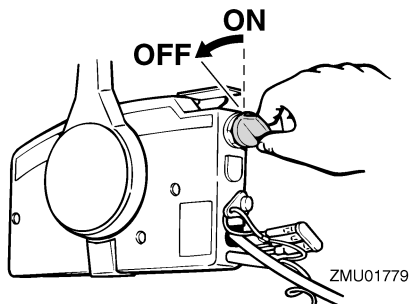
エンジン停止

エンジンを冷やすために、ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にして、数分間アイドリングを行います。高いエンジン回転での航走後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

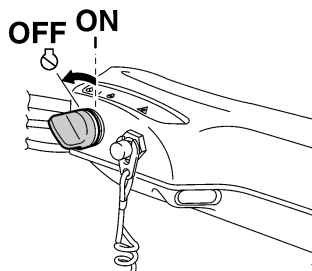
JMU27847

エンジン停止ボタン／エンジンスイッチ仕様

1. エンジン停止ボタンを数秒間押すか、エンジンスイッチを“OFF”の位置へ回します。（機種や仕様によって異なります）



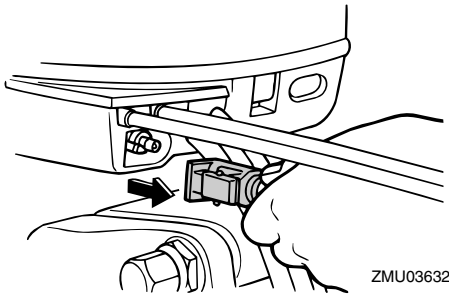
ZMU01779



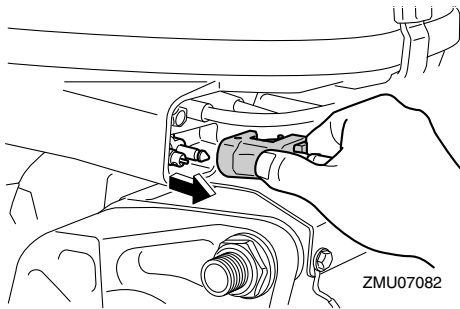
ZMU05223

2. 燃料ホースコネクタがある場合、エンジ

ン停止後に船外機から燃料ホースコネクタを外します。

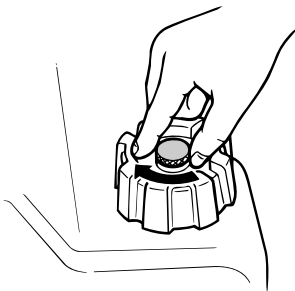


ZMU03632



ZMU07082

3. 燃料タンクにエアベントスクリュがある場合は閉めます。



ZMU02301

4. キーを抜きます。

要 点

カールコードを引っ張って緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを引き抜いてもエンジンは停止します。このとき、エンジンスイッチは必ず“OFF”にしておきます。

JMU27862

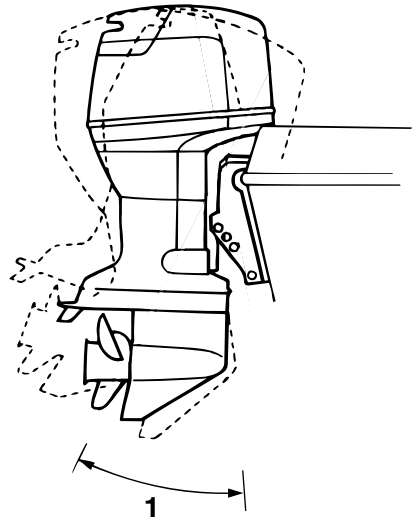
船外機トリム角度

JWM00740

警告

過度なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じた場合は、ただちに航走スピードを落とすかトリム角度の再調整を行なってください。

船外機のトリム角度は、航走中のボートの船首の高さの位置決めに使います。トリム角度が適正であれば、最大限の性能が発揮され燃費も向上します。適正なトリム角度は、船体、エンジン、プロペラの組み合わせで決まります。また、適正なトリム角度は、ボートの負荷、海況、航走スピード等によって変わります。



ZMU03633

1. トリム範囲

運転と操作

JMU27888

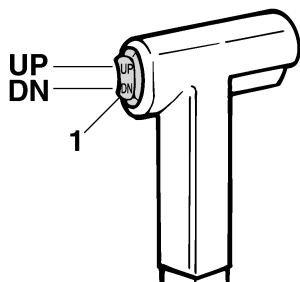
トリム角度の調整（パワートリムアンドチルト仕様）

JWM00753

警告

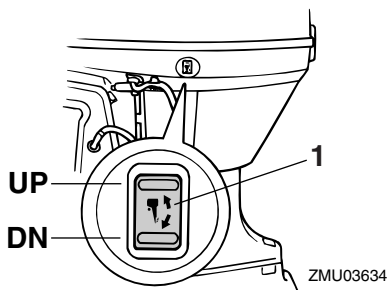
- トリム角度を調整するときは、船外機の周辺に人がいないことを確認してください。エンジンとクランプブラケットの間に身体が挟まれる危険があります。
- トリム角度を変えて最初に操船するときは、細心の注意を払ってください。徐々に速度を上げ、船体の安定性や操作系に問題が無いかどうか確認しながら行なってください。不適切なトリム角度は操船に支障をきたします。
- ボトムカウルの PTT スイッチ（装備されている場合）は、必ず停船してから使用してください。航走時のトリム角度の調整には使用しないでください。

トリム角度の調整は、PTT スイッチで行ないます。

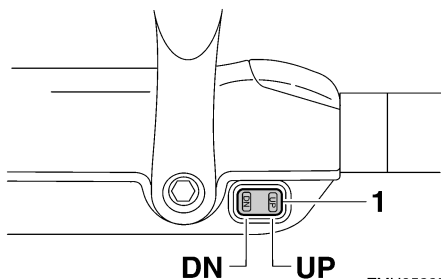


ZMU01781

1. PTT スイッチ



1. PTT スイッチ



1. PTT スイッチ

船首を上げる場合は、“UP” 側のスイッチを押します。

船首を下げる場合は、“DN” 側のスイッチを押します。

トリム角度を変えて試走を行ない、ボートの種類や使用の状態に合わせて最適な角度を選んでください。

JMU27892

トリム角度の調整（ハイドロチルト仕様）

JWM00491

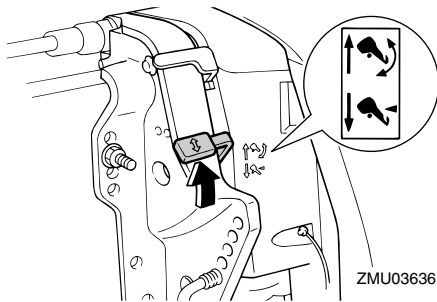
警告

- トリム角度を調整する前には、必ずエンジンを停止してください。
- トリム角度を調整するときは、船外機の周辺に人が居ないことを確認し、身体が挟ま

れないように注意をして行なってください。

- トリム角度を変えて最初に操船するとき
は、細心の注意を払ってください。徐々に
速度を上げ、船体の安定性や操作系に問題
が無いかどうか確認しながら行なってく
ださい。不適切なトリム角度は操船に支障
をきたします。

1. エンジンを止めます。
2. チルトロックレバーを解除の位置にし
ます。



3. 片手でトップカウルの後部を持ち、トリ
ム角度を適正な位置に調整します。
4. チルトロックレバーをロックの位置に
し、エンジンを保持させます。

船首を上げる場合は、エンジンをトリムアップ
します。

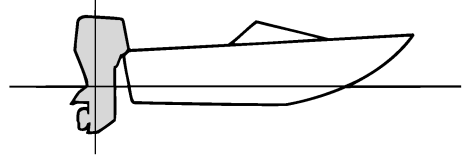
船首を下げる場合は、エンジンをトリムダウ
ンします。

トリム角度を変えて試走を行ない、ボートの
種類や使用の状態に合わせて最適な角度を
選んでください。

JMU27912

トリム角度の設定とボートの取り扱い

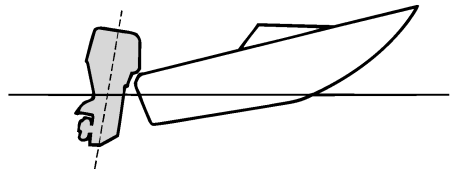
ボートが滑走する際、一般的に船首はキール
ラインが水面よりも $3^{\circ} \sim 5^{\circ}$ 上がっている
状態が安定し、効率もよくなります。船外機
トリム角度を大きく取ったときは、ボートは
左右どちらかにハンドルを取られる傾向を
示す場合があります。そのときはステアリン
グ操作で補ってください。



ZMU01784

船首上がり

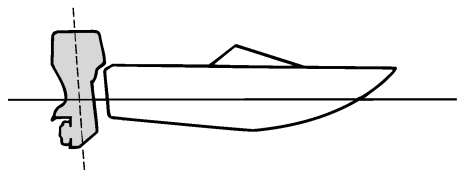
船外機のトリム角度を大きく取りすぎた場
合は、航走中に船首が上がり過ぎます。この
状態は船底への水の抵抗が増し、性能や燃費
が低下します。更に過度のトリムアップは、
プロペラがエアドロウを引き起こし大きな
性能低下を招きます。また、ボートが飛び跳
ね乗員が船外へ投げ出される恐れもありま
す。



ZMU01785

船首下がり

船首が下がっているときは、停止状態から
の発進加速が良くなります。高速航走での過
度のトリムダウン（トリムイン）は、船首の抵
抗が大きくなり、操船が困難となりボートの
安定性を欠き危険を招く恐れがあります。



ZMU01786

要 点

ボートの種類によっては、船外機のトリム角度の調整を行なっても航走姿勢が殆ど変化しないこともあります。

JMU27935

チルトアップ／ダウン

係留保管や浅瀬での係留時には、電蝕（水中の微弱電気による金属の腐蝕）や海草類の付着によってプロペラやロワケースが損傷を受けないように船外機をチルトアップします。

JWM00222



警 告

チルトアップ／ダウンの操作をするときは、付近に人が居ないことを確認してください。船外機とクランプブラケットの間に身体が挟まれる危険があります。

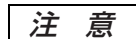
JWM00250



警 告

燃料漏れは、火災を招く恐れがあります。長時間チルトアップする場合は燃料が漏れることがありますので、燃料ホースコネクタを外すか燃料コックを閉じてください。

JCM00241



注 意

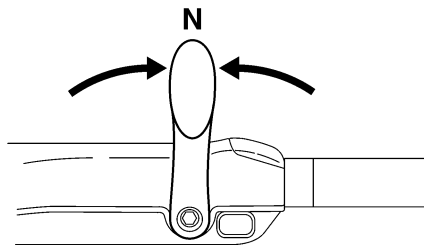
- エンジンを停止してからチルトアップしてください。エンジン運転中にチルトアップした場合、オーバーヒートによる損傷を受けます。
- ティラハンドル仕様の場合は、ハンドルを

押さえつけてチルトアップしないでください。ティラハンドルを損傷させる恐れがあります。

JMU33152

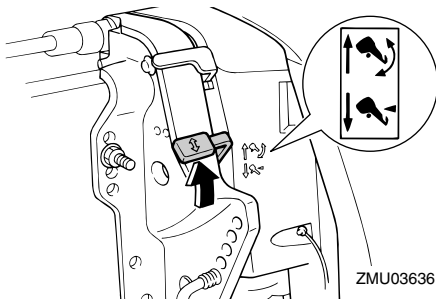
チルトアップ（ハイドロチルト仕様）

1. ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。



ZMU05215

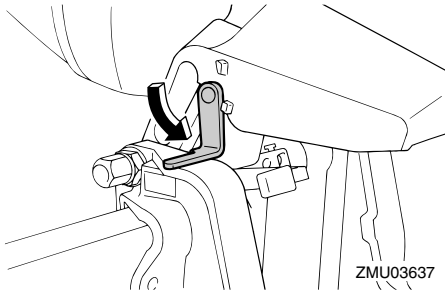
2. チルトロックレバーを解除の位置にします。



ZMU03636

3. 片手でトップカウルの後部を持ちチルトアップします。
4. チルトサポートノブ仕様は、チルトサポートノブを押し込みます。チルトサポートレバー仕様は、チルトサポートレバーを使って船外機を保持します。チルトロックレバーをロックの位置にします。**注意**：ボートを牽引するときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。船外機が振動のためにゆるんでチルトサポートから抜け落ちる恐れがあります。船外機を通常の航

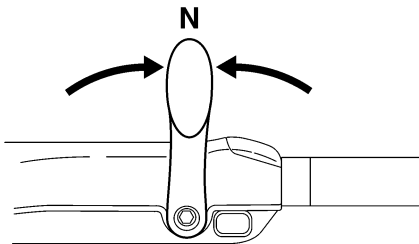
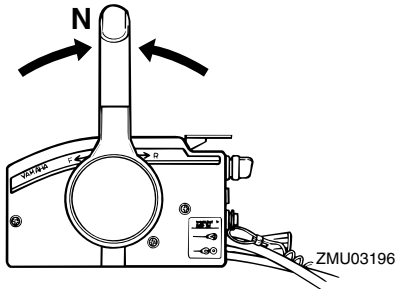
走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。[JCM01641]



JMU32724

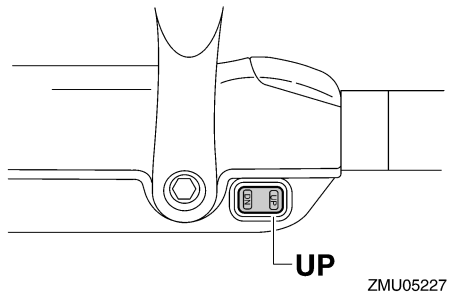
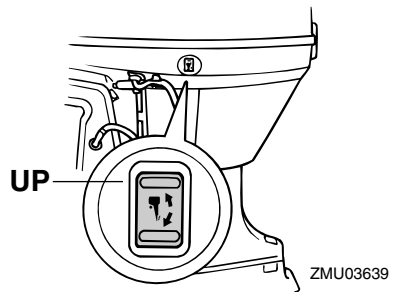
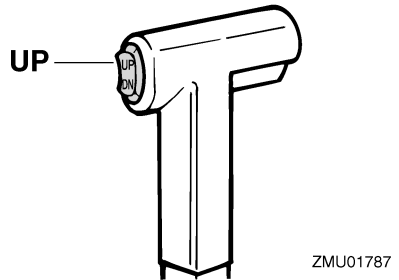
チルトアップ（パワートリムアンドチルト仕様）

1. リモコンレバー／ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。



2. PTT スwitchの“UP”側を押して船外機をいっぱいまでチルトアップさせま

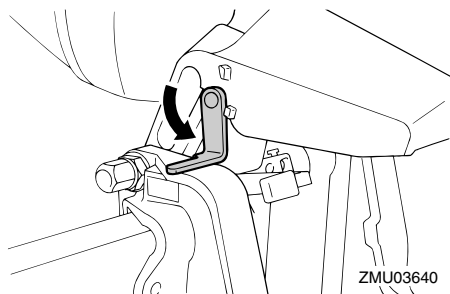
す。



3. チルトサポートレバーをクランプブラケットの方へ回して船外機をささえます。**警告！**チルトアップ後は必ずチルトサポートレバー／ノブを押し込んで船外機を保持してください。パワートリムアンドチルトユニットの油圧が抜けて船外機が不意にチルトダウンする場合があります。チルトサポートレバー／ノブで保持したままの運転は絶対に行わないでください。[JWM00262] **注意：**ボー

運転と操作

トを牽引するときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。船外機が振動のためにゆるんでチルトサポートから抜け落ちる恐れがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。[JCM01641]

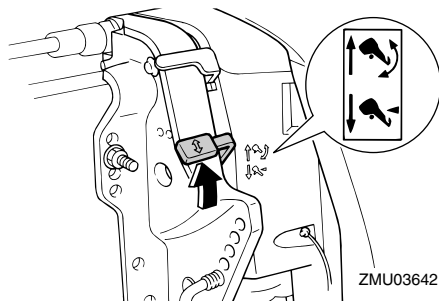


4. トリムロッド付きは、一度チルトサポートレバーで船外機を保持した後、PTTスイッチの“DN”側を押してトリムロッドを縮めます。**注意**：係船中は必ずトリムロッドをいっぱいまで縮めてください。パワートリムアンドチルト機構に損害を及ぼす恐れのある海藻類や電食からトリムロッドを保護します。[JCM00252]

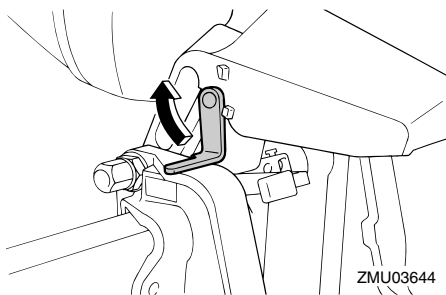
JMU34480

チルトダウン（ハイドロチルト仕様）

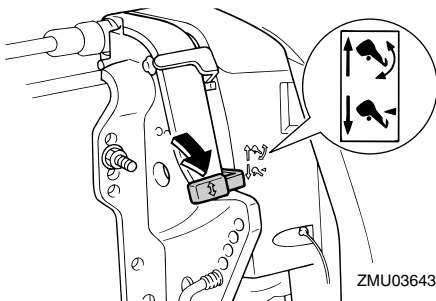
1. チルトロックレバーを解除の位置にします。



2. 片手でトップカウルの後部を持ち、少しチルトアップした状態でチルトサポートノブを引きだします。又は、チルトサポートレバーを元の位置に戻します。



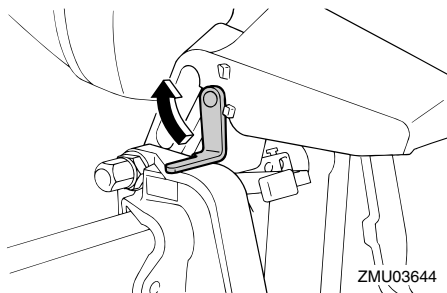
3. ゆっくりとチルトダウンします。
4. チルトロックレバーをロックの位置にします。



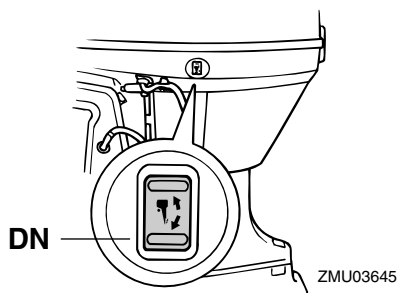
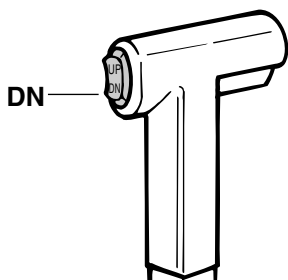
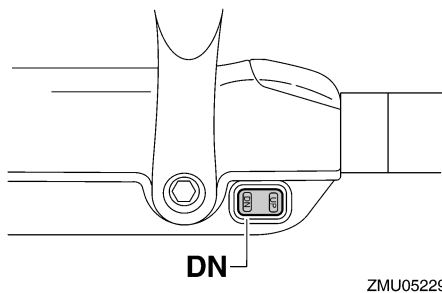
JMU33121

チルトダウン（パワートリムアンドチルト仕様）

1. PTTスイッチの“UP”側を押し、いっぱいまでチルトアップされた状態にします。
2. チルトサポートレバーを元の位置に戻します。



3. PTT スwitchの“DN”側を押してチルトダウンさせます。



JMU28062

JMU28081

浅瀬航走

ハイドロチルト仕様

この船外機（ハイドロチルト仕様）は少しチルトアップした状態で、プロペラの位置を水底から遠ざけることにより浅瀬を航走することが出来ます。

JWM00271

⚠ 警告

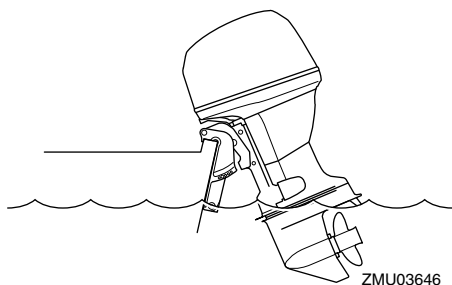
- 水中の障害物等にロワケースが衝突した場合、水面上にはね上がり操船に支障をきたす恐れがあります。
- 過大な後進出力を使用した場合は、水面上にプロペラがはね上がり大きな事故の原因となる恐れがありますので、十分に注意をしてください。

JCM00260

注意

浅瀬航走中は冷却水取入口が水面上へ出るまでチルトアップしないでください。オーバーヒートによる損傷を受けることが考えられます。

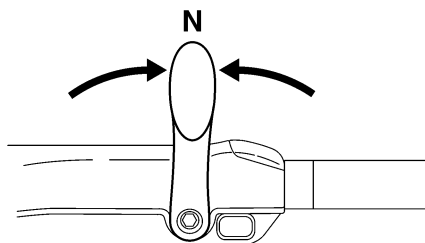
運転と操作



JMU32840

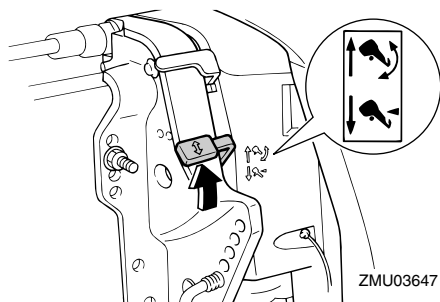
浅瀬航走セットの手順（ hidroチルト）

1. ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。



ZMU05215

2. チルトロックレバーを解除の位置にします。

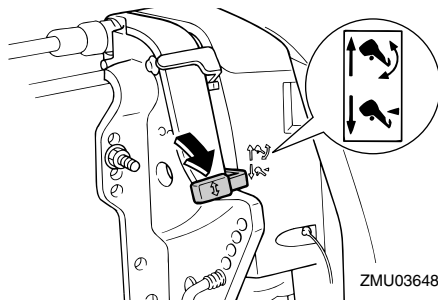


ZMU03647

3. トップカウルの後部を持ち、チルトアップして適当な位置を保持したままチルトロックレバーをロックの位置へ戻します。この状態で浅瀬航走ができます。
4. 元に戻すときは、トップカウルの後部を

持ち船外機を保持したままチルトロックレバーを解除の位置へ戻します。ゆっくりとチルトダウンします。

5. チルトロックレバーをロックの位置にします。



ZMU03648

JMU32851

パワートリムアンドチルト仕様

この船外機は少しチルトアップした状態で、プロペラの位置を水底から遠ざけることにより浅瀬を航走することができます。

JCM00260

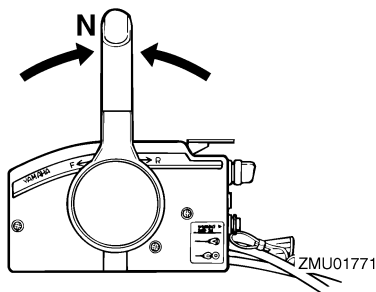
注意

浅瀬航走中は冷却水取入口が水面上へ出るまでチルトアップしないでください。オーバーヒートによる損傷を受けることが考えられます。

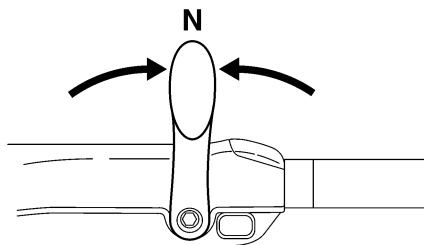
JMU32913

浅瀬航走セットの手順（パワートリムアンドチルト）

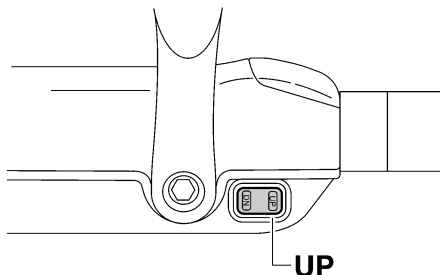
1. リモコンレバー／ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。



ZMU01771



ZMU05215



ZMU05227

2. PTT スイッチで船外機を少しチルトアップさせます。この状態で浅瀬航走ができます。**警告！**ボートが航行中またはエンジンが稼動中に PTT スイッチを使用すると落水の危険性が増し、また操船者が操船に集中できずに、別のボートもしくは障害物と衝突する危険が増加します。[JWM01850]

JMU35391

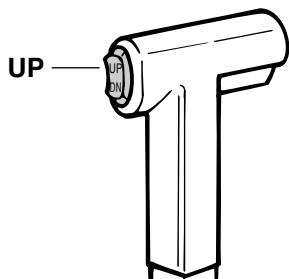
他の航走状況

海水域での航行

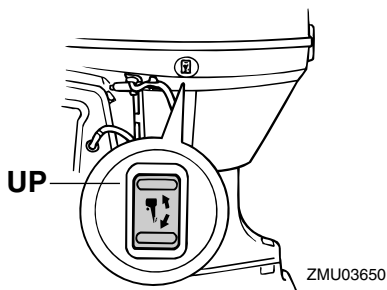
海水域で航行後は、冷却経路を真水で勢いよく洗い流して、目詰まりが生じないようにしてください。船外機の外部も真水で洗ってください。

泥水や濁り水、酸性水域での航行

酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域を航行した後は、冷却経路を真水で洗い流し、腐食を防止してください。船外機の外部も真水で洗ってください。



ZMU01935



ZMU03650

JMU2822A

運搬と保管

JWM02620

警告

- 燃料容器の最大容量まで燃料を入れないでください。ガソリンは暖まることによって膨張し、燃料容器が膨張します。燃料漏れや火災の原因になります。
- 燃料漏れは火災の原因になります。船外機を運搬、保管する際は燃料ホースコネクタを船外機から外し燃料漏れを防止します。
- チルトアップした船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。
- ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が突然降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

JCM02440

注意

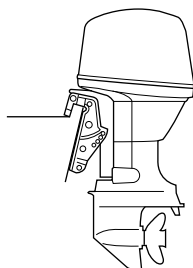
燃料を長期間保管する際は、燃料を燃料タンクから抜いてください。燃料の劣化により、燃料系統が詰まりエンジンが始動しにくくなるばかりでなく、エンジンが不調になる可能性があります。

燃料を運搬や保管する際は、消防法に適合した携帯タンクに保管してください。船外機を運搬または保管する際は、燃料に関する以下の項目を確認してください。

- 燃料ホースコネクタを船外機から外してください。
- 燃料タンクの燃料タンクキャップとエアベントスクリュを確実に締めてください。
- 係留保管やボートを牽引する時など長期間チルトアップする場合は、燃料ホースコ

ネクタを船外機から外し、燃料タンクキャップとエアベントスクリュを確実に締めてください。

船外機の運搬と保管は通常の航走状態と同じ姿勢で行なってください。このときに、路面から十分に間がとれない場合は、チルトアップして船外機を確実に保持できるような道具（トランサムバー等）を使用して運搬してください。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。



ZMU03659

JMU28280

長期保管

船外機を長期にわたって保管する場合は、劣化損傷を防ぐためにヤマハ取扱店にて格納点検を受けられることをお奨めいたします。ご自身でやられる場合は、簡易的方法として次のようにしてください。

JCM01080

注意

- オイルパンからシリンダ内へオイルが流れ込む不具合を避けるために運搬や保管のときは、垂直状態に保ってください。横にして保管や運搬をする場合はエンジンオイルを抜いてクッションなどを敷いてください。
- 冷却水が完全に抜けるまで、船外機を横にして置かないでください。冷却水が排気側からシリンダ内へ流れ込み損傷の原因になります。
- 船外機の保管は、乾燥した風通しの良い場所で行なってください。直射日光の当たる

場所には置かないでください。

JMU28305

保管手順

JMU41480

水洗キット（オプション）を使った洗浄

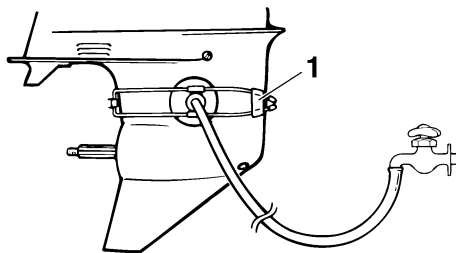
JCM02130

注 意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。ウォーターポンプが壊れ、オーバーヒートしてエンジンが損傷します。

塩分、砂、ゴミなどによるエンジン冷却経路の目詰まりを防止するために洗浄が必要です。さらに防錆剤（マリンガード）を吹き付けることにより、錆による損傷を防ぐことができます。洗浄と吹き付けは同時に行ってください。

1. 真水を使って船外機外部を洗ってください。**注意：インテークグリルに水を噴きつけないでください。** [JCM01840] 詳細は 72 ページを参照ください。
2. 燃料ホースを燃料ホースコネクタから外します。
3. トップカウルを外し、フライホイールカバーとプロペラを外します。（85 ページを参照ください。）
4. 水洗キットのゴムカップが冷却水吸水口をふさぐように取り付けます。副冷却水吸水孔が有る場合は、ガムテープのようなものでふさいでください。**注意：冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。ウォーターポンプが壊れ、オーバーヒートしてエンジンが損傷します。エンジン始動前には、冷却経路に水を供給してください。洗浄中は高速運転をしないでください。オーバーヒートする恐れがあります。** [JCM02000]



ZMU01830

1. 水洗キット

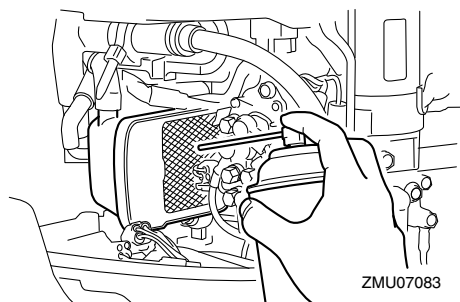
要 点

- 水洗キットはヤマハ販売店によりお求めになれます。
 - 水洗キットを利用する場合、一定の水圧と水流を保ってください。
5. シフトを中立（ニュートラル）にしてエンジンを始動させます。**警告！エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。エンジン運転中は、手、髪、衣服等を回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。**

[JWM00091]

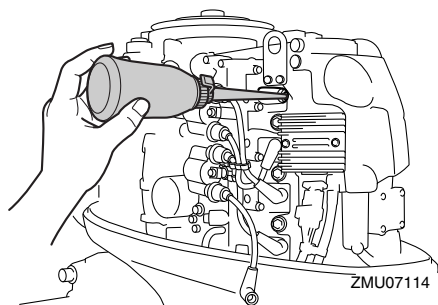
要 点

- オーバーヒート警報装置が作動した場合は、エンジンを停止してヤマハ取扱店で点検を受けてください。
6. エンジンを停止させる前に、サイレンサカバーの吹き付け孔に素早く防錆剤（マリンガード）を吹き付けます。十分に行き渡れば、エンジンが停止します。

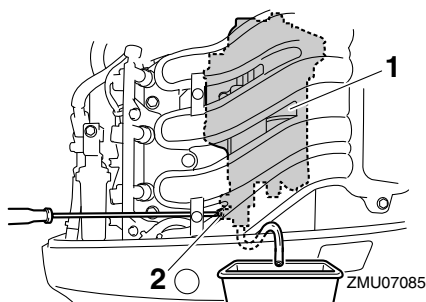


要 点

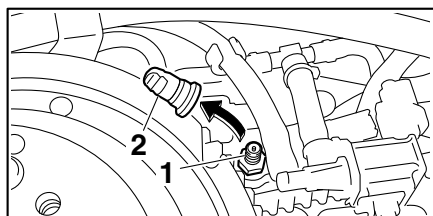
防錆剤（マリンガード）が使用できない場合、スパークプラグを外します。少量のエンジンオイルをシリンダ内へ注入します。手動でフライホイールロータを4～5回転させオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取り付けます。



7. 容器を使ってベーパーセパレータのドレンから出るガソリンを受けながら、ドレンスクリューとキャップを外します。ドライバ等でエアバルブを押します。フロート室内に空気を導入して、ドレンからガソリンをスムーズに抜きます。



1. ベーパーセパレータ
2. ドレンスクリュー



1. エアバルブ
2. キャップ

8. 水洗キットを取り外します。
9. 船外機から冷却水を完全に抜き、表面をふきあげます。
10. フライホイールカバーを取り付けトップカウルとプロペラを取り付けます。
11. 船外機の保管は、乾燥した風通しの良い場所で行なってください。直射日光の当たる場所には置かないでください。

JMU31333

エンジン内部冷却経路の洗浄

ご使用後はその都度、水洗装置を使って冷却

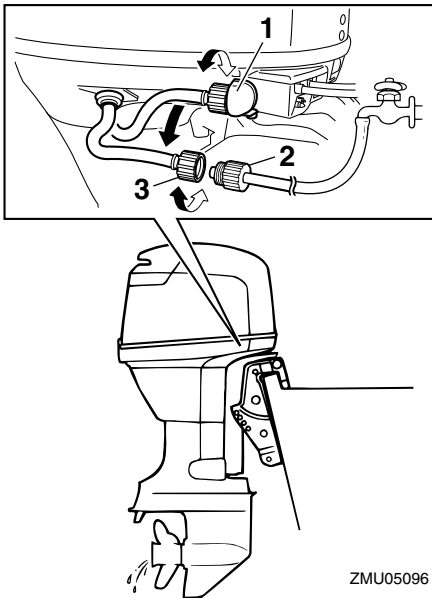
経路を洗浄してください。

JCM01530

注意

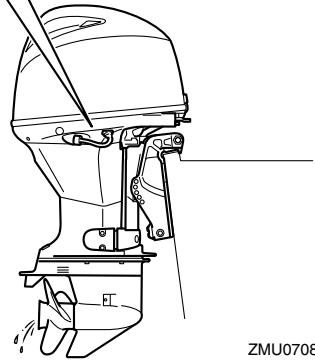
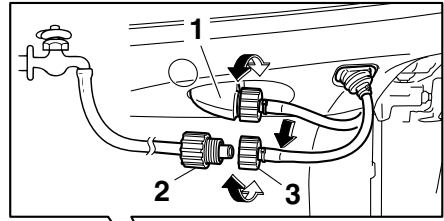
エンジンは始動しないでください。ウォータポンプが壊れ、オーバーヒートしてエンジンが損傷します。

1. エンジンを停止します。
2. ボトムカウル上の固定場所から給水ホースコネクタを外します。



ZMU05096

1. 固定場所
2. 水道ホースアダプタ (同梱)
3. 給水ホースコネクタ



ZMU07087

1. 固定場所
2. 水道ホースアダプタ (同梱)
3. 給水ホースコネクタ
3. 水道ホースアダプタを使用して、給水ホースコネクタと水道ホースを接続します。
4. エンジンを停止させたまま、水道水を約15分間供給します。
5. 水道水の給水を止め、水道ホースアダプタを外します。
6. 給水ホースコネクタをボトムカウル上の固定場所へ確実に取り付けます。**注意**:通常運転時は、給水ホースコネクタがボトムカウルの固定場所で緩んだ状態や、外れたままの状態にしないでください。冷却水が漏れてオーバーヒートの原因になります。洗浄後は、給水ホースコネクタをボトムカウルの固定場所へ確実に取付けてください。[JCM00541]

要点

- 接続の際は、船外機に同梱されている水道

点検と整備

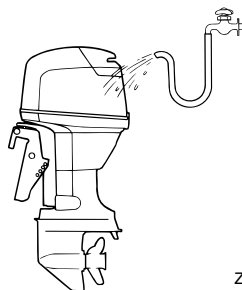
ホースアダプタを使用してください。

- 水上での洗浄はチルトアップしたほうが、より効果的に水が循環します。

JMU28452

船外機の清掃

ご使用後は真水で船外機の外部を洗ってください。冷却経路の洗浄も併せて行ってください。



ZMU02550

JMU28461

船外機外装の点検

船外機本体表面の傷、破損、塗装の剥がれ、変色（白化）等がないか点検してください。塗装の剥がれがある場合は、ヤマハ船外機専用の塗料で補修してください。詳しくはヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU30930

使用前／使用後点検

JMU30943

使用前／使用後点検表

“●”印の項目については、お客様ご自身で点検を行なってください。

項目	内容	使用前	使用後
アノード（外部取り付け）	点検／交換	●	
冷却経路	清掃		●
燃料	点検	●	
水検知スイッチ付き燃料フィルタ	点検	●	
燃料タンク（ヤマハ専用タンク）	点検／交換	●	
プロペラ／割ピン	点検／交換	●	●
エンジンオイル量	点検／交換	●	●
外観（船外機本体）	水洗／清掃		●
スロットル	点検	●	
シフト	点検	●	
ステアリング	点検	●	
各作動部	点検	●	
各接続部	点検	●	
エンジン始動スイッチ	点検	●	
エンジン停止スイッチ／緊急エンジン停止スイッチ	点検	●	
取り付けボルト／取り付け状態（船外機本体）	点検	●	
バッテリー	点検／交換	●	
冷却水洩れ	点検		●
エンジンオイル洩れ	点検	●	●

JMU2847C

定期点検

JWMO1871



これらの手順には工具、用品および技術スキルが必要です。お客様自身が整備作業についてあまり熟知されず、工具や用品がない場合は、ヤマハ取扱店または資格を持った整備士に整備を依頼してください。

この手順には、船外機の分解作業と危険な部品の取り扱いが含まれます。可動、高熱部品

または電気部品による負傷を防止するために：

- お客様自身で整備作業をおこなう場合は、特別な指示がない限り、エンジンを停止してキーとカールコードを船外機から外して保管してください。
- PTT スイッチは、エンジンスイッチが“OFF”の時に動作します。船外機付近で作業する場合はかならず、第三者をスイッチ類に近づけないようにしてください。船外機をチルトアップした場合は、船

点検と整備

外機の下やクランプブラケットの間に入らないでください。パワートリムアンドチルト機構を動かす前に、船外機付近に人がいない事を必ず確認してください。

- 高熱の部品や各種液体の取扱いは、エンジンが冷えた後でおこなってください。
- 取り外した部品は必ず組み付けてからエンジンを運転してください。

JMU34151

シビアコンディション

シビアコンディションとは、以下に示す操作を単独または組み合わせて行った場合を指します。

- 長時間にわたり、船外機を最大回転数 (r/min) またはそれに近い回転数で継続して運転した場合
- 長時間にわたり、船外機を低い回転数 (r/min) で継続して運転した場合
- 十分な暖機を行わず、また十分に冷やさないうでエンジンを停止した場合
- 急加速と急減速を頻繁に行った場合
- シフト操作を頻繁に行った場合
- エンジンの始動と停止を頻繁に行った場合
- 積載物を軽い状態と重い状態とに頻繁に変化させて、運転した場合

上記のような条件で船外機を運転した場合、通常のメンテナンスサイクルよりも早いサイクルで整備を行う必要があります。当社は、整備手帳に定めた整備の周期に対し、その 1/2 の間隔で整備を行うようにお客様に勧告致します。たとえば、ある整備を 50 時間毎に実施すると定めている場合は、(上記のような過度の取扱い条件の場合)25 時間毎に整備を行ってください。そうすることにより、エンジン構成パーツの短期間での劣化を防ぐことができます。

JMU3056B

定期点検表 1

要 点

- 作業内容についての説明は本章の各項目を参照してください。
- この点検表は 1 年 200 時間を想定したメンテナンスサイクルで、使用後には冷却水通路の水洗が行われていることが基本となっています。シビアコンディションで使用した場合は、通常のメンテナンスサイクルよりも早めに点検を行ってください。
- 各部の点検結果により分解・修理作業を必要とする場合があります。
- 消耗部品及び油脂類は、保証期間によらず使用過程で確実に消耗・劣化します。
- 酸性水域や泥水、濁り水のような沈殿物の多い水域等でのご使用後は、真水を使って洗浄してください。お客様の船外機の使用状況により、点検時間が異なる場合がありますのでご了承ください。詳しくはヤマハ取扱店へご相談ください。
- “●” 印の項目については、お客様ご自身で点検を行ってください。
- “○” 印の項目については、最寄りのヤマハ取扱店に依頼してください。

項目	内容	初回	次回		
		10 時間 (1ヶ月)	50 時間 (3ヶ月)	100 時間 毎 (6ヶ月毎)	200 時間 毎 (1年毎)
アノード (外部取り付け)	点検／交換			●/○	
アノード (シリンダヘッド、サーモスタットカバー)	点検／交換			○	
バッテリー (電解液の量、ターミナル)	点検	●/○	●/○	●/○	
バッテリー (電解液の量、ターミナル)	補充／充電／交換			○	
冷却水漏れ	点検／交換	○	○	○	
カウルロックレバー	点検				○
燃料フィルタ (分解交換タイプ)	点検／交換	●/○	●/○	●/○	
燃料ホース (高圧燃料経路)	点検	●	●	●	
燃料ホース (高圧燃料経路)	点検／交換	○	○		○
燃料ホース (低圧燃料経路)	点検	●	●	●	
燃料ホース (低圧燃料経路)	点検／交換	○	○		○
燃料／エンジンオイル漏れ	点検	○	○	○	
燃料タンク (別体型タイプ)	点検／清掃	○	○	○	

点検と整備

項目	内容	初回	次回		
		10 時間 (1ヶ月)	50 時間 (3ヶ月)	100 時間 毎 (6ヶ月毎)	200 時間 毎 (1年毎)
ギヤオイル	交換		●/○	●/○	
グリスポイント	注入		●/○	●/○	
エンジンのかかり具合 ／騒音	点検	●/○	●/○	●/○	
アイドル回転数／騒音	点検	●/○	●/○	●/○	
パワートリムアンドチ ルトユニット	点検	●/○	●/○	●/○	
プロペラ／プロペラ ナット／割ピン	点検／交換	●/○	●/○	●/○	
シフトリンク／シフト ケーブル	点検／調整／交換	○	○	○	
サーモスタット	点検／交換				○
スロットルリンク／ス ロットルケーブル／ス ロットルピックアップ タイミング	点検／調整／交換				○
インペラ／ウォータパ ンプハウジング	点検／交換			○	
冷却水点検孔の水	点検	●/○	●/○	●/○	
冷却水取入口	点検	●/○	●/○	●/○	
エンジンオイル	交換	●/○		●/○	
オイルフィルタ（カー トリッジ仕様）	交換	○			○
タイミングベルト	点検／交換			○	
バルブクリアランス	点検／調整				○
エンジンスイッチ／ス トップスイッチ	点検／交換	○	○	○	
ワイヤハーネス接続部 ／ワイヤカブラ接合部	点検／交換	○	○	○	
計器類（純正）	点検	○	○	○	
スパークプラグ	点検／交換			●/○	
スパークプラグキャッ プ／ハイテンション コード	点検／交換			○	

JMU2887A

定期点検表2

項目	内容	次回	
		500 時間毎 (2 年 6ヶ月毎)	1000 時間毎 (5 年 毎)
アノード (エキゾーストカバー、冷却水経路カバー、レクチファイア / レギュレータカバー)	交換	○	
タイミングベルト	交換		○
燃料フィルタ (ベーパーパレータタンク)	交換		○
燃料ポンプ	点検 / 交換	○	
インペラ / ウォータポンプハウジング	交換	○	
エキゾーストガイド、エキゾーストマニホールド	点検 / 交換		○

点検と整備

JMU28943

グリス給脂箇所

ヤマハグリス A (耐水グリス)

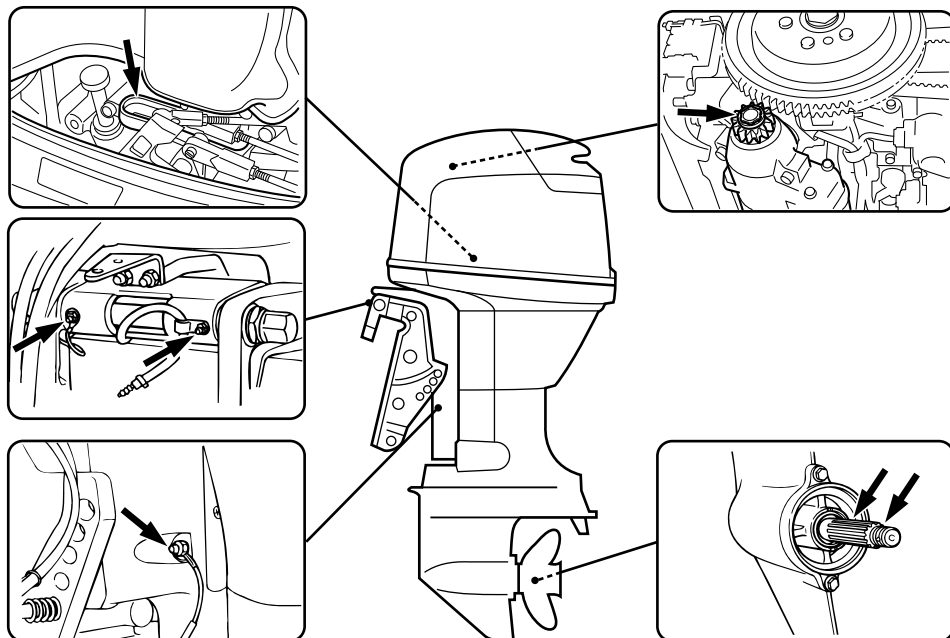
部品番号 90890-69910(50g)

90890-69911(250g)

ヤマハグリス D (耐食グリス) プロペラシャフト用

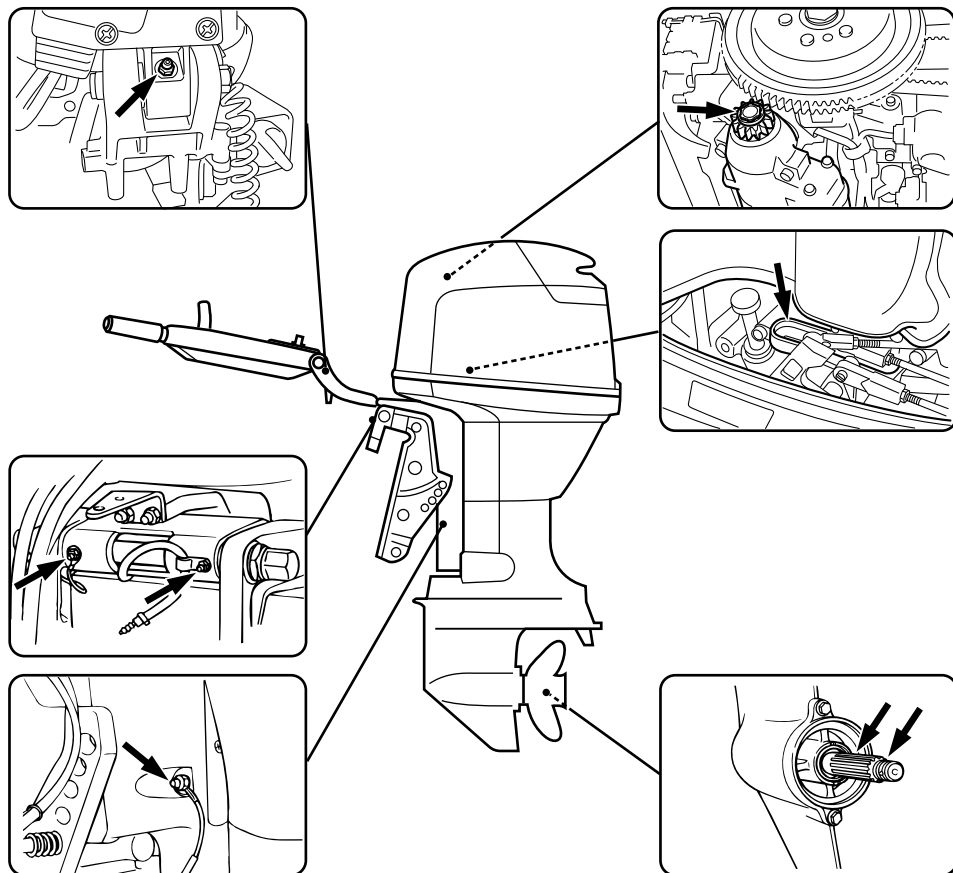
部品番号 90890-69920(50g)

F50FET, F60CET, FT60DET



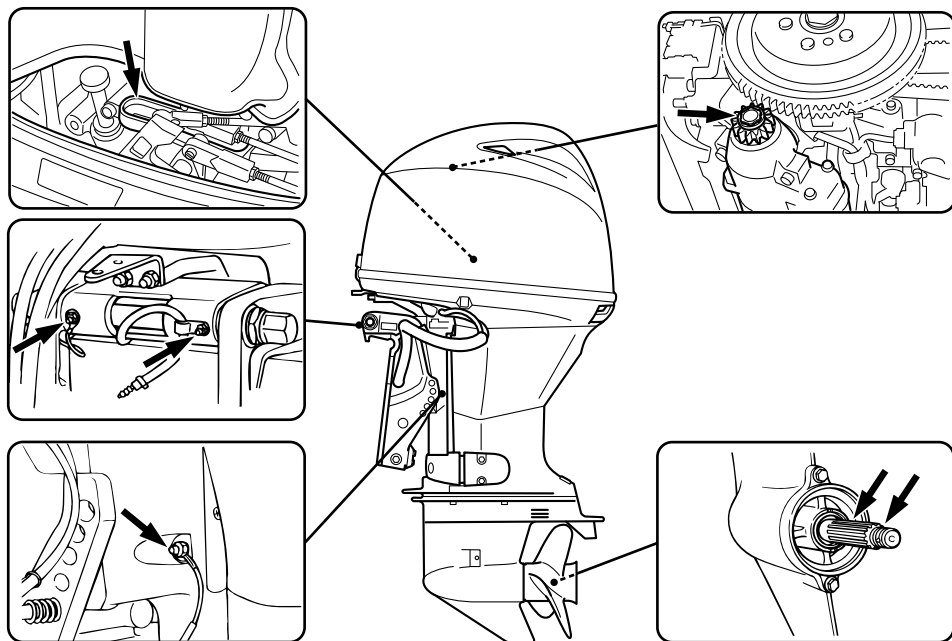
ZMU05087

F50FEHD



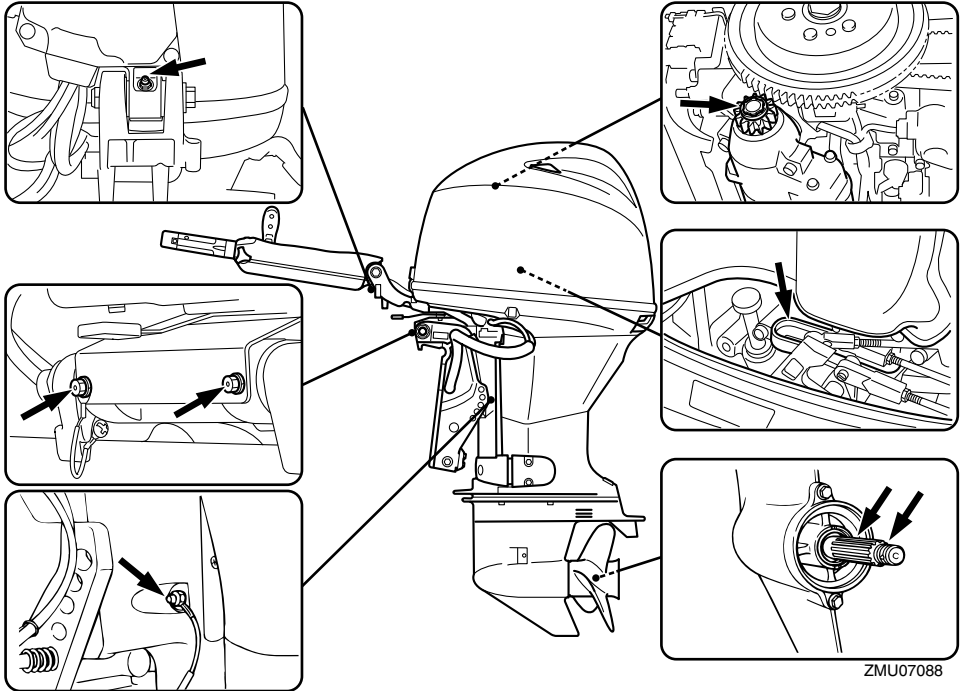
ZMU05103

F70AET



ZMU07089

F70AEHT



ZMU07088

JMU28957

スパークプラグの点検

スパークプラグは、点検が簡単なエンジンの重要な構成部品です。スパークプラグの状態は、エンジン性能に影響を与えます。スパークプラグは、電極にカーボン等が付着して徐々に劣化して行きますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。

1. 全てのスパークプラグキャップをスパークプラグから外してください。
2. スパークプラグを取り外します。電極が消耗していたり、カーボン等で汚れている場合は交換してください。**警告！スパークプラグ脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。漏電して、火災等を誘発する恐れがあります。**

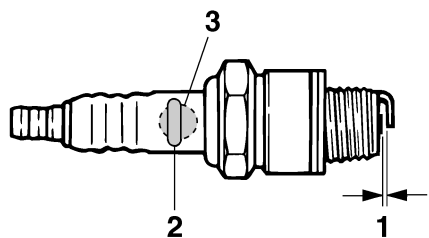
標準スパークプラグ；

F50FEHD DPR6EB-9
F50FET DPR6EB-9
F60CET DPR6EB-9
F70AEHT LKR7E
F70AET LKR7E
FT60DET DPR6EB-9

3. 必ず規定のスパークプラグをご使用ください。エンジンが適切に作動しなくなる恐れがあります。電極の隙間は、シツクネスゲージを用いて点検し、規定値を外れている場合は、スパークプラグを交換します。

[JWM00561]

点検と整備



ZMU02179

1. スパークプラグギャップ
2. スパークプラグ品番
3. スパークプラグマーク (NGK)

スパークプラグギャップ ;
0.8–0.9 mm

4. スパークプラグの取り付けは、取り付け面をきれいに拭いて規定トルクで締めてください。

スパークプラグ締め付けトルク ;
F50FEHD 18.0 Nm (1.84 kgf-m)
F50FET 18.0 Nm (1.84 kgf-m)
F60CET 18.0 Nm (1.84 kgf-m)
F70AEHT 17.0 Nm (1.73 kgf-m)
F70AET 17.0 Nm (1.73 kgf-m)
FT60DET 18.0 Nm (1.84 kgf-m)

要 点

新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっばいに締め込んだ後、プラグレンチを使用して $1/4 \sim 1/2$ 回転締め込んでください。出来るだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定値で締めてください。

JMU29044

アイドルリングスピード（無負荷最低速回転）の点検

JWM00451



- エンジン運転中は電装部品に触れたり、外

したりしないでください。

- エンジン運転中は手、髪、衣服等が回転部に巻き込まれないように注意してください。

JCM00490

注 意

この作業は水上で行なってください。陸上で行なう場合は水洗キットや水槽を使って行ってください。

タコメータ（エンジン回転計）が装備されていない場合、診断用のタコメータが必要です。水洗キットや水槽を使った点検では水上での点検結果と違うことがあります。アイドルリングスピードの点検はエンジンが完全に暖まった状態で行ってください。

1. 中立（ニュートラル）でエンジンを始動し、暖機運転を終了します。
2. 規定のアイドルリングスピードであるか点検します。規定のアイドルリングスピードについては 9 ページを参照してください。点検が困難な場合や調整が必要な場合はヤマハ取扱店へご相談ください。

JMU37512

エンジンオイルの交換

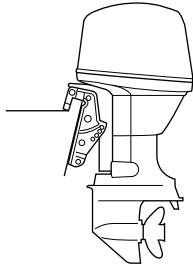
JCM01240

注 意

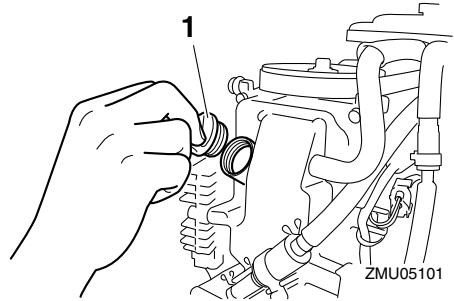
初回は使用後 10 時間、その後は 100 時間、または 6 カ月毎にオイル交換を行ってください。

オイルの排出は、必ずオイルチェンジャを使ってください。

1. 船外機を垂直状態にします。**注意**：船外機が垂直な状態（チルトアップしていない）でなければ、オイルレベルゲージが示すオイルレベルは不正確なものになります。[JCM01861]

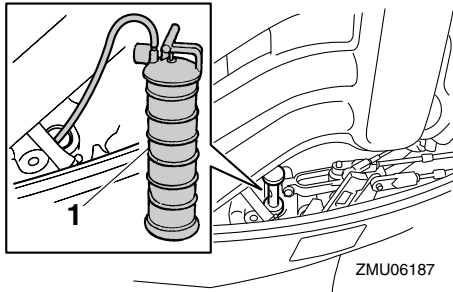


ZMU03659



ZMU05101

2. エンジンを始動させ、エンジンを温めてからさらに 5 ～ 10 分間はアイドル状態を保たせます。
3. エンジンを停止し、そのまま 5 ～ 10 分間放置します。
4. トップカウルを取りはずします。
5. 給油キャップを外します。オイルレベルゲージを引き抜き、オイルチェンジャでオイルを完全に吸引します。

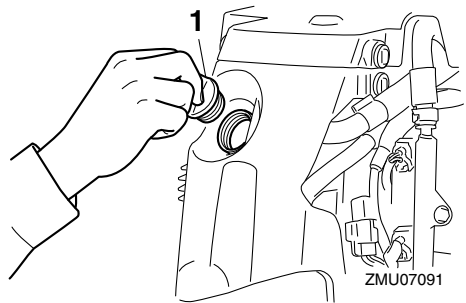


ZMU06187

1. オイルチェンジャ

6. 給油口から規定量のエンジンオイルを入れ、給油キャップを締め、オイルレベルゲージを元に戻します。**注意：オイルは入れすぎないようにしてください。エンジンオイルを入れた時は、規定量になるようにオイルを抜いてください。オイルが多すぎるとオイル洩れや故障の原因となります。** [JCM01850]

1. 給油キャップ



ZMU07091

1. 給油キャップ

推奨エンジンオイル：

ヤマハ4サイクルオイル

交換エンジンオイル量（定期交換時）：

オイルフィルタ交換無し：

1.9 L

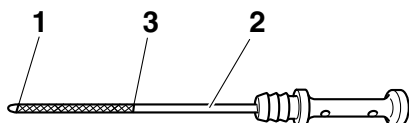
オイルフィルタ交換含む：

2.1 L

7. 船外機を 5 ～ 10 分間そのままにします。
8. オイルレベルゲージを引き抜き、付着しているオイルを拭き取ります。
9. 正確にオイル量を測るためにオイルレベルゲージをいっぱいまで差し込み／ねじ込み、再び引き抜きます。
10. エンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限マークと下限マークの間

点検と整備

にあることを確認します。もし下限マーク以下の場合や上限マーク以上の場合、ヤマハ販売店で点検を受けてください。



ZMU05091

1. 下限マーク
2. オイルレベルゲージ
3. 上限マーク

11. エンジンを始動します。その後、油圧低下警報表示が消灯したままであることを確認します。また、オイル洩れの無いことも確認します。**注意：油圧低下警報灯が点灯した場合、またはオイルが漏れている場合は、エンジンを停止し原因を探してください。原因が究明できず回復しない場合は、続けて使用すると大きな損傷の原因となりますので、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。[JCM01622]**
12. 廃油の処理は、法律や条例等に従って行なってください。

要 点

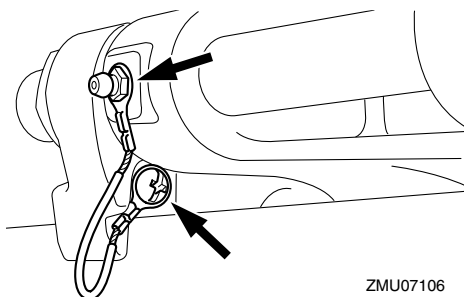
- 廃油の処理に関する詳しい情報はヤマハ販売店にご相談ください。
- トローリング（微速航走）等での使用が多い場合は、更に早めのオイル交換をおすすめします。

JMU29114

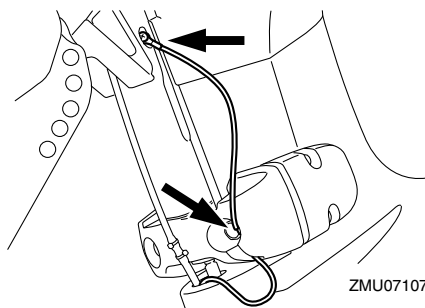
配線と各接続部の点検

- 各配線の接続が確実にされていることを点検してください。
- 導通用の各アース線が確実に取り付けら

れていることを点検してください。



ZMU07106



ZMU07107

JMU32112

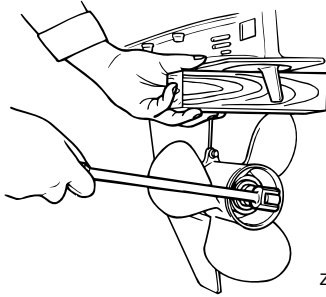
プロペラの点検

JWM01881



プロペラ付近は偶発的原因でエンジンが始動したときに、大きな事故につながる恐れがあります。プロペラの点検や脱着等を行なう前には、シフトを中立（ニュートラル）にし、エンジンスイッチからキーを抜き取り、緊急エンジン停止スイッチのロックプレートを外してください。またバッテリーコードをバッテリーから外してください。

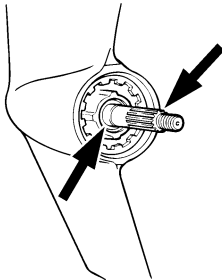
プロペラナットを締めたり緩めたりするときは素手でプロペラを持たないでください。プロペラとキャビテーションプレートの間には木片等をかませしてから行なってください。



ZMU01897

主な点検箇所

- プロペラブレードの曲がり、表面の侵食、損傷等の点検をします。
- プロペラシャフトの損傷等を点検します。
- プロペラシャフトに釣り糸が巻き込まれていないか点検します。
- プロペラシャフトのオイルシールが損傷していないか点検します。



ZMU01803

JMU30662

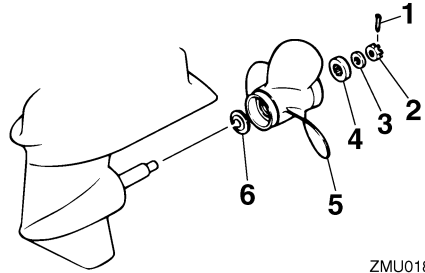
プロペラの取り外し

JMU29197

スブライン仕様

1. ブライヤを使って割ピンを伸ばし、引き抜きます。
2. プロペラナット、ワッシャ、スペーサ（スペーサ付きの場合）を取り外します。
警告！ プロペラナットを緩めるときは素手でプロペラを持たないでください。

[JWMO1890]



ZMU01804

1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャ
4. スペーサ
5. プロペラ
6. スラストワッシャ

プロペラナットの 2 面幅；
22 mm

3. プロペラ、ワッシャ（ワッシャ付きの場合）、スラストワッシャを取り外します。

JMU30672

プロペラの取り付け

JMU29234

スブライン仕様

JCM00501

注 意

割ピンは新しいものを使用して端を確実に折り曲げてください。プロペラ脱落の原因となります。

1. プロペラシャフトにヤマハグリス D（耐食グリス）を塗布します。
2. スラストワッシャをプロペラシャフトに入れ、ワッシャ付きはワッシャを入れ、プロペラを取り付けます。**注意：** プロペラを取り付ける前には、スラストワッシャを必ず入れてください。プロペラとロウケースが接触し損傷する恐れがあります。[JCM01881]
3. スペーサ付きはスペーサを入れ、ワッシャを取り付けます。そしてプロペラ

点検と整備

ナットを規定トルクで締め付けます。

規定トルク：

F50FEHD 35.0 Nm (3.57 kgf-m)

F50FET 35.0 Nm (3.57 kgf-m)

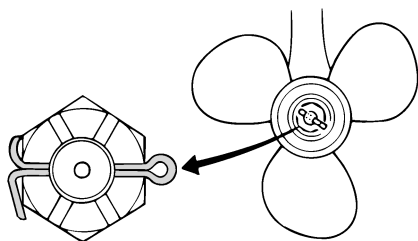
F60CET 35.0 Nm (3.57 kgf-m)

F70AEHT 34.0 Nm (3.47 kgf-m)

F70AET 34.0 Nm (3.47 kgf-m)

FT60DET 35.0 Nm (3.57 kgf-m)

4. プロペラシャフトとプロペラナットの穴位置を合わせ、新しい割ピンを取り付けます。割ピンの端を折り曲げます。**注意**：使用済の割ピンを再利用しないでください。運転中にプロペラが脱落する恐れがあります。[JCM01891]



ZMU01805

要 点

規定トルクでプロペラナットを締め付けたときにプロペラシャフトの穴位置が合わないときは、更に締め込んで穴位置を合わせてください。

JMU29289

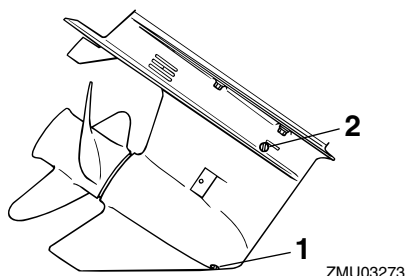
ギヤオイルの交換

JWM00800



- 船外機はボートランサムや専用スタンドに確実に固定してください。
- チルトアップされた船外機の下には入らないでください。偶発的に船外機が降りてきた場合には、重大な事故につながる恐れがあります。

1. ドレンプラグが真下にくる位置まで船外機を傾けます。
2. 廃油の受け皿をロウケースの下に敷きます。
3. ギヤオイルドレンプラグとガスケットを外します。**注意**：磁石仕様のギヤオイルドレンスクリュに大量の金属粒子が付着している場合は、ロワーユニットに問題がある可能性があります。ヤマハ取扱店で点検を受けてください。[JCM01900]



ZMU03273

1. ギヤオイルドレンプラグ
2. オイルレベルプラグ

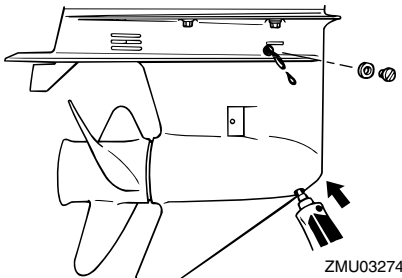
要 点

- ギヤオイルドレンプラグが磁石仕様の場合、ギヤオイルドレンプラグに金属粉が付着していることがあります。取り除いてから再び取り付けてください。
 - ガスケットは新しいものを使用してください。取り外したガスケットは再使用しないでください。
4. オイルレベルプラグとガスケットを外し、ギヤオイルを残らず排出させます。**注意**：排出したギヤオイルに大量の金属粒子や水が混入している、または白濁しているときは、ギヤケースの損傷等の恐れがあります。ヤマハ取扱店へ点検、修理を依頼してください。[JCM00713]
 5. 船外機を垂直状態に保ち、ヤマハ船外機ギヤオイル（ハイポイドギヤオイル #90）をオイルドレン穴より注入しま

す。

ギヤオイル容量；

F50FEHD 0.430 L
F50FET 0.430 L
F60CET 0.430 L
F70AEHT 0.670 L
F70AET 0.670 L
FT60DET 0.670 L



6. 注入したギヤオイルがオイルレベル穴から溢れ出したら、新しいガスケットを取り付けたオイルレベルプラグを締めます。

オイルレベルプラグ締め付けトルク；
9 Nm (0.9 kgf-m, 6.6 ft-lb)

7. 新しいガスケットを取り付けたギヤオイルドレンプラグを締めます。

ギヤオイルドレンプラグ締め付けトルク；
9 Nm (0.9 kgf-m, 6.6 ft-lb)

JMU29302

専用燃料タンクの清掃

JWM00920

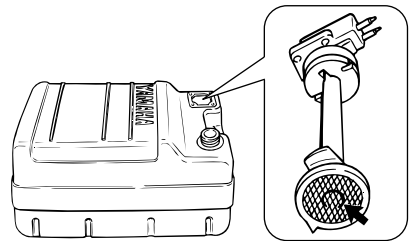


ガソリンには、高い引火性と爆発性があります。

- 作業上で何か分からないことがある時には、ヤマハ取扱店にご相談ください。

- 作業中は、タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 作業は換気の良い場所で行なってください。専用燃料タンクはポートから降ろして行なってください。
- 燃料がこぼれた場合には直ちに拭き取ってください。
- 専用燃料タンクの再組付けは注意深く確実に行なってください。組み付け不良や取り付け不良は、燃料がもれ火災や爆発の原因となる恐れがあります。
- 古くなったガソリンは、地域の規制に従って処分してください。

- 専用燃料タンク内を空にしてください。
- 燃料ホースコネクタ本体の取り付けネジを緩め外します。



ZMU02324

- フィルタ（サクションパイプの端に装着）を洗浄し、乾燥させます。
- パッキンを新しいものと交換して、再取り付けします。

JMU29314

アノードの点検

アノードは、船外機を電蝕（水中の微弱電気による金属の腐蝕）から保護するためのものです。外部アノードの状態を点検し、新品の3分の1以上が消耗している場合は交換します。外部アノードの交換は、ヤマハ取扱店で行なってください。

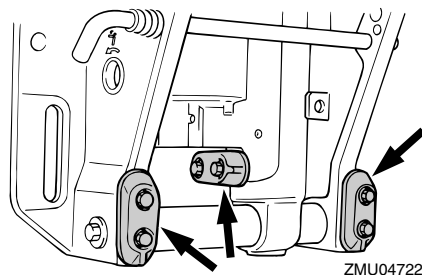
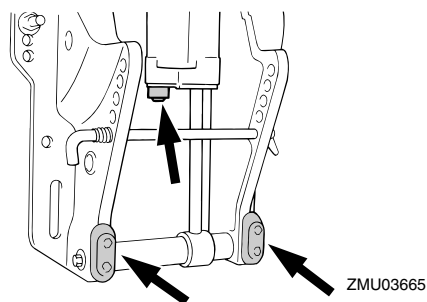
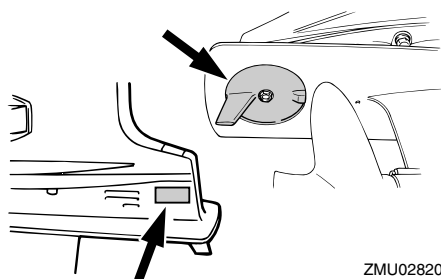
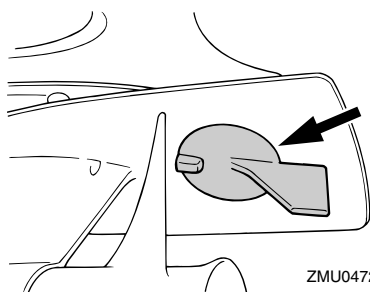
JCM00720

注意

電食防止効果がなくなりますので、アノード

点検と整備

に塗料を塗らないで下さい。



要 点

外部アノードにアース線が付いている機種の場合は、アース線の取り付け状態を点検してください。

エンジン内部に付いているアノードの点検と交換については、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU29323

バッテリーの点検（電動始動仕様）

JWM01902

⚠ 警 告

バッテリーの電解液は有害で腐食性があり、バッテリーから爆発性の水素ガスが発生します。バッテリーの近くで作業する場合は：

- ゴーグル（目を保護する）とゴム製手袋を着用してください。
- バッテリーの近くでタバコを吸ったり、その他の火種をバッテリーに近づけたりしないでください。

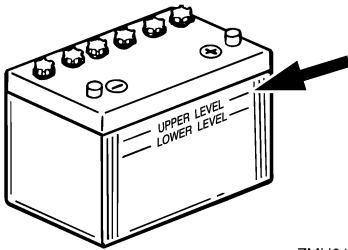
バッテリーの点検手順はバッテリーによって異なります。ここでは、多くのバッテリーに適用される一般的な点検方法を示しますが、バッテリーの取扱説明書を必ず参照して点検作業を行ってください。

JCM01920

注 意

整備を怠るとバッテリーは早く劣化します。

1. 電解液の量を点検します。



ZMU01810

2. バッテリーの充電状態を点検します。ボートにデジタルスピードメータが装備されている場合は、電圧計とバッテリー警報表示によってバッテリーの充電状態を調べることができます。デジタルスピードメータが装備されていない場合、またはバッテリーの充電をする必要があるときは最寄りのヤマハ販売店にご相談ください。
3. バッテリーターミナルの点検をします。バッテリーターミナルに汚れやゆるみがなく、絶縁カバーが取り付けられていることを点検します。**警告！接続が不完全な場合、短絡またはアーク放電が発生し爆発を引起す可能性があります。**

[JWM01912]

JMU29334

バッテリーの取り付け

JWM00572



警告

バッテリーは船内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない水平な場所に確実に固定してください。

JCM01124

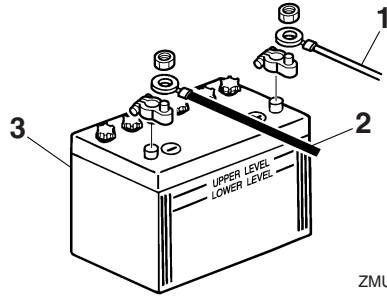
注意

バッテリーコードの (+) と (-) を逆に接続しないでください。電装品の故障等の原因になります。

1. バッテリーに関する作業をおこなう前にメインスイッチが **"OFF"** (off) になって

いることを確認してください(メインスイッチが装備されている場合)。

2. バッテリーコードの接続は先に赤コード端子を (+) 側に、後から黒コード端子を (-) 側に確実に取り付けてください。



ZMU01811

1. 赤コード
2. 黒コード
3. バッテリー

3. バッテリー端子とバッテリーコードの接続は、接触面がきれいな状態で確実に行なってください。接触面に汚れ、ゆるみ等があると、エンジンの始動ができなくなる恐れがあります。

JMU29371

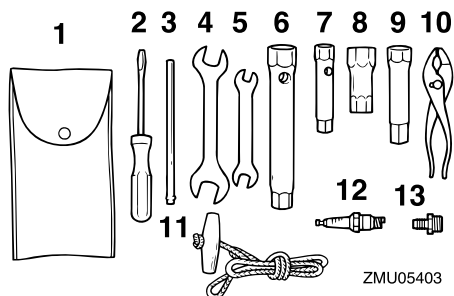
バッテリーの取り外し

1. バッテリーカットオフスイッチ (装備されている場合) とエンジンスイッチを **"OFF"** にします。**注意：スイッチを "ON" のままにすると、電気系統が損傷する恐れがあります。** [JCM01930]
2. (-) ターミナルからバッテリーコードを外します。**注意：ショートと電気系統の損傷防止のために、かならず最初に (-) ターミナルからバッテリーコードを外してください。** [JCM01940]
3. (+) ターミナルからバッテリーコードを外し、バッテリーをボートから下ろします。
4. メーカーの指示に従いバッテリーを清掃、手入れして保管します。

点検と整備

JMU30111

付属工具と部品



1. 工具袋
2. ドライバ (+/-)
3. ハンドル
4. スパナ (14-17)
5. スパナ (8-10)
6. ボックスレンチ (14-21)
7. ボックスレンチ (10-12)
8. ボックスレンチ (17-21)
9. スパークプラグレンチ
10. プライヤ
11. 応急始動ロープ
12. スパークプラグ
13. アダプタ

JMU29427

故障と対策

万一、故障が生じたときは、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。一般的に考えられる故障を選び、その想定される原因を列記いたします。（機種や仕様により該当しない項目も含まれております）

不安な箇所がありましたら、できるだけそのままの状態ヤマハ取扱店に連絡し専門技術者におまかせください。

エンジン警報付き機種で警報表示が点滅している場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

スタータモータが動かない

Q. バッテリーの性能が低下していませんか？
規定容量以外のバッテリーを使用していますか？

A. バッテリー状態の点検。規定容量のバッテリーの使用。

Q. バッテリーターミナルが緩んでいませんか？または腐蝕していませんか？

A. バッテリーコードの締め付け、ターミナルの清掃。

Q. ヒューズが切れていませんか？

A. 原因を調べ、新しいものに交換。

Q. スタータモータが故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 前進、または後進にシフトが入っていませんか？

A. 中立（ニュートラル）に戻す。

エンジンが始動しない。（スタータモータは動く）

Q. 燃料タンクが空になっていませんか？

A. 燃料を入れる。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていますか？

A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルタが詰まっていますか？

A. 清掃、または交換。

Q. 始動手順が間違っていますか？

A. 52 ページを参照ください。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？または、推奨以外のスパークプラグを使用していませんか？

A. 電極の清掃、または交換。

Q. スパークプラグキャップが外れていませんか？

A. 正しく取り付ける。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？

A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. カールコードのロックプレートが外れていませんか？

A. 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込む。

Q. エンジン内部が損傷していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

アイドリング（無負荷最低速回転）が不安定、またはエンストする。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？

不具合時の対応

A. 電極の清掃、または交換。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？

A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料が汚染、または古くなっていませんか？

A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルタが詰まっていますか？

A. 清掃、または交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 警報機構が作動していますか？

A. ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？

A. 正規の隙間に合わせる。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？

A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？

A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. キャブレタが調整不良になっていませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが閉まっていますか？

A. エアベントスクリュを開ける。

Q. チョークノブが引かれていませんか？

A. チョークノブを戻す。

Q. チルトを上げ過ぎていませんか？

A. チルトを下げる。

Q. キャブレタが詰まっていますか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？

A. 接続箇所の点検。

Q. スロットルバルブが調整不良になっていませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. バッテリーコードが外れていませんか？

A. 確実に接続。

警報ブザーが鳴る、または警報灯が点灯する。

Q. 冷却経路が詰まっていますか？

A. 冷却水取入口の点検。

Q. エンジンオイル不足になっていませんか？

A. 規定量まで補充。

Q. スパークプラグ熱価が適切ですか？

A. 正規熱価のものに交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？

A. 推奨オイルへ交換。

Q. オイルが劣化していませんか？

A. 新しいオイルへ交換。

Q. オイルフィルタが詰まっていますか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. オイルポンプが故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. ボートが過重荷になっていませんか？

A. ビルジ、積み荷等の確認。

Q. ウォータポンプ、またはサーモスタットが故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料フィルターカップ内に水が入っていませんか？

A. フィルターカップ内の排水。

エンジンの力がない。

Q. プロペラが損傷していませんか？

A. プロペラの交換。

Q. プロペラサイズが適切ですか？

A. 指定回転範囲に適合するプロペラへ交換。

Q. トリム角度が調整不良になっていませんか？

A. 再調整。

Q. 船外機取り付け高さが適切ですか？

A. 再調整。

Q. 警報機構が作動しますか？

A. ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

Q. 船底への貝、海草類が付着していませんか？

A. 清掃。

Q. スパークプラグが適切ですか？

A. 電極の清掃、または交換。

Q. 船外機への貝、海草類が付着していませんか？

A. 清掃。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？

A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料フィルタが詰まっていますか？

A. 清掃、または交換。

Q. 燃料が汚染、または古くなっていませんか？

A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？

A. 正規の隙間に合わせる。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？

A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 推奨外燃料を使用していませんか？

A. 推奨燃料へ交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？

A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが閉まっていますか？

A. エアベントスクリュを開ける。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

不具合時の対応

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？

A. 接続箇所の点検。

Q. スパークプラグ熱価が適切ですか？

A. 正規熱価のものに交換。

Q. 高圧燃料ポンプベルトが切れていませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. シフトポジションスイッチが作動不良になっていませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

振動が大きい。

Q. プロペラが損傷していませんか？

A. プロペラの交換。

Q. プロペラシャフトが損傷していませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 海藻、貝類がプロペラへ付着していませんか？

A. 除去、清掃。

Q. 船外機取り付けボルト等が緩んでいませんか？

A. 締め付け。

Q. ハンドルスイベル部が緩み、または損傷していませんか？

A. 締め付け、またはヤマハ取扱店にて修理。

JMU29433

応急処置

JMU29441

衝撃を受けた場合

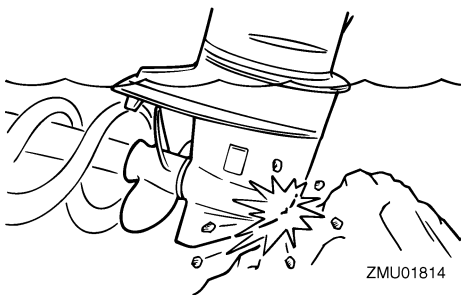
JWM00870



船外機は航行中に、水中の浮遊物等との衝突

による重大な損傷を受けることがあります。
損傷を受けた船外機は安全に航行できません。

航行中の船外機に水中の物体が当たった場合は、次の手順に従ってください。



1. エンジンを停止してください。
2. 各部の作動を確認し、さらに各 부품の損傷も点検してください。また、ボートの損傷具合も調べてください。
3. ゆっくりと細心の注意をはらいながら、最寄りの港へ引き返してください。
4. 再度ご使用になる前に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMU30682

ヒューズの交換

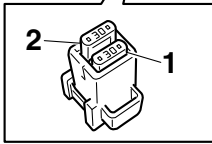
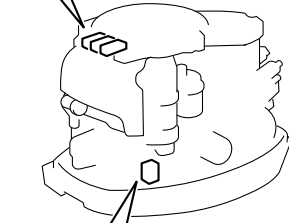
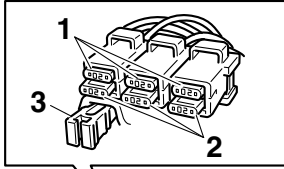
ヒューズが切れたときは、ヒューズブーラを使用し同容量のスペアと交換します。

JWM00631



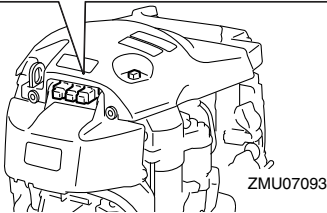
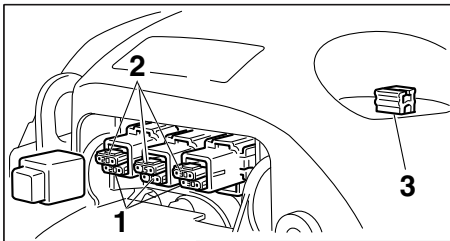
規定容量のヒューズを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると、電装系の故障や火災の原因となる恐れがあります。

新しいヒューズに替えてもすぐに切れる場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。



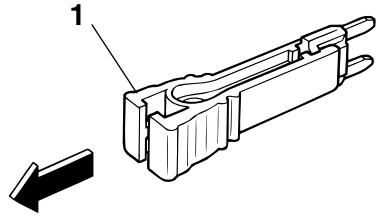
ZMU05099

1. ヒューズ (20 A × 3, 30 A)
2. スペアヒューズ (20 A × 3, 30 A)
3. ヒューズプーラ



ZMU07093

1. ヒューズ (15 A, 20 A, 30 A)
2. スペアヒューズ (15 A, 20 A, 30 A)
3. ヒューズプーラ



ZMU04337

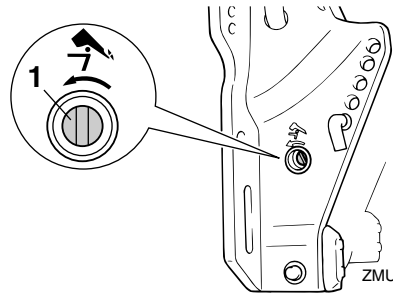
1. ヒューズプーラ

JMU29525

パワートリムアンドチルトが作動しない場合

バッテリーが上がったり、ユニットの故障等で PTT スイッチを使ってチルトアップやチルトダウンの操作ができないときは、手動操作で行なう事ができます。

1. マイナスドライバ等を使ってリリースバルブを反時計方向に止まるまで回します。



ZMU03668

1. リリースバルブ
2. トップカウルの後部を持って手動でチルトアップ／ダウンの操作を行ないます。
3. 好みの位置でリリースバルブを元の位置まで締め付けるとそこでチルト角度が固定されます。

不具合時の対応

JMU41460

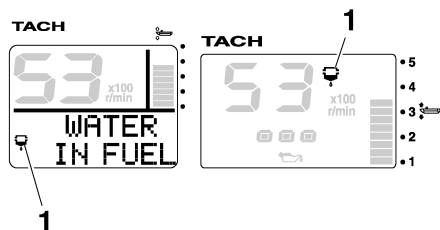
航行中に水分離警報が作動した場合

JWM01500



- ガソリンには、高い引火性と爆発性があります。
- 本作業をエンジンが熱いときや運転中には行なわないでください。冷えてから行なってください。
- 燃料フィルタにはガソリンが残っているので、タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 作業中はガソリンがこぼれる恐れがあります。容器を使って回収しながら行なってください。こぼれた場合には直ちに拭き取ってください。
- 燃料フィルタの再組付けは注意深く確実に行なってください。組み付け不良や取り付け不良は、燃料がもれ火災や爆発の原因となる恐れがあります。

メータに水分離警報が表示された場合は、次の手順に従ってください。

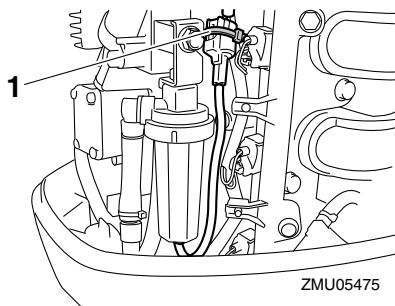


ZMU05442

1. 水分離器警報表示

F50F, F60C, FT60D

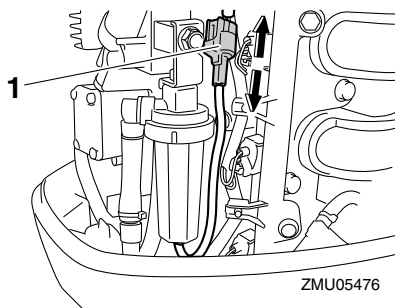
1. エンジンを停止してください。
2. トップカウルを外します。
3. バンドを外します。



ZMU05475

1. バンド

4. 水検知スイッチカブラを外します。**注意**：水検知スイッチカブラに水等を掛けないように注意してください。故障の原因となる恐れがあります。[JCM01950]

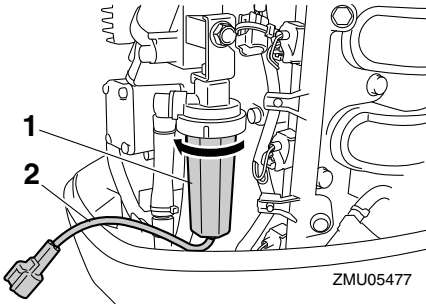


ZMU05476

1. 水検知スイッチカブラ

5. フィルタカップをフィルタハウジングから緩めて外します。**注意**：水検知スイッチ線をよじらないようにしながらフィルタカップを緩めてください。

[JCM01960]

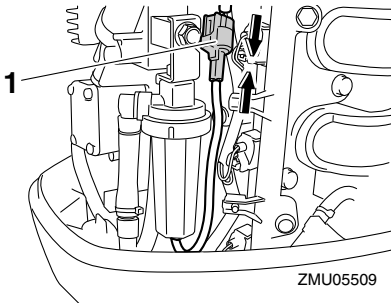


1. フィルタカップ
2. 水検知スイッチ線

6. フィルタカップの水をボロ布にしみこませて回収します。
7. フィルタカップをフィルタハウジングに確実に締め込みます。**注意：水検知スイッチ線をよじらないようにしながらフィルタカップを締め込んでください。**

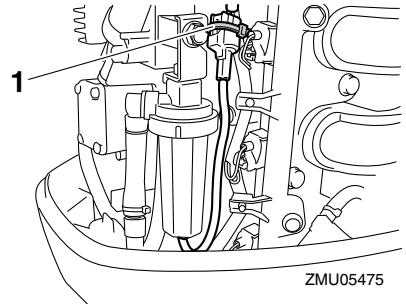
[JCM01970]

8. 水検知スイッチカプラを確実に接続します。カチッと音が聞こえるところまで差し込んでください。



1. 水検知スイッチカプラ

9. 水検知スイッチ線をバンドで固定します。

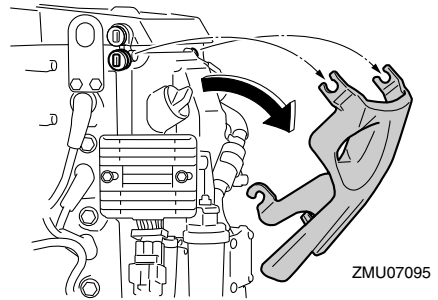


1. バンド

10. トップカウルを取り付けます。
11. エンジンを始動して水分離警報が消灯していることを確認します。帰港後に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

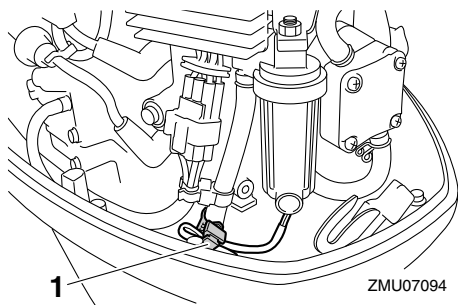
F70A

1. エンジンを停止してください。
2. トップカウルを外します。
3. カバーを取り外します。



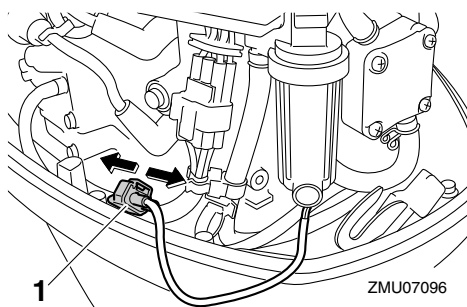
4. ホルダを外します。

不具合時の対応



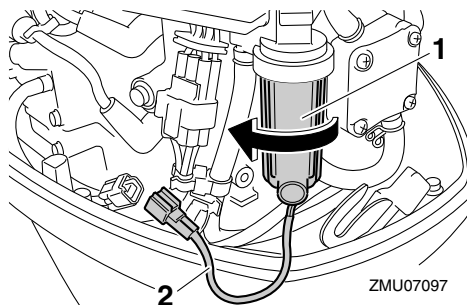
1. ホルダ

5. 水検知スイッチカブラを外します。**注意**:水検知スイッチカブラに水等を掛けないように注意してください。故障の原因となる恐れがあります。[JCM01950]



1. 水検知スイッチカブラ

6. フィルタカップをフィルタハウジングから緩めて外します。**注意**:水検知スイッチ線をよじらないようにしながらフィルタカップを緩めてください。[JCM01960]

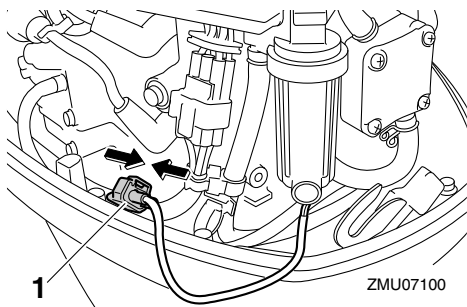


1. フィルタカップ
2. 水検知スイッチ線

7. フィルタカップの水をボロ布にしみこませて回収します。
8. フィルタカップをフィルタハウジングに確実に締め込みます。**注意**:水検知スイッチ線をよじらないようにしながらフィルタカップを締め込んでください。

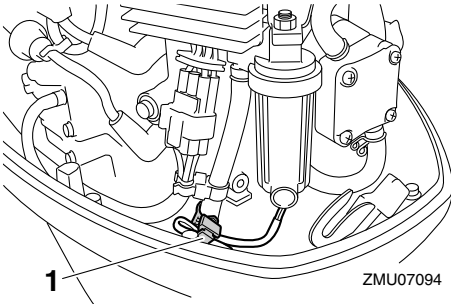
[JCM01970]

9. 水検知スイッチカブラを確実に接続します。カチッと音が聞こえるところまで差し込んでください。



1. 水検知スイッチカブラ

10. 水検知スイッチ線をホルダで固定します。



1. ホルダ

11. カバーを取り付けます。
12. トップカウルを取り付けます。
13. エンジンを始動して水分離警報が消灯していることを確認します。帰港後に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMU29542

スタータモータが動かない場合

始動装置が作動しない場合（スタータモータが動かない場合）は、応急始動用ロープを使ってエンジンを始動することができます。ただしボートの仕様やぎ装状態によっては、操作が非常に困難な場合があります。また、バッテリー電圧が9V付近まで低下しているときは、燃料ポンプが作動しないためエンジン始動は出来ません。

JWM01022

警告

- 非常時に最寄りの港へ引き返すときに限って、この操作を行なってください。
- シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてください。応急始動用ロープを使用してエンジンを始動する場合、始動安全装置は作動しません。ボートが急発進し、事故につながる恐れがあります。
- 応急始動用ロープを引いてエンジンを始動させるときには、背後に人が居ないことを確認してください。
- エンジン始動の際には、衣服等を巻き込ま

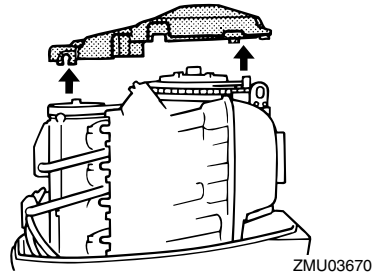
れないようにしてください。

- エンジン始動後には、フライホイールや他の回転部分に触れないようにしてください。
- エンジン始動後には、手動始動装置やトップカウルを取り付けないでください。
- エンジン運転中には、イグニションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。

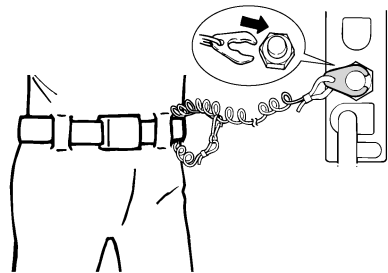
JMU29583

応急始動

1. トップカウルを外します。
2. フライホイールカバーを持ち上げて外します。

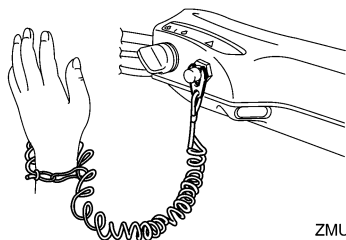


3. 52ページを参照して始動の準備をします。シフトを中立（ニュートラル）にして、カールコードのロックプレートを緊急エンジン停止スイッチへ差し込みます。



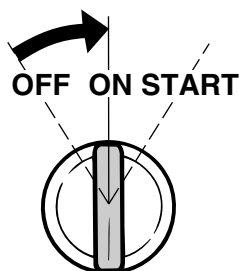
ZMU01772

不具合時の対応



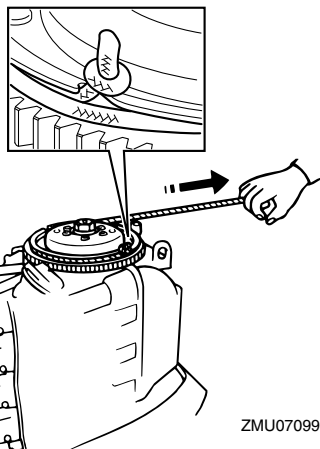
ZMU05216

4. エンジンスイッチを ON にします。



ZMU01906

5. 応急始動用ロープの結び目を、フライホイールの切り欠きに入れ、時計方向に 1 ～ 2 回巻き付けます。
6. 抵抗を感じるまでたるまないようにロープを引き、そこから一気に引きます。一度で始動しない場合は、同じ操作を繰り返してください。**警告！エンジン運転中は、トップカウルを取り付けしないでください。** [JWM00621]



ZMU07099

JMU33501

船外機を水中に落とした場合

船外機を水没させた場合は、直ちにヤマハ販売店までお持ちください。エンジン内各部に錆や腐食が発生する原因となります。**注意：**ヤマハ取扱店での分解整備を受けずに再使用しないでください。 [JCM00401]

JMU30133

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は「ご購入店」または、ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

ご購入店

販売会社一覧

2010年 11月01日現在

エリア	販売会社一覧	部署	〒番号	住 所	TEL
北海道	ヤマキ船舶化工(株)	サービス課	047-0008	北海道小樽市築港5番7号 小樽マリーナ・センターハウス2F	0134-31-1135
東 北	ヤマハ発動機(株) 東日本営業所	東北サービス課	981-0933	宮城県仙台市青葉区柏木1丁目 2番45号 フォレスト仙台5F	022-727-5180
関 東	ヤマハ発動機(株) 東日本営業所	東日本サービス課	236-0007	神奈川県横浜市金沢区白帆4-4	045-775-2450
中 部	ヤマハ発動機(株) 西日本営業所	中部サービス課	443-0036	愛知県蒲郡市浜町24番地2	0533-66-3421
関 西	ヤマハ発動機(株) 西日本営業所	西日本サービス課	662-0934	兵庫県西宮市西宮浜4丁目16-2	0798-37-2004
中四国	ヤマハ発動機(株) 西日本営業所	中四国サービス課	730-0826	広島県広島市中区南吉島1丁目1番 ポートパーク広島内	082-545-1503
九 州	ヤマハ発動機(株) 西日本営業所	九州サービス課	819-0001	福岡県福岡市西区小戸2丁目11-1 西福岡マリーナ内	092-885-6523

ヤマハ発動機株式会社 お客様相談室 〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

 0120-090-819

オープン時間 月曜～金曜（祝日・弊社所定の休日等を除く） 9:00～12:00 13:00～17:00

JMU30142

不許複製	
名称：	F50F, F60C, FT60D, F70A 船外機取扱説明書
部品番号：	6C1-28199-08
発行：	ヤマハ発動機株式会社 2011 年 4 月



Printed in Japan
April 2011-0.2 × 1 

再生紙を使用しています。

保証登録書

①販売店控（FAX用）

フリガナ																			
ご氏名																			
フリガナ																			
ご住所		〒□□□-□□□□																	
TEL: ()																			
船名										定係港									

販売店名										(販売店コード)										□	□	□	□	□
TEL番号: ()																								
FAX番号: ()																								
備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）																								

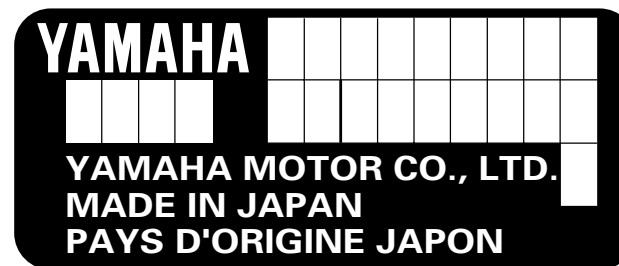
【お客様の個人情報のお取り扱いについて】	
ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、ヤマハ発動機販売㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。	
《利用目的》 保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。	
《ご確認項目》	
1) 商品の取扱い説明を受けられましたか？	〈 はい、いいえ 〉
2) 保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？	〈 はい、いいえ 〉
3) 初回点検、定期点検整備についての説明は受けましたか？	〈 はい、いいえ 〉
4) ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？	〈 はい、いいえ 〉
*安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させていただきます。	
上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。	
お客様ご署名	
ご署名日 / /	
*尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。	
管理責任部署	ヤマハ発動機株式会社 国内マリン事業部 営業室
電話	053-594-4175

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商	品	コ	ー	ド															
---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日: 20 年 月 日 ~ (納入日)		一般保証満了日: 20 年 月 日	
		特別保証満了日: 20 年 月 日	
取付艇種		用 途 (マル印)	レジャー ・ 業務 (営業)
		ヤマハ拠点コード	
ヤマハ拠点名			

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項 目	チェック	項 目	チェック
備品 (取扱説明書、整備手帳、同梱工具、その他)		シフトの入り具合 (F-N-R)	
外観の状態		スロットル (グリップ、レバー) の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		プロペラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量 (4サイクルモデル)	
各スイッチ類の作動		オートループシステムの作動 (2サイクルモデル)	
オートループシステムの確認		高圧ポンプオイル量 (ダイレクトインジェクションモデル)	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	
プロペラサイズ		最高回転数	rpm

[illegible]

販 売 店 名	(販売店 コード) <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; height: 40px;"></td> <td style="width: 10%; height: 40px;"></td> <td style="width: 10%; height: 40px;"></td> <td style="width: 10%; height: 40px;"></td> <td style="width: 10%; height: 40px;"></td> <td style="width: 10%; height: 40px;"></td> </tr> </table>						

T E L 番 号 : ()

F A X 番 号 : ()

備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）

【お客様の個人情報のお取扱いについて】

ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、ヤマハ発動機販売㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。

《利用目的》
 保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。

《ご確認項目》
 1) 商品の取扱い説明を受けられましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
 2) 保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
 3) 初回点検、定期点検整備についての説明を受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
 4) ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？ 〈 はい、いいえ 〉

* 安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させていただきます。

上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。

お客様ご署名	ご署名日 / /
--------	--------------------

* 尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。

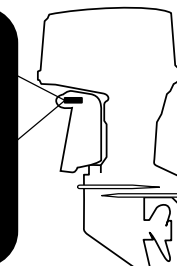
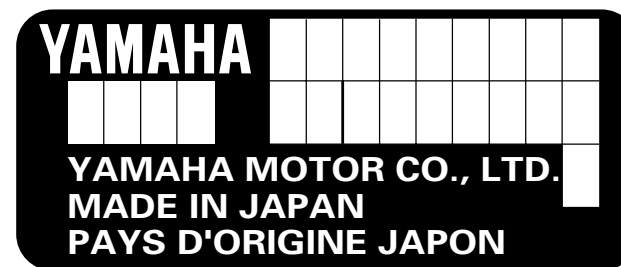
管理責任部署 ヤマハ発動機株式会社
 国内マリン事業部 営業室 電話 053-594-4175

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商 品 コ ー ド						
-----------	--	--	--	--	--	--

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０ 年 月 日 （納入日）	～	一般保証満了日：２０ 年 月 日 特別保証満了日：２０ 年 月 日
取付艇種		用 途 （マル印） レジャー ・ 業務（営業）
ヤマハ拠点名		ヤマハ拠点コード

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項 目	チェック	項 目	チェック
備品 (取扱説明書、整備手帳、 同梱工具、その他)		シフトの入り具合 (F-N-R)	
外観の状態		スロットル (グリップ、レバー) の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		ブローラ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量 (4 サイクルモデル)	
各スイッチ類の作動		オートループシステムの作動 (2 サイクルモデル)	
オートループシステムの確認		高圧ポンプオイル量 (ダイレクトインジェクションモデル)	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	
ブローラサイズ		最高回転数	rpm

[illegible]

販 売 店 名	(販売店 コード) <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 40px;"></td> <td style="width: 20px; height: 40px;"></td> <td style="width: 20px; height: 40px;"></td> <td style="width: 20px; height: 40px;"></td> <td style="width: 20px; height: 40px;"></td> </tr> </table>					

T E L 番 号 : ()

F A X 番 号 : ()

備考（アフターサービス店等ある場合ご記入下さい）

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

ご記入頂いた個人情報項目は、ヤマハ発動機グループ各社（ヤマハ発動機㈱、ヤマハ発動機販売㈱、㈱ワイズギア等）とお買い上げ販売店で共同利用することがあります。

《利用目的》
 保証登録、保証業務、ヤマハ発動機グループ各社、販売店からの製品・販売・サービスイベント等の各種情報提供と市場アンケート調査等の情報収集及びお客様データの統計処理に利用します。

《ご確認項目》
 1) 商品の取扱い説明を受けられましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
 2) 保証内容、整備手帳の説明を受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
 3) 初回点検、定期点検整備についての説明を受けましたか？ 〈 はい、いいえ 〉
 4) ヤマハ発動機グループ各社、ご購入販売店からの各種情報提供を承諾しますか？ 〈 はい、いいえ 〉

* 安全に関わる品質問題が発生した場合には〈いいえ〉とお答えになられたお客様にもご案内させていただきます。

上記内容をご確認の上、下記、ご署名をお願いします。

お客様ご署名	ご署名日 / /
--------	--------------------

* 尚、お客様は、ご本人の情報の開示・訂正・利用停止等を求めることができます。下記へお申し付け下さい。

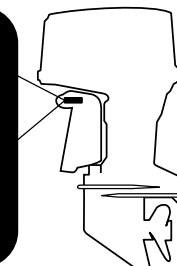
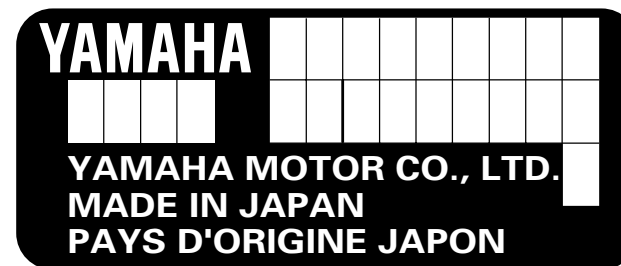
管理責任部署 ヤマハ発動機株式会社
 国内マリン事業部 営業室 電話 053-594-4175

■納入時の記入項目

点検実施者が記入して下さい。

商 品 コ ー ド						
-----------	--	--	--	--	--	--

クランプブラケットの製造番号プレートの番号を転記して下さい。



保証開始日：２０ 年 月 日 （納入日）	～	一般保証満了日：２０ 年 月 日 特別保証満了日：２０ 年 月 日
取付艇種		用 途 （マル印） レジャー ・ 業務（営業）
ヤマハ拠点名		ヤマハ拠点コード

■納入点検項目

※チェック欄への記入：該当する項目で説明が済んだもの或いは点検して良好なものはレ印を記入して下さい。

項 目	チェック	項 目	チェック
備品 (取扱説明書、整備手帳、 同梱工具、その他)		シフトの入り具合 (F-N-R)	
外観の状態		スロットル (グリップ、レバー) の作動	
ロワーケースギヤオイルの量		ブローバ選定	
チルトの作動		エンジンオイル量 (4 サイクルモデル)	
各スイッチ類の作動		オートループシステムの作動 (2 サイクルモデル)	
オートループシステムの確認		高圧ポンプオイル量 (ダイレクトインジェクションモデル)	
パイロットホールからの冷却水の出具合		お客様への取扱い説明	
アイドリング回転数のチェック		ならし運転についての説明	
タコメータの作動		取扱説明書、整備手帳の引渡し	
ブローバサイズ		最高回転数	rpm

保証書

お買いあげいただきました裏面記載の製品に万一不具合がおきました場合にはこの保証書に基づき次の通り保証致します。
なお、この保証は日本国内で使用される当該製品に限り適用致します。

1. 保証の発効

お買いあげいただきました当該製品の保証は、この保証書に弊社の販売店、取扱店が必要事項を記入の上、捺印することにより有効となります。

2. 保証期間

保証期間は、納入日（お客様にお渡しした日）より一般保証1年間又は使用時間200時間、特別部品保証3年間又は使用時間300時間のいずれか先に到達したときまでと致します。特別保証部品はフューエルタンク等の燃料系部品、ステアリングブラケット等の操舵系部品、クランクシャフト等のエンジン部品、ドライブシャフト等の動力伝達系部品、ニュートラルスイッチ等の機能部品の破損に対して適用致します。尚、特別保証部品の詳細につきましては弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店へお問い合わせ下さい。

3. 保証内容

（要件）

次の3つの要件を充すものに限ります。

- (1)保証期間内に、当該製品を構成する弊社純正部品及び指定部品に、材料又は製造上の原因により発生した故障又は破損。
- (2)保証期間内に弊社の販売店、取扱店に届け出の上保証修理が認められたもの。
- (3)購入後1か月目の無償点検が指定されている製品については、その点検済を証する書面を提示すること。

（内容）

(1)この保証書に示す条件に従って、弊社の判断により無償にて当該部品の交換又は補修を行います。

(2)保証修理により取り外した不良部品は、弊社の所有となります。

4. 保証修理の受け方

保証修理の適用を認められたときは、次の手順に従ってください。

- (1)お買いあげの販売店、取扱店又は弊社指定販売店に於いて修理を受けてください。
- (2)その際、登録済の保証書及び3.(3)の書面の提示及び当該故障又は破損物品の提出がないときは、保証修理の対象になりませんのでご注意ください。

5. 保証除外項目

保証期間内でも、次の項目の一つに該当するときは保証修理の対象となりません。（指定外品、天災に起因するもの）

- (1)弊社純正及び指定以外の部品又は材料を使用した為に発生したとみなされる故障又は破損。

(2)天災、地変、公害、航行中又は海送、陸送中の事故、その他弊社の責に帰すことの出来ない事由により発生した故障又は破損。

(3)一般的に機能上影響のない腐食、錆、オイルのにじみ及び感覚的な現象。（音、振動等）

(4)経時変化により発生した塗装、メッキ面等の自然退色、ひび割れ及びこれらに類するもの。

（取扱方法等に起因するもの）

(1)取扱方法、保守方法もしくは保管方法の誤り又は保管場所の不適切によって発生したとみなされる故障又は破損。

(2)日常点検、点検整備、定期交換部品の交換等が実施されていないために発生したとみなされる故障又は破損。

(3)弊社が定める使用制限規定（定員、積載量、馬力等）を超えて使用したために発生したとみなされる故障又は破損。

(4)レースに使用したもの。

(5)弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われたエンジン又は艀装品の取付けによって発生したとみなされる故障又は破損。

(6)弊社指定の販売店、取扱店及びサービス店以外で行われた修理、整備、改造によって発生したとみなされる故障又は破損。

（※）通常の使用状態において消耗するもの（パッキン、オイルシール、プロペラ、プラグ等）は保証修理の対象になりません。

6. 保守、点検、整備

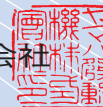
当該製品を安全に御使用いただくために、弊社で定める保守、点検、整備は取扱説明書及び整備手帳に定めるところに従いお客様の責任において実施していただきます。又、これらに要する費用はお客様の負担となります。

7. 保証の継承

保証期間内にある中古製品を購入されたお客様は、保証書に記載されている弊社販売店、取扱店に保証書を提示の上、点検整備（有料）を受けることにより、残余の保証期間を継承することができます。

ヤマハ発動機株式会社

静岡県磐田市新貝2500



YAMAHA